

2021年度

大学院要覧

2021

2021年度

学 年 暦

○は暦上の祝日

授業期間

試験日・予備日

春 学 期

	日	月	火	水	木	金	土
4月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	
5月							1
	2	3	4	5	6	7	8
	9	10	11	12	13	14	15
	16	17	18	19	20	21	22
	23	24	25	26	27	28	29
	30	31					
6月			1	2	3	4	5
	6	7	8	9	10	11	12
	13	14	15	16	17	18	19
	20	21	22	23	24	25	26
	27	28	29	30			
7月					1	2	3
	4	5	6	7	8	9	10
	11	12	13	14	15	16	17
	18	19	20	21	22	23	24
	25	26	27	28	29	30	31
8月	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28
	29	30	31				
9月				1	2	3	4
	5	6	7	8	9	10	11
	12	13	14	15	16	17	18
	19	20	21	22	23	24	25
	26	27	28	29	30		

【4月1日(木)】 入学宣誓式

【4月2日(金)・5日(月)・6日(火)】 新入生オリエンテーション

【4月7日(水)】 春学期授業開始

【4月14日(水)～16日(金)】 履修確認期間

【5月14日(金)】 親和行事のため休講

【6月6日(日)】 開学記念日

【7月22日(木)】 海の日 (授業あり)

【7月23日(金)】 スポーツの日 (授業あり)

【7月27日(火)】 春学期授業終了

【7月28日(水)・29日(木)・30日(金)】 試験日・予備日

【8月2日(月)・3日(火)】 試験日・予備日

【8月12日(木)～18日(水)】 一斉休業 事務取扱していません。

【9月27日(月)】 秋学期授業開始

最新の日程については、[Shinwa Smile.net](http://ShinwaSmile.net) 及び掲示板で確認すること。

○は暦上の祝日

授業期間

試験日・予備日

秋学期								
	日	月	火	水	木	金	土	
10月						1	2	
	3	4	5	6	7	8	9	【10月4日(月)～6日(水)】 履修確認期間
	10	11	12	13	14	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23	
	24	25	26	27	28	29	30	【10月25日(月)】 学園創立記念日 (授業あり)
	31							【10月26日(火)】 追弔会
11月		1	2	③	4	5	6	【11月4日(木)】 学園創立記念日振替日 (授業なし)
	7	8	9	10	11	12	13	【11月5日(金)】 大学祭準備日 (授業なし)
	14	15	16	17	18	19	20	【11月6日(土)・7日(日)】 大学祭
	21	22	⑳	24	25	26	27	
	28	29	30					
12月				1	2	3	4	
	5	6	7	8	9	10	11	
	12	13	14	15	16	17	18	【12月20日(月)】 卒業論文・卒業研究提出締切 (午後1時まで)
	19	20	21	22	23	24	25	【12月25日(土)】 冬期休業開始
	26	27	28	29	30	31		【12月26日(日)～1月5日(水)】 一斉休業 事務取扱していません。
1月							①	【1月7日(金)】 秋学期授業再開
	2	3	4	5	6	7	8	【1月14日(金)】 大学入学共通テスト準備日のため休講
	9	⑩	11	12	13	14	15	【1月14日(金)】 学位論文提出締切日 (心理臨床学専攻)
	16	17	18	19	20	21	22	【1月15日(土)・16日(日)】 大学入学共通テスト (学内立入禁止)
	23	24	25	26	27	28	29	【1月25日(火)】 学位論文提出締切日 (教育学専攻)
	30	31						【1月28日(金)】 秋学期授業終了
								【1月31日(月)】 試験日・予備日
2月			1	2	3	4	5	【2月1日(火)・2日(水)・3日(木)・4日(金)】 試験日・予備日
	6	7	8	9	10	⑪	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	21	22	⑬	24	25	26	
	27	28						
3月			1	2	3	4	5	
	6	7	8	9	10	11	12	
	13	14	15	16	17	18	19	
	20	⑭	22	23	24	25	26	【3月21日(月・祝)】 第53回学位記授与式
	27	28	29	30	31			

秋学期は随時入試が実施されます。
入試実施日は学内立入禁止になりますので、
掲示等で日程を確認してください。

2021年度 大学院要覧

目次

1. 学則および諸規程等	
神戸親和女子大学大学院学則	3
神戸親和女子大学学位規程	6
学校法人親和学園学費規程	7
神戸親和女子大学学生懲戒規程	10
神戸親和女子大学大学院学位論文提出内規	12
神戸親和女子大学大学院文学研究科心理臨床学専攻研究指導内規	12
神戸親和女子大学大学院文学研究科教育学専攻研究指導内規	13
神戸親和女子大学大学院科目等履修生規程	13
神戸親和女子大学大学院生の科目等履修生に関する取扱要領	14
神戸親和女子大学大学院単位認定取扱要領	14
神戸親和女子大学大学院研究生規程	15
神戸親和女子大学研究倫理基準	16
神戸親和女子大学大学院授業料免除規程	17
神戸親和女子大学キャンパス・ハラスメント等防止規程	18
神戸親和女子大学学生の自動車通学等に関する取扱要領	19
神戸親和女子大学大学院文学研究科長期履修学生規程	20
2. 履修要綱・シラバス	
心理臨床学専攻〔2021年度入学生〕	
カリキュラム	21
「臨床心理士」及び「公認心理師」受験資格取得要件科目対応表	23
心理臨床学専攻〔2020年度入学生〕	
カリキュラム	24
「臨床心理士」及び「公認心理師」受験資格取得要件科目対応表	26
シラバス	27
教育学専攻	
カリキュラム	55
「学校心理士」受験資格取得要件科目対応表	57
教育職員免許状について	58
シラバス	59
3. 学生生活等	93
4. 建物配置図	103
研究室一覧	112
直通電話番号	113

1

学則および諸規程等

建学の理念・目的

学校法人親和学園は、明治20年に佐々木祐誓を中心に神戸元町、善照寺内に親和女学校として開校。一旦、閉校されたが、友國晴子が熱意と独力で再興した。その建学の理念・目的は、当時としてはまことに先進的なもので「社会において自立して活躍する女性の育成」にあった。校相友國晴子は「只々一家をもつだけに汲々たるは心ある者の恥するところなれば、折々は世間にも出て公共の事業にも働き、内外とも有用の人と成り遊ばすやうあらまほしう存じ候」と述べ、当時、すでに女性が社会において活躍し有為の人材となることの意義を認識していた。国際社会をも視野に入れたその見識は先見の明に富むものであった。この建学の理念は、以来、今日まで130年有余にわたって、親和女学校を経て、親和中学校、親和女子高等学校、神戸親和女子大学の教学の基本理念として、脈々と継承されている。また、「誠実」「堅忍不拔」「忠恕温和」という校訓も、いわば、人間としての普遍的な生き方を示す教育的価値として、今日まで親和学園の教育を支え続けている。

教育目標

◆心理臨床学専攻

臨床心理士・公認心理師の養成を目的とし、保健医療・福祉・教育・司法・産業の分野において、心理学・臨床心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心身に問題を抱える人々を支援できる人材を育成する。

◆教育学専攻

教育分野において、深広な専門的知識に裏打ちされた豊かな研究能力、高度な実践力及び指導力を備えた教育者を養成する。

修了認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

◆心理臨床学専攻

大学院心理臨床学専攻では、本大学院の教育目的を達成するために設定された科目を履修し、基準となる単位数を修得した上で、本専攻が教育目標として掲げる、以下に示す3つの専門的な資質能力を通じて専門的職業に寄与できる者に対し学位を授与します。

- ①心理臨床に関わる領域あるいはその近接領域に関わる領域の幅広い高度な知識を習得し、活用できる。
- ②心理臨床実践の経験を豊富にもち、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等分野で実践できる。
- ③研究能力を高め、専門的知識に裏付けられた修士論文を作成できる。

◆教育学専攻

大学院教育学専攻では、本大学院の教育目的を達成するために設定された科目を履修し、基準となる単位数を修得した上で、本専攻が教育目標として掲げる、以下に示す3つの専門的な資質能力を通じて専門的職業に寄与できる者に対し学位を授与します。

- ①学校教育を中心に教育が直面するさまざまな課題に適切に対応する高度な専門的知識を修得し、活用できる。
- ②様々な教育現場において豊かな実践力と高度な指導力を備えた教育者となる。
- ③研究能力を高め、専門的知識に裏付けられた修士論文を作成できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

◆心理臨床学専攻

本心理臨床学専攻では、修了認定・学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、専門分野の学問を専門的に深く学ぶための専門教育科目群を体系的に編成し、講義、演習、実習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

（1）教育内容

- ①心理臨床に関わる領域あるいはその近接領域に関わる領域の幅広い高度な知識の習得のため、必修科目として「臨床心理学特論Ⅰ・Ⅱ」、「臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）・Ⅱ」、「臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）・Ⅱ」を配します。また、選択必修科目として臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）」、「臨床心理実習Ⅱ（心理実践実習B）」、「心理学研究法特論」、「心理学統計法特論」、「神経心理学特論」、「学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）」、「認知行動療法特論（心理支援に関する理論と実践）」、「社会心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）」、「対人行動学特論」、「コミュニティ心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）」、「司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）」、「精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）」、「精神保健学特論（心の健康教育に関する理論と実践）」、「福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）」、「心理療法特論」、「発達臨床心理学特論」、「投射法特論」を配します。
- ②心理臨床実践の経験を豊富に持つため、必修科目として「臨床心理基礎実習」、「臨床心理実習Ⅱ」、「相談指導Ⅰ・Ⅱ」を配し、学内（心理・教育相談室）及び学外（病院・施設）での実習を数多く取り入れ、事例の発表と検討（ケースカンファレンス）を通して、実践活動の深化を図ります。
- ③研究能力を高めるため、必修科目として「特別研究Ⅰ・Ⅱ」、「心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」を配し、1年次より集団指導の段階から個別指導へ移行する中で、院生が呈示する研究テーマと研究計画に基づいて、「心理学研究法特論」、「心理学統計法特論」などで習得した専門知識に裏付けられた修士論文の作成を図ります。

（2）教育方法

- ①幅広い専門知識の修得のため、バランスを考え、院生が単位修得に必要な学習時間を確保できるよう必修科目と選択科目を設定します。
- ②心理臨床の実践力を身に付けるため、臨床心理士及び公認心理師に必要な基本的スキルと態度の体得、さらに心理相談業務の把握と実践的技能的修得ができるよう実習内容を設定します。
- ③研究能力を高めるため、1年次前半の集団指導では卒業論文の発表を通じて、研究における科学性と臨床における個性性との関連性について理解を進め、個別指導では各院生の設定したテーマ・研究方法・データ分析の適切性を検討し、各院生が質の高い修士論文を完成できるよう「特別研究」、「心理臨床学演習」を設定します。

(3) 教育評価

- 履修科目の成績評価として、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を活用します。院生が自らの学習成績を的確に把握し、より適正な履修計画を立てることができるように支援します。
- 修士論文の評価は、修士論文ルーブリック評価基準に従い、各評価項目のA評価・B評価・C評価・D評価の程度によって、大学院担当教員の合議の上、決定します。

◆教育学専攻

本教育学専攻は、修了認定・学位授与の基本方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、教育学分野、教育心理学分野、教科教育学・総合学習分野に関する専門的科目群を、深広な学識と研究能力を養えるように体系的に編成し、講義、演習等の教育方法を適切に実施し、実施された教育の評価を行います。

(1) 教育内容

- 豊かな研究能力を養うため、教育学専攻の基本科目を配します。「教育学演習」、「教育心理学演習」、「障害児教育演習」、「日本語教育演習」、「教科教育演習」等が属します。
- 教育学分野の専門的科目群には、教育の本質と目的、内容と方法について教育的に深めることができる科目を配置します。教育的認識を深める科目として、「教育哲学特論」、「道徳教育特論」、「カリキュラム特論」、「教育方法学特論」、「臨床教育学特論」、「教育社会学特論」等の科目を置きます。また、幼児教育の専門知識を深める科目として、「幼児教育学特論」、「幼児教育方法学特論A（基礎）」、「幼児教育方法学特論B（レジュ・エミリア教育）」を置きます。
- 教育心理学分野の専門科目群には、子どもの発達と学習について心理学的に深めることができる科目を配します。心理学的認識を深める科目として、「教育心理学特論」、「発達心理学特論」、「学校心理学特論」、「学校カウンセリング特論」等の科目を置きます。また、「生徒指導特論」、「障害児教育特論」等、教育心理学系の発展科目も配します。
- 教科教育学・総合学習分野の専門科目群には、各教科及び総合学習について学際的に深めることができる科目を配します。教科の教育法を深める教科教育学分野では、「国語科教育特論」、「算数科教育特論」、「英語科教育特論」、「体育科教育特論」等を置きます。また、総合学習分野では、「総合学習特論」を置きます。さらに、「メディア教育特論」、「日本語教育特論」、「生涯福祉特論」、「ホリスティック教育特論」等、教育を学際的に広げ深める科目も配します。
- 教育学分野、教育心理学分野、教科教育学・総合学習分野に関する高度な認識と豊かな教育研究能力を身に付けるために、「英書講読（教育学、教育心理学）」を開きます。
- 専門的な学修と研究の集大成として、修士論文を作成します。そのための探究的な学びの授業として、「特別研究」を置きます。

(2) 教育方法

- 幅広いかつ専門的な知識を修得するため、必修科目と選択必修科目をバランスよく設定し、院生が単位の修得に必要な学修時間を確保できるように設定します。
- 教育学分野、教育心理学分野、教科教育学・総合学習分野のうち、一つの方分野を選び、専門的に学修しますが、他の二つの分野を相補的に学修することによって、体系的に履修することができるようにします。
- 研究能力を高めるため、各演習の授業においては、徹底した個別指導を行います。
- 院生の主体的、探究的な学びを推進するため、アクティブ・ラーニングの方法を取り入れた授業を展開します。
- 小学校教諭専修免許状、幼稚園教諭専修免許状、学校心理士資格を取得できるような教育課程を配列します。また、学部の授業科目を科目等履修生として履修することによって、日本語教員資格を取得できるようにします。

(3) 教育評価

- 履修科目の成績評価として、GPA（グレード・ポイント・アベレージ）制度を活用します。院生が自らの学修成績を的確に把握し、より適正な履修計画を立てることができるように支援します。
- 修士論文の評価は、主査、副査によって行います。

入学者の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）

◆心理臨床学専攻

心理臨床学専攻では、学部における教育に関する一般的及び専門的教養の基礎の上に、心理学を教授し、深広な学識と研究能力を養うとともに、心理学に関する高度な専門的知識を有する臨床心理士及び公認心理師の育成を目的としています。

院生には、広汎で多様な専門科目の習得を求めています。また、そのために、基礎学力や一般教養をはじめ、人間に対する強い探究心と深い理解力、豊かな共感性を求めています。

そのため、臨床心理士及び公認心理師になりたいという強い意志があり、同時に、次のような人に入学してほしいと考えています。

- 心理学に関する専門的教養を身に付けている人。
- 研究に対する積極性と臨床実践への熱意を持った人。
- 臨床心理士及び公認心理師として生涯学習と自己成長に向けて努力する人。

◆教育学専攻

教育学専攻では、学部における教育に関する一般的及び専門的教養の基礎の上に、教育学を教授し、深広な学識と研究能力を養うとともに、教育に関する高度な専門的知識を有する職業人の育成を目指します。

院生には、主体的、探求的な学びに向け、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた学びに積極的に参加することを求めています。また、教育に関する様々な科目について、学際的な履修を求めています。

そのため、次のような人に入学してほしいと考えています。

- 教育に関する専門的教養を身に付けている人。
- 教育に関する高度な理論的・実践的研究に取り組む意欲を持った人。
- 教育に関わる職業人を目指す意志を持つ人。

神戸親和女子大学大学院学則

平成13年5月24日 制定
最新改正 令和3年2月19日

第1章 総則

第1条 本大学院は、神戸親和女子大学学則（昭和41年4月1日制定。以下「学則」という。）第2条の2の規定に基づき、学部における一般的及び専門的教養の基礎の上に、専門の学科を教授研究し、深広な学識と研究能力を養うとともに、高度な専門的知識を有する職業人を養成することを目的とする。

第2条 本大学院は、その教育研究の水準の向上を図り、前条に掲げる教育目的及び社会的使命を達成するため、本大学院の教育研究活動等の状況について自ら点検及び評価を行う。

第3条 本大学院に文学研究科を置き、男女共学で教育を行う次の課程及び専攻を置く。

研究科名	課程	専攻名
文学研究科	修士課程	心理臨床学専攻 教育学専攻

2 各専攻の教育目標を定める。

ア 心理臨床学専攻

臨床心理士・公認心理師の養成を目的とし、保健医療・福祉・教育・司法・産業の分野において、心理学・臨床心理学に関する専門的知識及び技術をもって、心身に問題を抱える人々を支援できる人材を育成する。

イ 教育学専攻

教育分野において、深広な専門的知識に裏打ちされた豊かな研究能力、高度な実践力及び指導力を備えた教育者を養成する。

第4条 本大学院学生の定員は、次のとおりとする。

研究科名	専攻名	入学定員	収容定員
文学研究科	心理臨床学専攻	15名	30名
	教育学専攻	20名	40名
	計	35名	70名

第5条 本大学院修士課程の標準修業年限は2年とし、学生は標準修業年限の3倍を超えて在学することはできない。

2 前項の規定にかかわらず、第13条第3項及び第4項の規定により、計画的な履修を認められた学生の在学期間は別に定める。

第2章 学年、学期及び休業日

第6条 本大学院の学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第7条 本大学院の学年を次のとおり2学期に分ける。

- (1) 春学期は、4月1日から9月30日までとする。
- (2) 秋学期は、10月1日から翌年3月31日までとする。

第8条 本大学院の休業日は、次のとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- (3) 大学開学記念日（6月6日）及び親和学園創立記念日（10月25日）。ただし、これらの日が日曜日に当たるときは、その翌日を休業日とする。
- (4) 夏期休業日 8月1日から9月30日まで
- (5) 冬期休業日 12月25日から翌年1月7日まで
- (6) 春期休業日 3月10日から3月31日まで

2 学長が必要があると認めるときは、休業日を変更し、又は臨時休業日を定めることができる。

3 特別の事情がある場合は、休業中でも授業、実験又は実習を行うことができる。

第3章 教育課程及び授業科目

第9条 本大学院の教育は、授業科目の授業及び学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

2 研究科の授業の単位の基準は、学部の授業の単位の基準に準ずる。

第10条 各専攻における大学院研究指導教員のうちから各学生の研究指導を担当する指導教員（以下「指導教員」という。）を定める。

第11条 研究科における専修科目（必修及び選択必修科目）以外の授業科目は、指導教員の指示に従って当該研究科の授業科目のうちから選択履修しなければならない。

2 前項の規定にかかわらず、指導教員が当該学生の研究上特に必要と認めた場合に限り、研究科委員会の承認を得て、本大学院に入学する前に大学院において修得した単位を当該研究科修士課程において修得した単位として認定することができる。ただし、その単位数は、10単位を超えないものとする。

3 前項に関する事項は、別にこれを定める。

第11条の2 教育上有益と認めるときは、他の大学院との協定に基づき、学生に当該他の大学院の授業科目を履修させることがある。

2 前項の規定により修得した単位は、前条第2項と合わせて10単位を超えない範囲で当該研究科修士課程において修得した単位として認定することができる。

3 第1項及び前項に関する事項は、別にこれを定める。

第12条 文学研究科修士課程各専攻における授業科目及びその単位数は、別表のとおりとする。

第13条 学生は、入学後所定の期日内に各専攻における大学院研究指導教員のうちから指導教員を定め、その指導のもとに授業科目の選択及び学位論文の作成などを行うものとする。

2 修士課程の必要修得単位数は、心理臨床学専攻は34単位、教育学専攻は32単位とし、必修科目（心理臨床学専攻24単位、教育学専攻10単位）を履修し、さらに選択科目又は他専攻の授業科目のうちから心理臨床学専攻は10単位以上、教育学専攻は22単位以上を履修しなければならない。ただし、他専攻の授業科目は4単位以内とする。

3 教育学専攻において、学生が職業を有している等の事情により、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。

4 前項の規定により計画的な履修を認められた学生（以下「長期履修学生」という。）に関する規程は、別にこれを定める。

第14条 本大学院において教育職員免許状を取得しようとする者は、研究科配当の関係科目の中から教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び教育職員免許法施行規則（昭和29年文部省令第26号）等に定める必要単位数を修得しなければならない。

第15条 本大学院において取得できる教育職員免許状の種類は次のとおりとする。

- (1) 文学研究科（教育学専攻）
 - ア 小学校教諭専修免許状
 - イ 幼稚園教諭専修免許状

第4章 課程修了の認定及び修士学位

- 第16条** 本大学院修士課程に2年以上在学し、所定の授業科目について心理臨床学専攻は34単位、教育学専攻においては32単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文の審査及び最終試験に合格することを同課程の修了要件とする。ただし、在学期間に関しては、優れた業績を上げた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。
- 2 学位論文・最終試験については、別にこれを定める。
 - 3 本大学院において研究科の課程を修了した者に、修士の学位を授与する。
 - 4 学位に関する規程は、別にこれを定める。

第5章 入学、編入学及び進学

- 第17条** 本大学院に入学して修士課程を修め得る者の資格は、次のとおりとする。
- (1) 学士の学位を有する者又は大学を卒業した者
 - (2) 大学に3年以上在学し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと研究科において認められた者
 - (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - (4) 外国において、学校教育における15年の課程を修了し、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと研究科において認められた者
 - (5) 大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
 - (6) 文部科学大臣の指定した者
- 第18条** 本大学院修士課程への編入学については、研究科は、他の大学院の修士課程を1学期間以上修了した者から、本大学院に編入学の願い出がある場合、審査の上これを許可することができる。
- 2 編入学者の修業年限及び在学年限については、第5条及び第16条の規定を基準に当該学生の入学前の課程を勘案し、研究科で決定する。
- 第19条** 本大学院の入学時期は、毎年4月及び10月とする。
- 2 本大学院に入学を志願する者は、所定の手続を行うものとする。
 - 3 前項の志願者については、所定の選抜試験を行い、許可又は不許可を決定する。
 - 4 入学に関する手続は、別にこれを定める。

第6章 留学、休学、転学及び退学

- 第20条** 外国の大学院等に留学を希望するものは、学長に願い出て許可を得なければならない。
- 2 研究科は、当該学生が留学先大学院等で修得した単位については、第11条の規定を準用し、研究科において修得した単位として認定することができる。
 - 3 留学の期間は、1学期間又は2学期間としその期間を本学における在学年数に算入することができる。
 - 4 留学に関する規程は、別にこれを定める。
- 第21条** 病気その他の事由によって休学し、又は退学しようとする者は、保証人連署の上願い出なければならない。ただし、休学の期間は原則として通算2年以内とし、2年を経過してなお復学し、又は退学しない場合は除籍される。
- 2 休学期間中は、在学期間に算入しない。
 - 3 第1項の規定により休学、退学した者又は除籍された者が、その復学又は再入学を願い出たときは、研究科委員会の議を経てこれを許可することができる。ただし、休学した者が復学しようとする場合は、原則として休学期間満了前に復学を願い出るものとし、退学した者又は除籍された者が再入学しよ

うとする場合は、退学又は除籍の日から2年以内に再入学を願い出るものとする。

- 第22条** 本大学院から他の大学院に転学する者は、所定の手続を行わなければならない。

第7章 学費

- 第23条** 本大学院の授業料、入学金その他学費に関する規程は、別にこれを定める。
- 2 授業料その他学費を納入しない者は、別に定める規程によって除籍する。

第8章 研究生、委託生、科目等履修生、特別科目等履修生、特別学生及び短期留学生

- 第24条** 本大学院において、特定の専門事項について研究しようとする者があるときは、選考の上研究生としてこれを許可することができる。研究生に関する規程は、別にこれを定める。
- 2 公共団体又はその他の機関から本大学院の特定授業科目について修学を委託される者があるときは、選考の上委託生としてこれを許可することができる。
- 第25条** 研究科は、特定の授業科目又は複数科目からなるコースの履修及び単位の修得を希望する者に対し、選考の上科目等履修生としてこれを許可することができる。
- 2 科目等履修生の履修し得る授業科目の科目数及び単位数は、研究科の定めるところによる。
 - 3 研究科は、科目等履修生が履修した授業科目の試験を受け、合格したときは所定の単位を与えるものとする。
- 第25条の2** 研究科は、本学と教学に関する協定のある大学院の学生で、当該大学院の推薦のある者が協定に基づく科目等履修を希望するときは、特別科目等履修生として履修を許可することができる。
- 2 特別科目等履修生に関する事項は、別にこれを定める。
- 第26条** 第17条の資格を有する者は、研究科に欠員がある場合に限り選考の上、特別学生として入学を許可することができる。ただし、入学後成績が特に優秀な者は、研究科委員会の決定により正規の学生とすることができる。
- 2 特別学生が修士の学位を授与されるためには、正規の学生となってから1学期間以上の在学期間を必要とする。
- 第27条** 研究科は、外国の大学の大学院等から要請があり、当該学生の教育上及び研究上有益であると認めた場合は、短期留学生として入学を許可することができる。
- 第28条** この章に定めるもののほか、委託生、科目等履修生、特別学生及び短期留学生については、本学則の他の各章の規定を準用する。
- 2 特別科目等履修生については、協定に定めのない場合は、本学則の他の各章の規定を準用する。

第9章 教員及び運営組織

- 第29条** 本大学院における授業及び研究指導を担当する教員は、大学院設置基準（昭和49年文部省令第28号）に規定する資格に該当する本学の教授、准教授、専任講師及び助教をもってこれに充てる。
- 第29条の2** 本大学院に研究科長を置く。研究科長は、学長をもってこれに充てる。
- 2 各専攻に専攻主任を置く。専攻主任の候補者選考に関する事項については、別にこれを定める。
- 第30条** 本大学院研究科運営のために、学則第45条第2項に基づき研究科委員会を置く。
- 2 研究科委員会に関する規程については、次条を除き別にこれを定める。
- 第31条** 研究科委員会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うにあたり審議し、意見を述べるものとする。

- (1) 学生の入学、卒業及び課程の修了に関する事項
- (2) 学位の授与に関する事項
- (3) 前2号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、研究科委員会の意見を聴くことが必要なものとして学長が定めるものとする。

2 研究科委員会は、前項に規定するもののほか、研究科長、専任主任（以下この項において「研究科長等」という。）がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、及び研究科長等の求めに応じ審議し、意見を述べるができる。

第32条 大学院事務の執行は、大学の事務組織がこれに当たる。

第10章 研究指導施設

第33条 本大学院に、学生研究室及び演習室を置く。

2 本大学の心理・教育相談室、附属図書館、学習教育総合センター、地域連携センター、教職課程・実習支援センター及び保健室等の施設は、必要に応じ大学院学生の研究指導及び保健医療のために使用することができる。

別表（第12条関係）

別表1 心理臨床学専攻

授業科目	単 位	
	必修	選択
心理臨床学演習Ⅰ	1	
心理臨床学演習Ⅱ	1	
心理臨床学演習Ⅲ	1	
心理臨床学演習Ⅳ	1	
特別研究Ⅰ	1	
特別研究Ⅱ	1	
臨床心理学特論Ⅰ	2	
臨床心理学特論Ⅱ	2	
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	
臨床心理面接特論Ⅱ	2	
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	
臨床心理査定演習Ⅱ	2	
臨床心理基礎実習	2	
臨床心理実習Ⅱ	2	
相談指導Ⅰ	1	
相談指導Ⅱ	1	
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）		2
臨床心理実習Ⅱ（心理実践実習B）		8
心理学研究法特論	2	
心理学統計法特論	2	
神経心理学特論	2	
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	
認知行動療法特論（心理支援に関する理論と実践）	2	
社会心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	
対人行動学特論	2	
コミュニティ心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	
司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	
精神保健学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2	
福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	
心理療法特論	2	
発達臨床心理学特論	2	
投映法特論	2	

別表2 教育学専攻

授業科目	単 位	
	必修	選択
教育学演習Ⅰ	2※	
教育学演習Ⅱ	2※	
教育学演習Ⅲ	2※	
教育学演習Ⅳ	2※	
教科教育演習Ⅰ	2※	
教科教育演習Ⅱ	2※	
教科教育演習Ⅲ	2※	
教科教育演習Ⅳ	2※	
日本語教育演習Ⅰ	2※	
日本語教育演習Ⅱ	2※	
日本語教育演習Ⅲ	2※	
日本語教育演習Ⅳ	2※	
生涯福祉演習Ⅰ	2※	
生涯福祉演習Ⅱ	2※	
生涯福祉演習Ⅲ	2※	

第11章 賞罰

第34条 学業優秀、品行方正にして他の模範となる者は、これを表彰することができる。

第35条 本学則又は規則に背き、その他学生の本人にもとる行為があるときは、学長は教授会の意見を聴いて、これに懲戒を加えることができる。

2 懲戒に関する規程については、別にこれを定める。

<省 略>

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

授業科目	単 位	
	必修	選択
生涯福祉演習Ⅳ	2※	
教育心理学演習Ⅰ	2※	
教育心理学演習Ⅱ	2※	
教育心理学演習Ⅲ	2※	
教育心理学演習Ⅳ	2※	
障害児教育演習Ⅰ	2※	
障害児教育演習Ⅱ	2※	
障害児教育演習Ⅲ	2※	
障害児教育演習Ⅳ	2※	
特別研究Ⅰ	1	
特別研究Ⅱ	1	
(教育学分野)		
教育哲学特論		2
道徳教育特論		2
カリキュラム特論		2
教育方法学特論		2
教育社会学特論		2
教育行政学特論		2
臨床教育学特論		2
幼児教育学特論		2
幼児教育方法学特論A（基礎）		2
幼児教育方法学特論B（レジャ・エミリア教育）		2
英書講読（教育学）		2
(教科教育学・総合学習分野)		
国語科教育特論		2
算数科教育特論		2
理科教育特論		2
英語科教育特論		2
体育科教育特論A		2
体育科教育特論B		2
総合学習特論		2
メディア教育特論		2
ホリスティック教育特論		2
日本語教育特論		2
日本語学特論		2
海外教育実習		6※1
生涯福祉特論		2
(教育心理学分野)		
教育心理学特論		2
学校心理学特論		2
発達心理学特論		2
生徒指導特論		2
学校カウンセリング特論		2
学校心理臨床特論		2
心理教育アセスメント特論		2
教育研究法特論		2
障害児教育特論		2
身体教育学特論		2
英書講読（教育心理学）		2

※は選択必修とし、「教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）「教科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）「日本語教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）「生涯福祉演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）「教育心理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）「障害児教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各2単位）のうちから1演習を修得すること。

※1は修了要件に含めない。

備考：「学校カウンセリング特論」及び「心理教育アセスメント特論」は、実習を含む。

神戸親和女子大学学位規程

平成13年5月24日 制定

(趣 旨)

第1条 学校教育法(昭和22年法律第26号)第68条の2及び学位規則(昭和28年文部省令第9号)の規定に基づき神戸親和女子大学(以下「本学」という。)において授与する学位については、神戸親和女子大学学則(昭和41年4月1日制定)及び神戸親和女子大学大学院学則(平成13年5月24日制定)に定めるところによるほか、この規程の定めるところによる。

(学位の授与)

第2条 本学において授与する学位は、学士及び修士とする。

(学士の学位授与の要件)

第3条 学士の学位は、本学を卒業した者に授与する。

(修士の学位授与の要件)

第4条 修士の学位は、本学大学院修士課程を修了した者に授与する。

(修士の学位の申請)

第5条 修士の学位を申請する者は、所定の申請書に修士学位申請論文(以下「修士論文」という。)4部を添えて、学生サービスセンター事務局大学院担当を通じて研究科長に提出するものとする。

第6条 修士論文を提出し得る期間は5年以内とし、同提出期限は、別に定める。

(修士論文の審査及び試験)

第7条 研究科委員会が修士論文を受理したときは、次の手続によって、修士学位授与に関する議決をしなければならない。

(1) 研究科委員会は、大学院研究指導教員の中から主査1名、副査2名の論文審査委員を選定する。ただし、研究科委員会が必要と認めるときは、上記の論文審査委員のうち副査1名を研究科委員会以外の者から選定することができる。

(2) 論文審査委員は論文審査を行い、最終試験を行う。最終試験は、論文提出者が広い視野に立ち、専攻の学問分野について精深な学識と研究をする能力を有することを確認するため、提出論文を中心に、これに関連ある研究領域につき、口頭試問によってこれを行う。

(3) 論文の審査基準及び最終試験実施要項については別にこれを定める。

(4) 成績は、論文評価及び最終試験評価による総合評価とし、主査が副査の意見を徴して決定する。成績の表示は、優・良・可・不可をもってする。

(5) 論文審査委員は、論文審査及び最終試験の結果を研究科委員会に報告するものとする。

(6) 研究科委員会において修士学位授与の議決をするためには、その3分の2以上が出席し、出席者の3分の2以上の議決を要する。

(学位記)

第8条 学長は、教授会又は研究科委員会において、学位の授与を決定された者に、別記様式の学位記を授与する。

2 学士及び修士の学位記の授与の時期は、毎年3月及び9月とする。

(専攻分野の名称)

第9条 本学において授与する学位には、専攻分野の名称を付記するものとし、その名称は別表のとおりとする。

(学位の名称)

第10条 本学から学位を授与された者が学位の名称を用いる場合には、本学の名称を付記しなければならない。

(学位の取得)

第11条 不正の方法によって学位を授与された事実が判明したとき、又は学位を授与された者にその栄誉を汚辱する行為があったときは、学長は次に規定する各機関の議を経て学位を取り消し、学位記を返付させる。

(1) 学士の学位にあつては教授会

(2) 修士の学位にあつては研究科委員会

2 前項の規定による議決をするためには、構成員の3分の2以上が出席し、出席者の4分の3以上の議決を要する。

(規程の改廃)

第12条 この規程の改廃は、教授会及び研究科委員会において決定する。ただし、学士の学位に関する条項については教授会、修士の学位に関する条項については研究科委員会において決定する。

<省 略>

附 則

この規程は、平成26年12月9日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

別表(第9条関係)

学位に付記する専攻分野の名称

1. 学士学位

学 部	学 科	名 称
文学部	国際文化学科 心理学科	文 化 学 心 理 学
発達教育学部	児童教育学科 福祉臨床学科 ジュニアスポーツ教育学科	児 童 教 育 学 社 会 福 祉 学 ス ポー ツ 教 育 学

2. 修士学位

研究科	専 攻	名 称
文学研究科	心理臨床学専攻 教育学専攻	心 理 学 教 育 学

別記様式(第8条関係)

1. 第3条の規定による学士の学位記の様式

2. 第4条の規定による修士の学位記の様式

証第 号	号
学士学位記	修士学位記
氏名	氏名
年 月 日 生	年 月 日 生
本学〇〇学部〇〇学科の課程を修め本学を卒業したので学士(〇〇〇)の学位を授与する	本学大学院文学研究科〇〇専攻の修士課程を修了したので修士(〇〇〇)の学位を授与する
年 月 日	年 月 日
神戸親和女子大学長 ㊟	神戸親和女子大学長 ㊟

証第 号	号
学士学位記	修士学位記
氏名	氏名
年 月 日 生	年 月 日 生
本学〇〇学部〇〇学科の課程を修め本学を卒業したので学士(〇〇〇)の学位を授与する	本学大学院文学研究科〇〇専攻の修士課程を修了したので修士(〇〇〇)の学位を授与する
年 月 日	年 月 日
神戸親和女子大学長 ㊟	神戸親和女子大学長 ㊟

学校法人親和学園学費規程

平成13年9月28日 制定
最新改正 令和3年3月19日

所定の期日までに分納願を提出し、学長の許可を得なければならぬ。

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人親和学園（以下「法人」という。）が設置する各学校の学費及びその他の納付金について必要な事項を定めるものとする。ただし、神戸親和女子大学通信教育部に係る学費及びその他の納付金については、神戸親和女子大学通信教育部規程（平成17年9月2日制定）に定める。

(学費)

第2条 神戸親和女子大学（以下「大学」という。）及び神戸親和女子大学大学院（以下「大学院」という。）における学費とは、入学金、再入学金、転籍料、授業料、施設設備充実費、聴講料、科目等履修登録料、科目等履修授業料、研究生登録料及び研究指導料をいう。

2 親和女子高等学校及び親和中学校（以下「高等学校及び中学校」という。）における学費とは、入学金並びに授業料、施設整備費及び教育充実費をいう。

(その他の納付金)

第3条 大学におけるその他の納付金とは、手数料及び法人が徴収の委託を受けた諸会費をいう。

2 高等学校及び中学校におけるその他の納付金とは、手数料及び法人が徴収の委託を受けた諸会費をいう。

(学費等の返還)

第4条 いったん納入した学費及び手数料は、返還しない。ただし、別に定めるところに従い、免除された授業料等についてはこの限りでない。

2 前項の規定にかかわらず、法人が設置する各学校に入学を許可された者が別に定めるところにより、入学辞退を申し出た場合は、その請求により入学金を除く授業料その他の納付金を返還する。

第2章 神戸親和女子大学及び神戸親和女子大学大学院

(学費等の金額)

第5条 学費の金額は、別表第1に定める。

2 手数料の金額は、別表第3に定める。

(納入期日)

第6条 別表第1に定める学費は、毎年これを春学期及び秋学期の2回に分けて、次の期間中に納入しなければならない。

春学期 4月11日から5月10日まで（外国人留学生は5月31日まで）

秋学期 9月1日から10月10日まで

2 新入学生（編入学を含む。）の入学時における学費は、別に定める期日までに納入しなければならない。

3 手数料は、その都度納入しなければならない。

(延納)

第7条 前条第1項の期日までに学費の納入ができない者は、所定の期日までに延納願を提出し、学長の許可を得なければならない。

2 延納を許可された者は、次の期日までに納入しなければならない。

春学期 7月31日

秋学期 1月31日

(分納)

第8条 第6条第1項の期日までに学費の納入ができない者は、

2 分納の金額は、別に定める。

3 分納を許可された者は、次に定める期日までに納入しなければならない。

	第1回	第2回	第3回
春学期	5月31日	6月30日	7月31日
秋学期	11月30日	12月20日	1月31日

4 分納を許可された者が、前項に定める期日までに納入しないときは、その翌日をもって分納の許可を取り消す。

(学費を滞納した者)

第9条 所定の期日までに学費を納入しなかった者は、指定された期日までに別表第3に定める延滞料及び滞納学費を納入しなければならない。

2 前項の指定された納入期日は、次のとおりとする。

春学期 8月31日

秋学期 2月28日

3 前項に規定する納入期日までに延滞料及び滞納学費を納入しなかった者は、神戸親和女子大学学則（昭和41年4月1日制定）第29条又は神戸親和女子大学大学院学則（平成13年5月24日制定）第23条第2項の規定により除籍となる。

(休学中の学費)

第10条 休学中の学費は、徴収しない。

2 休学を許可された者は、別表第3に定める休学在籍料を許可された日から2週間以内に納入しなければならない。

3 休学を許可された者が、前項に定める休学在籍料を納入しないときは、休学許可を取り消す。

(復学者の学費)

第11条 休学して復学を許可された者は、その期に属する学費を指定された期日までに納入しなければならない。

(再入学者の学費等)

第12条 再入学を許可された者は、許可された日から2週間以内に別表第1に定める再入学金その他所定の学費を納入しなければならない。

(停学中の学費)

第13条 停学中の者は、学費を納入しなければならない。

(聴講生)

第14条 聴講生の検定料及び聴講料の金額は、別表第1及び別表第3に定める。

2 聴講料は、別に定める期日までに納入しなければならない。

3 継続して聴講する場合は、検定料を免除する。

(科目等履修生)

第15条 科目等履修生の検定料、登録料及び授業料の金額は、別表第1及び別表第3に定める。

2 科目等履修料は、別に定める期日までに納入しなければならない。

3 継続して科目等履修する場合は、検定料を免除する。

(外国人留学生)

第16条 学部及び大学院における外国人留学生の学費は、第5条の規定を準用する。

(大学院の外国人短期留学生)

第17条 大学院における外国人短期留学生の学費の金額は、別に定める。

(大学院の委託生及び特別学生)

第18条 大学院における委託生及び特別学生の検定料及び学費の金額は、別表第1及び別表第3に定める。

(大学院の研究生)

第18条の2 大学院の研究生の検定料、登録料及び研究指導料の金額は、別表第1及び別表第3に定める。

(修業年限を超えた者の学費)

- 第19条 大学院において、所定の期間在学し、所定の単位を修得した者が、学位論文提出のために在学するときの学費は、最終年次に適用していた学費の3分の1とする。なお、1,000円未満は切り捨てる。
- 2 学部において、所定の修業年限を超えた者が引き続き在学するときの当該学期の学費は、卒業要件単位に不足する単位数が10単位以下の場合、その期に納付すべき学費の半額とする。

第3章 親和女子高等学校及び親和中学校

<省略>

第4章 補則

(入学金の取扱特例)

- 第24条 本法人の設置する学校間における進学の場合及び、大学入学試験要項に定めるF推薦入試(以下、F推薦という)における入学者の場合、その者の入学金を次のとおり免除する。ただし、大学に進学する者で複数事項に該当した場合は、いずれかひとつの該当事項を適用する。

該当事項	入学金免除額
(1) 大学学部を卒業して、大学院へ進学する者	全額
(2) 大学学部を卒業して、他学科へ進学する者	半額
(3) 高等学校を卒業して、大学へ進学する者	全額
(4) F推薦で合格し、大学へ進学する者	全額

第24条の2

<省略>

(手数料等)

- 第25条 この規程に定める以外の手数料等については、別に定める。

附則

- 1 この規程は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 再入学、編入学者の学費等の取扱細則は、この規程の施行の日をもって廃止する。

附則

<省略>

附則

- この規程は、令和3年4月1日から施行する。
- 別表第1(第5条、第6条、第12条、第14条、第15条、第16条、第18条の2関係)

(その1)

大学及び大学院学費(平成17年4月1日以降、平成19年4月1日以前の入学者に適用)

<省略>

(その2)

大学及び大学院学費(平成20年4月1日以降、平成26年4月1日以前の入学者に適用)

<省略>

- (1) 入学前に長期履修が許可された場合
大学院学則に定める標準修業年限である2年間に納付すべき金額(授業料900,000円、教育充実費300,000円)を許可された修業年限の数で除した額とする。
- (2) 入学後に長期履修が許可された場合又は修業年限の短縮が許可された場合

前号に定める納付すべき金額から納付済みの金額を減じた金額を許可された修業年限の残年数で除した額とする。

- (3) 許可された修業年限を超えて在学する場合
ア 上記表に規定する額とする。
イ 第19条第1項の規定にかかわらず、所定の期間在学し、所定の単位数を修得した者が、学位論文提出のために在学するときの学費は、授業料150,000円、教育充実費50,000円とする。

(その3)

大学及び大学院学費(平成27年4月1日以降、平成31年10月1日以前の入学者に適用)

種別	金額(単位:円)	
	大学院	学部
入学金	200,000	300,000 編入学 150,000
授業料	450,000(各期1/2)	800,000(各期1/2)
施設設備充実費		総合文化・児童教育・心理・福祉臨床学科 100,000(各期1/2) ジュニアスポーツ教育学科 150,000(各期1/2) (姉が法人の大学学部にて在学中の場合、妹は不要)
教育充実費	心理臨床学専攻 250,000(各期1/2) 教育学専攻 150,000(各期1/2)	総合文化・心理学科 180,000(各期1/2) 児童教育・福祉臨床学科 210,000(各期1/2) ジュニアスポーツ教育学科 260,000(各期1/2)
再入学金	30,000	
転籍料		2年次 225,000 3年次 150,000
聴講料	1単位 5,000	
科目等履修登録料	10,000 (継続の場合並びに学部にて在籍中の者が大学院の授業科目を履修する場合及び大学院にて在籍中の者が学部の授業科目を履修の場合は不要)	
科目等履修授業料	1単位 10,000 (学部にて在籍中の者が大学院の授業科目を履修する場合及び大学院にて在籍中の者が学部の授業科目を履修の場合は1単位1,000)	
研究生登録料	10,000 (本大学院修了者は不要)	
研究指導料	50,000(各期1/2)	

- ※1 学費は、経済事情の変動によって在学中変更することがある。
- 2 大学院教育学専攻における長期履修学生の授業料及び教育充実費の年額は、次のとおりとする。
- (1) 入学前に長期履修が許可された場合
大学院学則に定める標準修業年限である2年間に納付すべき金額(授業料900,000円、教育充実費300,000円)を許可された修業年限の数で除した額とする。
- (2) 入学後に長期履修が許可された場合又は修業年限の短縮が許可された場合
前号に定める納付すべき金額から納付済みの金額を減じた金額を許可された修業年限の残年数で除した額とする。
- (3) 許可された修業年限を超えて在学する場合
ア 上記表に規定する額とする。
イ 第19条第1項の規定にかかわらず、所定の期間在学し、所定の単位数を修得した者が、学位論文提出のために在学するときの学費は、授業料150,000円、教育充実費50,000円とする。

(その4)

大学及び大学院学費（平成32年4月1日以降、令和2年10月1日以前の入学者に適用）

種別	金額(単位:円)	
	大学院	学部
入学金	200,000	230,000 編入学 115,000
授業料	450,000 (各期1/2)	870,000 (各期1/2)
施設設備充実費		総合文化・児童教育・心理学科 100,000 (各期1/2) ジュニアスポーツ教育学科 180,000 (各期1/2) (姉が法人の大学学部 に在学中の場合、妹は不要)
教育充実費	心理臨床学専攻 250,000 (各期1/2) 教育学専攻 150,000 (各期1/2)	総合文化・心理・ ジュニアスポーツ教育学科 200,000 (各期1/2) 児童教育学科 210,000 (各期1/2)
再入学金	30,000	
転籍料		2年次 225,000 3年次 150,000
聴講料	1単位 5,000	
科目等履修登録料	10,000 (継続の場合並びに学部 に在籍中の者が大学院 の授業科目を履修する 場合及び大学院に在籍 中の者が学部の授業科 目を履修する場合は不 要)	
科目等履修授業料	1単位 10,000 (学部 に在籍中の者が大学院 の授業科目を履修する 場合及び大学院に在籍 中の者が学部の授業科 目を履修する場合は1 単位1,000)	
研究生登録料	10,000 (本大学院修了者は不 要)	
研究指導料	50,000 (各期1/2)	

※1 学費は、経済事情の変動によって在学中変更することがある。

2 大学院教育学専攻における長期履修学生の授業料及び教育充実費の年額は、次のとおりとする。

- (1) 入学前に長期履修が許可された場合
大学院学則に定める標準修業年限である2年間に納付すべき金額（授業料900,000円、教育充実費300,000円）を許可された修業年限の数で除した額とする。
- (2) 入学後に長期履修が許可された場合又は修業年限の短縮が許可された場合
前号に定める納付すべき金額から納付済みの金額を減じた金額を許可された修業年限の残年数で除した額とする。
- (3) 許可された修業年限を超えて在学する場合
ア 上記表に規定する額とする。
イ 第19条第1項の規定にかかわらず、所定の期間在学し、所定の単位数を修得した者が、学位論文提出のため在学するときの学費は、授業料150,000円、教育充実費50,000円とする。

(その5)

大学及び大学院学費（令和3年4月1日以降の入学者に適用）

種別	金額(単位:円)	
	大学院	学部
入学金	200,000	230,000 編入学 115,000
授業料	450,000 (各期1/2)	870,000 (各期1/2)
施設設備充実費		国際文化・心理・児童教育学科 100,000 (各期1/2) ジュニアスポーツ教育学科 180,000 (各期1/2) (姉が法人の大学学部 に在学中の場合、妹は不要)

種別	金額(単位:円)	
	大学院	学部
教育充実費	心理臨床学専攻 250,000 (各期1/2) 教育学専攻 150,000 (各期1/2)	国際文化・心理・ ジュニアスポーツ教育学科 200,000 (各期1/2) 児童教育学科 210,000 (各期1/2)
再入学金	30,000	
転籍料		2年次 225,000 3年次 150,000
聴講料	1単位 5,000	
科目等履修登録料	10,000 (継続の場合並びに学部 に在籍中の者が大学院 の授業科目を履修する 場合及び大学院に在籍 中の者が学部の授業科 目を履修する場合は不 要)	
科目等履修授業料	1単位 10,000 (学部 に在籍中の者が大学院 の授業科目を履修する 場合及び大学院に在籍 中の者が学部の授業科 目を履修する場合は1 単位1,000)	
研究生登録料	10,000 (本大学院修了者は不 要)	
研究指導料	50,000 (各期1/2)	

※1 学費は、経済事情の変動によって在学中変更することがある。

2 大学院教育学専攻における長期履修学生の授業料及び教育充実費の年額は、次のとおりとする。

- (1) 入学前に長期履修が許可された場合
大学院学則に定める標準修業年限である2年間に納付すべき金額（授業料900,000円、教育充実費300,000円）を許可された修業年限の数で除した額とする。
- (2) 入学後に長期履修が許可された場合又は修業年限の短縮が許可された場合
前号に定める納付すべき金額から納付済みの金額を減じた金額を許可された修業年限の残年数で除した額とする。
- (3) 許可された修業年限を超えて在学する場合
ア 上記表に規定する額とする。
イ 第19条第1項の規定にかかわらず、所定の期間在学し、所定の単位数を修得した者が、学位論文提出のため在学するときの学費は、授業料150,000円、教育充実費50,000円とする。

別表第2（第20条、第21条関係） 高等学校及び中学校学費（省略）

別表第3（第5条、第9条、第10条、第14条、第15条、第16条、第18条、第18条の2関係）

別表第2（第20条、第21条関係） 高等学校及び中学校学費 <省略>

別表第3（第5条、第9条、第10条、第14条、第15条、第16条、第18条、第18条の2関係）

大学及び大学院手数料

種別	金額(単位:円)
入学検定料	30,000 留学生 15,000 C方式(学部) 10,000

種 別	金 額 (単位：円)
検 定 料	委託生 (大学院) 10,000 特別学生 (大学院) 10,000 研 究 生 (大学院) 5,000 聴 講 生 5,000 (継続の場合は不要) 科目等履修生 10,000 (継続の場合並びに学部在籍中の者が大学院の授業科目を履修する場合及び大学院に在籍中の者が学部の授業科目を履修する場合は不要)
	定期試験料
転科検定料	10,000
転籍検定料	30,000
休学在籍料	30,000(各学期)
延滞料	5,000
追・再試験料	1,000(1科目につき)
学生証再交付料	1,500
健康診断証明書	200
教員免許状取得見込証明書	200
卒業・修了証明書	200
在学証明書	200
在籍証明書	200
成績証明書	200
成績証明書(外国語)	500
卒業・修了見込証明書	200
司書資格取得見込証明書	200
その他の証明書	200

※ 1 入学試験要項に定める同一試験区分内の併願可能な入試において、複数回出願する場合、2 出願目以降の検定料は

- 半額とする。ただし、特別選抜入試・大学院入試を除く。
- 2 親和女子高等学校及び本学と協定を締結した高等学校を対象とした専願制推薦入試の検定料は半額とする。
 - 3 2段階に分け選考を行う入試の入学検定料については、第1段階選考、第2段階選考出願時に正規の入学検定料の半額を徴収する。
 - 4 第1項にかかわらず、入学試験要項に定める公募制推薦入試において複数回出願する場合、正規の検定料に加え、15,000円を徴収すれば、最大数の出願まで可能とする。
 - 5 第1項にかかわらず、入学試験要項に定める一般選抜前期入試において複数回出願する場合、正規の検定料に加え、15,000円を徴収すれば、最大数の出願まで可能とする。
 - 6 第1項にかかわらず、入学試験要項に定める大学共通テスト利用型入試において複数回出願する場合、正規の検定料に加え、5,000円を徴収すれば、最大数の出願まで可能とする。
 - 7 第1項にかかわらず、入学試験要項に定める一般選抜後期入試において同一試験区分内の入試に出願したことの者は、検定料は10,000円とする。
 - 8 第1項にかかわらず、入学試験要項に定める一般選抜後期入試において複数回出願の場合、正規の検定料を徴収すれば、最大数の出願まで可能とする。

別表第4 (第20条、第23条、第23条の4 関係)
高等学校及び中学校手数料

<省 略>

神戸親和女子大学学生懲戒規程

平成27年3月10日 制定

(目 的)

第1条 この規程は、神戸親和女子大学学則第51条及び神戸親和女子大学大学院学則第35条 (以下「学則」という。) 及び神戸親和女子大学通信教育部規程第53条 (以下「通信教育部規程」という。) に基づき、学生の懲戒について必要な事項を定めるものとする。

(懲戒の対象とする者)

第2条 この規程において懲戒の対象とする者とは、通学部の学部学生、大学院生及び通信教育部学生並びに通信教育部科目等履修生(以下「学生」という。)のことをいう。

(懲戒の考え方)

第3条 懲戒は、懲戒対象行為の内容及びその影響等を総合的に判断し、教育的配慮を勘案して行うものとする。

2 懲戒により学生に課せられる不利益は、懲戒目的を達成するために必要な範囲を限度とする。

(懲戒の対象となる行為)

第4条 懲戒の対象とする行為は、次の各号に掲げるものとする。

- (1) 学問的倫理に反する行為
- (2) 学生の学習研究、教育職員の教育研究活動及び事務職員の事務を妨害する行為
- (3) 試験における不正行為
- (4) 通信教育部におけるレポート、科目修了試験、スクーリング試験における不正行為
- (5) 情報倫理に反する行為
- (6) ハラスメント行為

(7) 社会的諸秩序に対する侵犯行為 (犯罪行為)

(8) 重大な交通法規違反

(9) その他学生の本分に反する行為

2 前項各号につき、別に規程が定められている場合、その規程にしたがう。

(懲戒の種類)

第5条 学則及び通信教育部規程に定める懲戒の種類は、次のとおりとする。

(1) 退学は、学生としての身分を剥奪するものとする。

(2) 停学は、一定期間、学生の教育課程の履修及び課外活動等を停止するものとする。

(3) 譴責は、学生の行った行為の責任を確認し、その将来を、書面をもって戒めるものとする。

(懲戒の区分の判断基準)

第6条 前条の懲戒の区分については、懲戒対象行為の悪質性及び結果の重大性を総合的に判断して決定する。

(懲戒の対象とする期間)

第7条 懲戒の対象とする期間は、入学後、本学の学籍を有する期間とする。

(停学の期間)

第8条 停学の期間は、無期又は有期とする。

(厳重注意)

第9条 学長は、懲戒に相当しない場合でも学生に厳重注意を行うことができる。

2 厳重注意は、行為の問題性を自覚させ反省を促すものとする。

(懲戒決定までの手続)

第10条 学生担当部長又は通信教育部長 (以下、「担当部長」

という。)は、学生の懲戒に相当すると思われる事件・事故等が発生した場合、速やかに当該事件等を学長に報告するとともに、調査を開始する。

- 2 担当部長は、当該学生及び関係者等からの事情聴取等の調査結果をもとに、事実関係の確認を行い懲戒の要否、懲戒の種類について原案を作成する。ただし、調査にあたっては、事前に当該学生に対して、要旨を口頭又は文書で告知し、当該事実に関する弁明の機会を与えなければならない。
- 3 前項の懲戒の原案については、学長に報告するとともに、学生委員会又は通信教育部運営委員会（以下「委員会」という。）で審議し全学教授会又は研究科委員会へ付議する。
- 4 学長は、懲戒について、全学教授会又は研究科委員会での意見を聴き、決定する。

(懲戒の発効)

第11条 懲戒は、学生に対して懲戒内容を文書で発信した翌日から発効する。

(学生への通告及び保証人への通知)

第12条 学長は、学生に対し懲戒の内容を文書により通告する。

- 2 学長は、学生の保証人に対し懲戒の内容を文書により通知する。
- 3 通信教育部協定大学科目等履修生の場合は、所属大学学長に対し懲戒の内容を文書により通知する。
- 4 通告及び通知は、発信をもって足りる。

(公 示)

第13条 懲戒を行った場合は、学長は遅滞なく公示を行う。

- 2 公示する事項は、第4条第1項各号に掲げる対象行為及び懲戒の種類とする。
- 3 公示期間は1ヵ月とする。
- 4 通信教育部の場合は、機関誌により公示する。
- 5 公示については、個人を特定しない方法による。

(無期停学の解除)

第14条 第8条の無期停学は、懲戒の発効日から6か月を経過した後でなければ解除できない。

- 2 担当部長は、6か月を経過した後に、無期停学の解除が適当であると認めるときは、その解除を委員会に発議する。
- 3 無期停学の解除は、委員会において審議し、全学教授会の意見を聴き、学長が行う。
- 4 無期停学解除の学生への通告、保証人への通知は、文書で行う。また、協定大学科目等履修生の場合は、所属大学学長にも通知する。

(懲戒に関する記録)

第15条 懲戒の事実を学籍原簿に記録する。

(不服申立て)

第16条 懲戒を課せられた学生は、懲戒の発効日から30日以内にその懲戒に対する不服申立てを行うことができる。ただし、本項に定める期間内に不服申立てをすることができない正当な理由が認められる場合は、その理由が消滅した日から起算して30日以内に不服申立てを行うことができる。

2 不服申立てをしようとする学生は、不服申立書を学長に提出しなければならない。

(不服申立てに係わる再審議等)

第17条 学長は、前条の不服申立てに基づき不服申立審査委員会（以下「審査委員会」という。）を設置する。

- 2 審査委員会は、副学長及び不服申立てを行った学生が所属する学科又は専攻以外の学科長若しくは専攻主任で構成する。
- 3 審査委員会が必要と認める場合は、弁護士等専門家の出席を求めることができる。
- 4 審査委員会は、学生から提出された不服申立書に基づき審査を行う。
- 5 不服申立てをした学生は、書面で意見を述べ、資料を提供することができる。
- 6 審査委員会は、懲戒の内容が相当であると判断した場合は、不服申立ての却下を求める旨の勧告を学長に行う。
- 7 審査委員会は、懲戒の内容が相当でないと判断した場合は、懲戒の取り消し又は変更を求める旨の勧告を学長に行う。
- 8 学長は、前2項の勧告を受けた場合、その取り扱いを、不服申立てをした学生に通知する。

(再審議)

第18条 学長は、前条第7項の勧告を受けた場合、担当部長に委員会にて再審議を求める。

2 担当部長は、再審議の結果を学長に報告する。

(懲戒対象者の退学申し出の取り扱い)

第19条 学長は、第10条において事情聴取等調査の対象となった者から、懲戒の有無の決定前に退学の申し出がある場合、懲戒の有無が決定するまでこの申し出を受理しない。
(停学期間中の指導)

第20条 停学期間中は教育的指導を行う。

2 学長は、教育的指導に必要と判断される場合、学生の施設利用及び研修への参加を認めることができる。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

神戸親和女子大学大学院学位論文提出内規

平成14年3月6日 制定

<省 略>

附 則

この内規は、平成18年4月1日から施行する。

(趣 旨)

第1条 神戸親和女子大学学位規程(平成13年5月24日。以下「学位規程」という。)第5条及び第6条の規定に基づく修士の学位論文の提出等については、学位規程に定めるもののほか、この内規による。

(研究指導)

第2条 学位論文を提出しようとする者は、神戸親和女子大学大学院学則(平成13年5月24日制定)第13条第1項の規定に基づいて各専攻で定めた指導教員による研究指導を受けなければならない。

(学位論文の形式)

第3条 学位論文の用語、用紙、書式、枚数等の形式については、各専攻が定める研究指導内規によるものとする。

(学位論文題目の提出)

第4条 学位論文題目は、学位論文を提出しようとする年度の5月末日までに学位論文題目届(様式第1号)により、指導教員の承認を得て学生サービスセンター事務局大学院担当へ提出するものとする。なお、学位論文題目提出後に、題目に変更が生じた者は、10月末日までに指導教員の承認を得て学生サービスセンター事務局大学院担当へ届け出るものとする。

(学位論文の提出)

第5条 学位論文は、学位論文提出届(様式第2号)を添えて、心理臨床学専攻は修了年度の1月15日の16時までに、教育学専攻は修了年度の1月25日の16時までに学生サービスセンター事務局大学院担当へ提出するものとする。ただし、学位論文の提出を延期し、次年度の春学期末に課程を修了する者の学位論文の提出は、次年度の7月15日の16時までとする。

(その他)

第6条 この内規に定める日が土曜日の場合はその前日、日曜日の場合はその前々日とする。

第7条 この学位論文の提出内規に定めるもののほか、必要な事項は、研究科委員会の議を経て研究科長が別に定める。

様式第1号(第4条関係)

学位論文題目届	
令和 年 月 日	
文学研究科	専攻(学籍番号)
氏 名	Ⓜ
題目	
研究指導教員	先生 承認印

注意 研究指導教員の承認印を受け、5月末日までに学生サービスセンター事務局大学院担当に提出のこと。

専攻主任	教務担当

様式第2号(第5条関係)

学位論文提出届	
学籍番号	氏名
論文題目	
研究指導教員	先生
上記のとおり学位論文を提出します。	
令和 年 月 日 (時 分)	

神戸親和女子大学大学院文学研究科心理臨床学専攻研究指導内規

平成14年3月6日 制定

1 この内規は、神戸親和女子大学大学院学則第13条の規定に基づき、神戸親和女子大学大学院文学研究科心理臨床学専攻(以下「専攻」という。)の研究指導の内容について定めるものとする。

2 専攻の研究指導は、神戸親和女子大学学位規程(平成13年5月24日制定)及び神戸親和女子大学大学院学位論文提出内規(平成14年3月6日制定)に定めるもののほか、次のとおりとする。

- (1) 専攻の学生に対して、当該学生の希望に基づき、毎年度初めに主担及び副担の指導教員を置く。
- (2) 専攻の学生は、毎年度初めに主たる指導教員を「履修登録用紙」に明記の上、所定の期日までに学生サービスセンター事務局大学院担当に提出しなければならない。
- (3) 毎年度初めに「研究計画書」(1,600字程度)を指導教員に提出し、研究計画発表会に出席して発表を行わ

なければならない。

- (4) 毎年度末に「研究報告書」(1,600字程度)を指導教員に提出し、研究報告会において報告しなければならない。
- (5) 学位論文を作成する場合、次の各号に掲げる事項については、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。
 - (ア) 未発表の論文でなければならない。ただし、既に公表されたものを部分的に含むことは、差し支えない。
 - (イ) 用語 日本語
 - (ウ) 書式 特に定めない。
 - (エ) 字数 原則として28,000字~40,000字(400字詰め原稿用紙70枚~100枚)
 - (オ) 要旨 論文要旨(2,000字程度)を添える。

附 則

この内規は、平成14年4月1日から施行する。

神戸親和女子大学大学院文学研究科教育学専攻研究指導内規

平成14年3月6日 制定

- この内規は、神戸親和女子大学大学院学則第13条に基づき、神戸親和女子大学大学院文学研究科教育学専攻（以下「専攻」という。）の研究指導の内容について定めるものとする。
- 専攻の研究指導は、神戸親和女子大学学位規程及び神戸親和女子大学大学院論文提出内規に定めるもののほか、次のとおりとする。
 - 専攻の学生に対して、当該学生の希望に基づき、毎年度初めに主担及び副担の指導教員を置く。
 - 専攻の学生は、毎年度初めに主たる指導教員を「履修登録用紙」に明記の上、所定の期日までに学生サービスセンター事務局大学院担当に提出しなければならない。
 - 毎年度初めに「研究計画書」（1,600字程度）を指導教員に提出し、研究計画発表会に出席して発表を行わなければならない。
 - 毎年度末に「研究報告書」（1,600字程度）を指導教員

に提出し、研究報告会において報告しなければならない。

- 学位論文を作成する場合、次の各号に掲げる事項については、それぞれ当該各号に定めるとおりとする。
 - 未発表の論文でなければならない。ただし、既に公表されたものを部分的に含むことは、差し支えない。
 - 用語 日本語・英語
 - 書式 特に定めない
 - 字数 原則として60,000字～80,000字（400字詰め原稿用紙150枚～200枚）
ただし、実験・調査に基づく論文の場合は、40,000字～60,000字（400字詰め原稿用紙100枚～150枚）とする。
- 要旨 論文要旨（2,000字程度）を添える

附 則

この内規は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この内規は、平成15年10月22日から施行する。

神戸親和女子大学大学院科目等履修生規程

平成14年5月21日 制定

- (趣 旨)
- 第1条** 神戸親和女子大学大学院学則（平成13年5月24日制定。以下「大学院学則」という。）第25条第1項に規定する科目等履修生については、この規程の定めるところによる。
- (出願資格)
- 第2条** 科目等履修生となることを出願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。
- 大学を卒業した者
 - 本学学部の4年次生で、出願時における指導教員の推薦を受けた者
 - 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者
 - 文部科学大臣の指定した者
 - その他神戸親和女子大学大学院（以下「本大学院」という。）において、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者
- (入学の時期)
- 第3条** 科目等履修生の入学時期は、各学期の始めとする。
- (出願手続)
- 第4条** 科目等履修生として入学を志願する者は、学校法人親和学園学費規程（平成13年9月28日制定。以下「学費規程」という。）に定める検定料を添えて次の書類を所定の期日までに提出しなければならない。
- 科目等履修願
 - 履歴書
 - 健康診断書
 - 最終学校卒業証明書及び成績証明書 各1通
- (選考及び許可)
- 第5条** 科目等履修生の選考は、前条の書類の審査によるほか、必要に応じて面接試問を行い、研究科委員会の議を経て研究科長が許可する。
- (在籍期間)

- 第6条** 科目等履修生の在籍期間は、1年以内とし、更に科目等履修を希望する者は、改めて願出しなければならない。その場合は、1年を限度とする。
- 2 科目等履修生の在籍期間は、本大学院の正規の在籍期間に加えない。
(年間取得単位数)
- 第7条** 科目等履修生が、1年間に履修できる単位数は、10単位以内とする。
- 2 授業科目によっては、履修を許可しない場合がある。
(単位の認定)
- 第8条** 科目等履修生が受講した授業科目について試験を受け、これに合格した場合は、所定の単位を与える。
- 2 科目等履修生の修得単位、在学期間等については、本人の請求により所定の証明書を交付する。
(許可の取消し)
- 第9条** 科目等履修生が本学の規則に違反したと認められる場合には、学長は研究科委員会の議を経て、科目等履修生の許可を取り消すことができる。
(授業料等)
- 第10条** 科目等履修を許可された者は、学費規程に定める登録料及び授業料を所定の期日までに納入しなければならない。
(取消し等)
- 第11条** 所定の期日までに科目等履修登録料及び科目等履修授業料を納入しない場合は、科目等履修の許可を取り消す。
- 2 いったん納入した科目等履修登録料、科目等履修授業料その他は、返還しない。
(準 用)
- 第12条** この規程に定めるもののほか、科目等履修生に関し必要な事項は、大学院学則その他本学の諸規程を準用する。

<省 略>

附 則

この規程は、平成25年10月8日から施行し、平成25年4月1日から適用する。

神戸親和女子大学大学院生の科目等履修生に関する取扱要領

平成14年3月6日 制定

大学院生が学部の授業科目を科目等履修生として受講する場合は、この要領によるものとする。

1 大学院生が一年間に履修できる単位数は、8単位以内とする。

ただし、教育学専攻に限り、教育職員免許状取得のための履修並びに外国人留学生が神戸親和女子大学学則別表第1-1に定める日本語コミュニケーションの科目及び同学則別表第1-2に定める外国人学部留学生対象の科目を履修す

る場合は、この限りでない。また、日本語教員資格関係科目の履修は12単位以内とする。

2 科目等履修生に関する費用については、学校法人親和学園学費規程（平成13年9月28日制定）に定めるものとする。

3 教育実習等の実習費については、別途、納入しなければならない。

<省略>

附 則

この要領は、平成29年9月5日から施行する。

神戸親和女子大学大学院単位認定取扱要領

平成26年1月8日 制定

(趣旨)

第1条 この要領は、神戸親和女子大学大学院学則（平成13年5月24日制定。以下「院学則」という。）第11条第2項の規定による本大学院に入学する前に大学院において修得した単位（以下「入学前単位」という。）、院学則第11条の2の規定により他の大学との協定に基づき修得した単位（以下「協定単位」という。）及び院学則第20条の規定により留学先大学院等で修得した単位（以下「留学単位」という。）を本大学院において修得した単位とみなす単位認定等の取扱いについて定めるものとする。

(単位認定等に関する事務手続)

第2条 入学前単位、協定単位及び留学単位の単位認定の事務手続は次のとおりとする。

(1) 他の大学との協定に基づき授業を受けようとする者は、別に定める期日までに所定の「履修登録願」を学生サービスセンター事務局教務担当を経て研究科長に願い出なければならない。ただし、履修登録できる単位数は年間6単位以内とする。

(2) 入学前単位、協定単位及び留学単位の認定を受けよ

うとする者は、別に定める期日までに所定の「単位認定願」に成績証明書等の単位取得を証する書類を添えて学生サービスセンター事務局教務担当を経て研究科長に願い出なければならない。

(認定)

第3条 単位の認定は、授業内容の相当した授業科目については、本大学院の授業科目名に読み替えることとし、本大学院に相当する科目がなく、かつ、本大学院の授業科目として適当と判断される場合は、当該授業科目名で認定する。ただし、本条に定めるもののほか、別の方法により認定することがある。

(承認)

第4条 前条の認定については、研究科委員会の承認を得るものとする。

(登録)

第5条 第3条により認定された単位は、本大学院所定の成績原簿に「認定」として登録する。

附 則

この要領は、平成26年4月1日から施行する。

神戸親和女子大学大学院研究生規程

平成15年7月25日 制定

(趣 旨)

第1条 神戸親和女子大学大学院学則(平成13年5月24日制定。以下「学則」という。)第24条第1項に規定する研究生については、この規程の定めるところによる。

(出願資格)

第2条 研究生として出願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 大学院修士課程を修了した者
- (2) その他神戸親和女子大学大学院(以下「本大学院」という。)において、修士課程を修了した者と同等以上の学力があると認められた者

(出願手続)

第3条 研究生を志願する者は、学校法人親和学園学費規程(平成13年9月28日制定。以下「学費規程」という。)に定める検定料を添えて、次の書類を所定の期日までに提出しなければならない。

- (1) 研究生願書
 - (2) 研究計画書
 - (3) 履歴書
 - (4) 健康診断書
 - (5) 最終出身学校の修了(見込み)証明書及び成績証明書
 - (6) その他本大学院が必要と認める書類
- 2 研究生を志願する者のうち、本大学院の出身者は、前項各号に定める書類のうち第3号及び第5号の書類の提出を不要とする。

(選考及び許可)

第4条 研究生は、研究指導を受けようとする教員の所属する専攻において、前条の書類の審査によるほか、面接試問等により選考し、研究科委員会の議を経て学長が許可する。

(開始時期)

第5条 研究生の開始時期は、原則として学年又は学期の始めとする。

(研究期間)

第6条 研究期間は、原則として1年又は6月とする。ただし、更に研究を継続しようとするときは、その理由を添えて

学長に願い出なければならない。

(研究生登録料及び研究指導料)

第7条 研究生として許可された者は、学校法人親和学園学費規程(平成13年9月28日制定)に定める研究生登録料及び研究指導料を所定の期日までに納入しなければならない。

2 所定の期日までに研究生登録料及び研究指導料を納入しない場合は、研究生の許可を取り消す。

3 実験、実習等及び研究に要する実費は、研究生の負担とする。

(研究報告と修了認定)

第8条 研究生は、所定の研究が修了したときは、研究報告書等により研究の成果を指導教員に提出しなければならない。

2 所定の研究が修了した研究生の修了認定は、研究生研究結果報告書(様式第1号)に基づき、研究科委員会の議を経て学長が行う。

(修了証書の授与)

第9条 修了認定を受けた研究生には、学長が研究修了証書(様式第2号)を授与する。

(証明書の交付)

第10条 研究生が研究事項について証明を願い出た場合は、証明書を交付することができる。

(研究施設等の利用)

第11条 研究生は、所定の手続を経て本学の研究施設並びに設備及び附属図書館を利用することができる。

(研究の中止)

第12条 研究生が研究を中止しようとするときは、指導教員を経て学長に願い出なければならない。

(除 籍)

第13条 研究生が本学の規則に違反し、又は病気その他の事由により成業の見込みがないと認められる場合は、研究科委員会の議を経て学長が除籍する。

(準 用)

第14条 この規程に定めるもののほか、研究生に関する必要な事項は、本大学院学則その他本学の諸規程を準用する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

様式 略

神戸親和女子大学研究倫理基準

平成27年6月16日 制定
最新改正 平成29年3月7日

(総則)

第1条 神戸親和女子大学(以下「本学」という。)で研究を行う者(学生を含む。以下「研究者」という。)は、自由な意思に基づき、他者からの束縛を受けず、研究を行う権利を享受する一方、研究を行う上で自らの責務を自覚し、自らを厳しく律するとともに、強い倫理意識をもって、公平、公正に研究を実施することにより研究成果を生み出し、社会の信頼と負託に応えなければならない。

(目的)

第2条 この基準は、本学において研究を行う者が、研究を実施する上で順守すべき倫理上の基準を定め、本学における研究の信頼性と公正性を確保することを目的とする。

(研究者の責任)

第3条 研究者は、自らが生み出す専門知識や技術の質を担保する責任を有し、さらに自らの専門知識、技術、経験を活かして、人類の健康と福祉、社会の安全と安寧、そして地球環境の持続性に貢献するという責任を有することを自覚して研究に従事するものとする。

(研究者の姿勢)

第4条 研究者は、常に正直、誠実に判断、行動し、自らの専門知識・能力・技芸の維持向上に努め、研究によって生み出される知の正確さや正当性を科学的に示すよう努めなければならない。

(社会の中の研究者)

第5条 研究者は、科学の自律性が社会からの信頼と負託の上に成り立つことを自覚し、科学・技術と社会・自然環境の関係を広い視野から理解し、適切に行動しなければならない。

(社会的期待に応える研究)

第6条 研究者は、社会が抱く真理の解明や様々な課題の達成へ向けた期待に応える責務を有するとともに、研究環境の整備や研究の実施に供される研究資金の使用にあたっては、広く社会的な期待が存在することを常に自覚しなければならない。

(説明と公開)

第7条 研究者は、自らが携わる研究の意義と役割を公開して積極的に説明し、その研究が人間、社会、環境に及ぼし得る影響や起こし得る変化を評価し、その結果を中立性・客観性をもって公表すると共に、社会との建設的な対話を築くように努めなければならない。

2 研究者は、個人の情報又はデータ等の提供を受けて研究を行う場合には、提供者又は代諾者等に対して事前にその目的、収集方法等について説明し、同意を得なければならない。

3 組織、団体等から、当該組織、団体等に関する資料、情報、データ等の提供を受ける場合も前項に準じるものとする。

(個人情報の保護)

第8条 研究者は、プライバシー保護の重要性に鑑み、研究のために収集した資料、情報、データ等で個人を特定できるものは、これを他に洩らしてはならない。

2 研究者は、提供者等から研究の開示を求められたときは、原則としてこれを開示しなければならない。

(公正な研究)

第9条 研究者は、自らの研究の立案・計画・申請・実施・報告などの過程において、本基準の趣旨に沿って誠実に行動し、研究・調査データの記録保存や厳正な取扱いを徹

底し、ねつ造、改ざん、盗用、二重投稿、不適切なオーサーシップ、利益相反などの不正行為を行い、また加担してはならない。

2 第三者による検証可能性を確保するため、研究データを一定期間保存し、必要な場合に開示しなければならない。

(研究環境の整備及び教育啓発の徹底)

第10条 研究者は、責任ある研究の実施と不正行為の防止を可能にする公正な環境の確立・維持に努め、自らの所属組織の研究環境の質的向上、並びに不正行為抑止の教育啓発に継続的に取り組まなければならない。

(研究対象などへの配慮)

第11条 研究者は、研究への協力者の人格、人権を尊重し、福利に配慮するとともに、動物などに対しては、真摯な態度でこれを扱わなければならない。

(他者との関係)

第12条 研究者は、他者の成果を適切に批判すると同時に、自らの研究に対する批判には謙遜に耳を傾け、誠実な態度で意見を交えるよう努めなければならない。

2 他者の知的成果などの業績を正当に評価し、名誉や知的財産権を尊重しなければならない。

(科学的助言)

第13条 研究者は、市民との対話と交流に積極的に参加するよう努めるとともに、社会の様々な課題の解決と福祉の実現を図るために、政策立案・決定者に対して政策形成に有効な科学的助言の提供に努めるものとする。

第14条 研究者は、公共の福祉に資することを目的として研究活動を行い、客観的で科学的な根拠に基づく公正な助言を行うとともに、権威を濫用しないよう努めなければならない。

(法令の遵守)

第15条 研究者は、研究の実施、研究費の使用等にあたっては、法令や関係規則を遵守しなければならない。

(差別の排除)

第16条 研究者は、研究・教育・学会活動において、人種、ジェンダー、地位、思想・信条、宗教などによって個人を差別せず、科学的方法に基づき公平に対応して、個人の自由と人格を尊重するものとする。

(利益相反)

第17条 研究者は、自らの研究、審査、評価、判断、科学的助言などにおいて、個人と組織、あるいは異なる組織間の利益の衝突に十分に注意を払い、公共性に配慮しつつ適切に対応するものとする。

(本学の責務)

第18条 本学は研究者の研究倫理意識を高めるため、必要な啓発、倫理教育を定期的実施するものとする。

2 本学は、この基準の運用を実効あるものとするため、研究者の研究倫理に反する行為に対して適切な措置を講じるものとする。

3 本学は、研究に関して、不当又は不公正な扱いを受けた者からの苦情、相談等に対応するものとする。

(研究の申請)

第19条 研究者は研究倫理に抵触する恐れがある研究を行う場合は、学長の承認を得なければならない。

第20条 学長は第17条、前条及びその他必要があると判断した場合は委員会を設置し、必要な審査・調査を行う。

2 委員会に関し必要な事項は別に定める。

第21条 この基準に定めるもののほか、研究倫理について必要な事項は別に定める。

附 則

この基準は、平成27年6月16日から施行する。

附 則

この基準は、平成29年4月1日から施行する。

神戸親和女子大学大学院授業料免除規程

平成14年3月22日 制定

(目 的)

第1条 この規程は、神戸親和女子大学大学院（以下「大学院」という。）に在学し、学業・人物ともに優秀で、研究意欲がありながら経済的理由により修学困難と認められる者に対し、授業料を免除し、学業・研究を継続させることを目的とする。

(免除額と期間)

第2条 免除額は、年間授業料相当額又はその半額とする。

2 免除期間は、当該年度限りとする。ただし、次年度も出願することができる。

3 授業料免除を受けられる期間は、大学院学則（平成13年5月24日制定。以下「学則」という。）第5条第1項に定める標準修業年限（2年）以内とする。ただし、同条第2項に定める計画的な履修を認められた学生については、許可された修業年限以内とする。

(申請手続)

第3条 授業料免除を受けようとする者は、次の書類を所定の期日までに提出しなければならない。

- (1) 願書（所定様式）
- (2) 主たる学費支弁者の所得証明書等家計の状況を証明するもの
- (3) その他本学が必要と認めたもの

2 この規程による授業料免除以外に奨学金又は修学補助の給付若しくは貸与を受けている者は、この授業料免除の申請はできない。ただし、研究科委員会において、学費の支弁が著

しく困難であると認められた者は、この限りでない。

(選 考)

第4条 この規程による授業料免除者は、研究科委員会で選考決定する。

2 選考の基準は、日本学生支援機構第一種奨学金の基準を準用する。

(免 除)

第5条 授業料免除者に採用された者は、所定の期日までに手続を行わなければならない。

(授業料免除の停止及び取消し)

第6条 授業料免除者が次の各号のいずれかに該当するときは、研究科委員会で審議の上、授業料の免除を停止又は取消しをすることがある。

- (1) 学則による懲戒処分を受けたとき。
- (2) 休学、退学又は除籍となったとき。
- (3) 願書及び提出書類に虚偽の記載のあることが判明したとき。
- (4) その他授業料免除者として不適当と認められたとき。

(事 務)

第7条 この規程に関する事務は、学生サービスセンター事務局学生担当において行う。

<省 略>

附 則

この規程は、平成22年7月20日から施行し、平成22年4月1日から適用する。

神戸親和女子大学キャンパス・ハラスメント等防止規程

平成19年9月21日 制定

(目的)

第1条 この規程は、学校法人親和学園ハラスメントの防止に関する規程（平成28年12月16日制定）（以下「親和学園ハラスメント規程」という。）に定めるものの他、神戸親和女子大学（以下「本学」という。）における、ハラスメント（以下「キャンパス・ハラスメント等」という。）を防止するために必要な教育・研修活動を行い、修学・就業にふさわしい環境を確保すると共に、ハラスメント行為発生時に適正な対応を図ることを目的として定めるものである。

2 この規程を有効に機能させるために、「神戸親和女子大学キャンパス・ハラスメント等防止に関するガイドライン」（以下「ガイドライン」という。）を別途定める。

(対象)

第2条 本規程の対象は、次の各号の通りとする。

(1) 本学の学生、科目等履修生、研究生及び聴講生等（以下「学生」という。）

(2) 本学の教職員及び本学との間に雇用契約並びに取引のある全ての者。

(定義)

第3条 キャンパス・ハラスメントとは、親和学園ハラスメントの防止に関する規程第2条に定めるとおりとする。

(人権教育委員会の設置)

第4条 第1条第1項に定める教育・研修活動を行うために、人権教育委員会を設置する。

2 人権教育委員会の規程は、別に定める。

(キャンパス・ハラスメント等相談窓口の設置)

第5条 ハラスメント行為発生時の適切な初動対応を行うために、本学内にキャンパス・ハラスメント等相談窓口を設置する。

2 キャンパス・ハラスメント等相談窓口については、別に定める。

(学長の責務)

第6条 学長は、本学のキャンパス・ハラスメント等の防止について統括し、キャンパス・ハラスメント等の訴えが発生した場合は、必要な措置を適切かつ迅速に講じなければならない。

2 学長は、キャンパス・ハラスメント等の事案が生じた際は、事案関係者の名誉、プライバシーその他の人権に配慮しなければならない。

3 学長は、被害を訴えたり、証言したことにより、訴えた者や証言者に不利益や二次被害が生じないよう十分に配慮しなければならない。また、繰り返し調査をすることで被害者に更なる精神的な苦痛を与えないよう、配慮しなければならない。

4 学長は、虚偽の申し立て・証言により、関係者に不利益が生じたり、あるいは生じる恐れがある場合、速やかにその回復や予防の為に措置を講じなければならない。

5 学長は、「神戸親和女子大学キャンパス・ハラスメント等に関する相談窓口設置規程」（以下「相談窓口設置規程」という。）に規定するキャンパス・ハラスメント等相談窓口運営部会（以下「運営部会」という。）によるキャンパス・ハラスメント等の答申内容を理事長に報告し、必要と認められる場合は問題調査委員会へ諮問するものとする。

6 学長は、前項の対応の後、理事長と相談の上、修学・就業の環境整備並びに該当者への教育研修を行う等により、再発防止に努めなければならない。

(教職員の責務)

第7条 教職員は、本学においてハラスメントのない大学づくりを推進し、人との関係を大切に、互いの尊厳を認め合い、一人ひとりの人権を尊重しなければならない。

2 教職員は、キャンパス・ハラスメント等を受けているのを目撃し、又はキャンパス・ハラスメント等の申し出等を受けた場合は、相談窓口設置規程に規定する相談窓口担当者に報告するものとする。

3 教職員は、キャンパス・ハラスメント等に関する虚偽の申し立て・証言をしてはならない。

4 教職員は、訴えた者や証言した者に、キャンパス・ハラスメント等の身体的・心理的苦痛を与えてはならない。

5 教職員は、キャンパス・ハラスメント等の事案に関する情報を知り得た場合は、その秘密を厳守するとともに、退職後も、その情報を他に漏らしてはならない。

(学生の責務)

第8条 学生は、本学における人権教育の理念を理解し、人との関係を大切に、互いの尊厳を認め合い、一人ひとりの人権を尊重しなければならない。

2 学生は、キャンパス・ハラスメント等を受けているのを目撃し、又はキャンパス・ハラスメント等の相談等を受けた場合は、相談窓口設置規程に規定する相談窓口担当者に報告するものとする。

3 学生は、キャンパス・ハラスメント等に関する虚偽の申し立て・証言をしてはならない。

4 学生は、訴えた者や、証言した者に、無視や仲間はずれ、いじめなど身体的・心理的苦痛を与えてはならない。

5 学生は、キャンパス・ハラスメント等の事案に関する情報を知り得た場合は、その秘密を厳守するとともに、卒業後も、その情報を他に漏らしてはならない。

附 則

この規程は、令和3年2月19日から施行する。

神戸親和女子大学学生の自動車通学等に関する取扱要領

平成14年3月7日 制定

別記様式（第2条関係）

第1条 本学では、学生（大学院生を含む。）の自動車通学（自動二輪車及び原動機付自転車の通学を含む。以下同じ。）を禁止する。ただし、身体障害、社会人大学院生等特にやむを得ない事情のある者は許可することがある。

第2条 自動車通学を希望する者は、次の書類を学生サービスセンター事務局学生担当に提出し、許可を受けなければならない。

- (1) 自動車通学許可願（別記様式）
- (2) 運転免許証及び任意保険加入証の写し
- (3) 身体障害、社会人大学院生等特にやむを得ない事情のあることの証明書

第3条 自動車通学の許可は、学生委員会で決定し、教授会に報告するものとする。

第4条 自動車通学を許可された者は、許可証の交付を受け、指定された場所に駐車しなければならない。

2 自動車通学許可は、当該年度限りとし、次年度については新たに願出をしなければならない。

第5条 前条第1項の規定に違反した者に対しては、自動車通学の許可を取り消すことがある。

<省略>

附 則

この要領は、平成15年9月26日から施行する。

自動車通学許可願（様式）			
神戸親和女子大学様			
	学科 氏名	年次	番
私 下記の理由により、自動車通学をいたしたく、保証人連署の上許可願を提出いたしますので、許可くださいますようお願いいたします。 なお、事故その他一切の責任は、私と保証人が連帯して持ちます。			
記			
理由 _____			
年 月 日			
本人 氏名 現住所 〒 (TEL - -)			
保証人 氏名 (親権者) 現住所 〒 (TEL - -)			

神戸親和女子大学大学院文学研究科長期履修学生規程

平成18年4月21日 制定

(趣 旨)

第1条 この規程は、神戸親和女子大学大学院学則（平成13年5月24日制定。以下「大学院学則」という。）第13条第4項の規定に基づき、本大学院文学研究科教育学専攻における計画的な履修を認められた学生（以下「長期履修学生」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(修業年限及び在学年限)

第2条 長期履修学生の修業年限は、年度単位とし、3年又は4年とする。ただし、第2年次から長期履修学生として認められた者は、第2年次から2年とする。

2 前項の修業年限を超えて在学する場合、在学年限は、大学院学則第5条に定める年限とする。

(申請資格)

第3条 長期履修学生を希望することができる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。ただし、第2年次に在学する者は、申請することができない。

- (1) 職業を有する者
- (2) 学部の日本語教員資格関係科目の科目等履修を希望する者
- (3) その他本大学院教育学専攻会議において認められた者

(申請手続)

第4条 長期履修学生を希望する者は、所定の長期履修申請書を、また、前条第1号による申請者は在職を証明する書類を添えて、次の各号に定める期日までに学生サービスセンター事務局大学院担当（以下「大学院担当」という。）に提出しなければならない。

- (1) 第1年次から希望する場合、出願書類提出時
- (2) 第1年次に在学する者が第2年次から希望する場合、4月に入学した者については、第1年次の3月10日まで

(3) 第1年次に在学する者が第2年次から希望する場合、10月に入学した者については、第1年次の9月10日まで

(許 可)

第5条 前条の申請に対しては、本大学院研究科委員会（以下「研究科委員会」という。）の議を経て、研究科長が許可する。

(履修期間短縮の申請手続)

第6条 長期履修学生が履修期間の短縮を希望する場合は、所定の長期履修期間短縮申請書を、短縮による修了予定年度の前年度の3月10日又は9月10日までの間に大学院担当に提出しなければならない。

2 前項の履修期間の短縮は、標準修業年限（2年）への短縮を含むものとする。

(履修期間短縮の許可)

第7条 前条の申請に対しては、研究科委員会の議を経て、研究科長が許可する。

(履修計画書の提出)

第8条 長期履修学生は、毎年度履修登録時に許可された修業年限が終了する年度までの履修計画を所定の履修計画書に記載し、専攻主任の承認を得て大学院担当に提出しなければならない。

(学 費)

第9条 長期履修学生の学費の額は、別にこれを定める。

(雑 則)

第10条 この規程に定めるもののほか、長期履修学生に関し必要な事項は、別にこれを定める。

<省 略>

附 則

この規程は、平成28年7月5日から施行し、平成28年度入学生から適用する。

2

履 修 要 綱
シ ラ バ ス

心理臨床学専攻

	科目	単位	学期	年次	担当者
演習	心理臨床学演習Ⅰ	1	春	1	伊東、大島、吉野、本間
	心理臨床学演習Ⅱ	1	秋	1	伊東、大島、吉野、本間
	心理臨床学演習Ⅲ	1	春	2	伊東、大島、吉野、本間
	心理臨床学演習Ⅳ	1	秋	2	伊東、大島、吉野、本間
	特別研究Ⅰ	1	春	2	伊東、大島、吉野、本間
	特別研究Ⅱ	1	秋	2	伊東、大島、吉野、本間
必修科目	臨床心理学特論Ⅰ	2	春	1	吉野
	臨床心理学特論Ⅱ	2	秋	1	伊東
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	春	1	本間
	臨床心理面接特論Ⅱ	2	秋	1	本間
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	春	1	大島／吉野
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	春	1	大島／伊東
	臨床心理基礎実習	2	通	1	伊東／本間
	臨床心理実習Ⅱ	2	通	2	大島、伊東、本間、三井
	相談指導Ⅰ	1	春	2	大島
	相談指導Ⅱ	1	秋	2	伊東
選択科目	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）*	10	通	1	大島、伊東、吉野、本間
	心理学研究法特論	2	春	1	吉野
	心理学統計法特論	2	春	1	水谷
	神経心理学特論	2	集	1	大岸
	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	秋	1	本間
	認知行動療法特論（心理支援に関する理論と実践）	2	秋	1	吉野
	社会心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	秋	1	田中
	対人行動学特論	2	集	1	金政
	コミュニティ心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	春	1	川野
	司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	春	1	森
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	春	1	吉川
	精神保健学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2	春	1	田中
	福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	秋	1	大島
	心理療法特論*	2	／	1	不開講
	発達臨床心理学特論*	2	春	1	伊東
	投映法特論*	2	秋	1	伊東

- 1) 「心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」（各1単位）を必修とする。
- 2) 「特別研究Ⅰ・Ⅱ」（各1単位）を必修とする。
- 3) 教育学専攻の学生は必修科目と選択科目の*科目〔「臨床心理実習Ⅰ」（心理実践実習）、E群（選E）科目（p.23参照）：「心理療法特論」、「発達臨床心理学特論」、「投映法特論」〕は履修することができない。
- 4) 教育学専攻より4単位まで修了要件単位に含めることができる。
- 5) 臨床心理士受験資格取得における最低取得要件単位は44単位である。
- 6) 公認心理師受験資格取得における最低取得要件単位は30単位である。
- 7) 「臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）」は、修了要件外科目とする。
- 8) 最低修了要件単位は34単位である。

講義担当教員

心理臨床学専攻

氏名	学位	専門領域	現職	担当科目
伊東 真里	博士(臨床心理学)[武庫川女子大学]	臨床心理学	本学教授	心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 臨床心理学特論Ⅱ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習A・B)・Ⅱ 臨床心理査定演習Ⅱ 発達臨床心理学特論 投映法特論 相談指導Ⅱ
mitou@kobe-shinwa.ac.jp				
大島 剛	教育学修士[京都大学]	臨床心理学	本学教授	心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習A・B)・Ⅱ 臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)・Ⅱ 相談指導Ⅰ 福祉心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)
oshima@kobe-shinwa.ac.jp				
本間 友巳	博士(教育心理学)[関西学院大学]	教育心理学	本学教授	心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)・Ⅱ 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習A・B)・Ⅱ 学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)
thonma@kobe-shinwa.ac.jp				
三井 知代	博士(人間科学)[神戸女学院大学]	臨床心理学	本学教授	臨床心理実習Ⅱ
mitsui@kobe-shinwa.ac.jp				
吉野 俊彦	博士(心理学) [ロンドン大学ユニバーシティカレッジ]	学習心理学 行動分析学	本学教授	心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 心理学研究法特論 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習A・B) 臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践) 臨床心理学特論Ⅰ 認知行動療法特論 (心理支援に関する理論と実践)
yoshino@kobe-shinwa.ac.jp				
山中 康裕	医学博士[名古屋市立大学]	臨床心理学	京都大学名誉教授	
大岸 通孝	教育学修士[京都大学]	神経心理学	金沢大学名誉教授	神経心理学特論
金政 祐司	博士(人間科学)[大阪大学]	社会心理学	追手門学院大学教授	対人行動学特論
田中 健吾	博士(文学)[早稲田大学]	社会心理学 臨床心理学 実験心理学	大阪経済大学教授	社会心理学特論 (産業労働分野に関する理論と支援の展開) 精神保健学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)
川野 健治	博士(人間科学)[早稲田大学]	社会心理学 臨床心理学	立命館大学教授	コミュニティ心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)
吉川 陽子	福島県立医科大学医学部卒業	精神医学	本学大学院 非常勤講師	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)
水谷 聡秀	修士(社会学)[関西大学]	社会心理学 教育心理学 認知心理学	本学大学院 非常勤講師	心理学統計法特論
森 丈弓	博士(文学)[東北大学]	犯罪心理学	甲南女子大学教授	司法・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

「臨床心理士」及び「公認心理師」受験資格取得要件科目に対応する本学大学院の開設授業科目

※受験資格取得要件科目の履修については、個別に相談すること。

科目名	単位	臨床心理士に必要な科目	公認心理師に必要な科目
臨床心理学特論Ⅰ	2	◎	
臨床心理学特論Ⅱ	2	◎	
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	◎	○
臨床心理面接特論Ⅱ	2	◎	
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	◎	○
臨床心理査定演習Ⅱ	2	◎	
臨床心理基礎実習	2	◎	
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習A）	2	◎	○
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習B）	8	◎	○
臨床心理実習Ⅱ	2	◎	
心理学研究法特論	2	選A	
心理学統計法特論	2		
神経心理学特論	2	選B	
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2		○
認知行動療法特論（心理支援に関する理論と実践）	2		○
社会心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	選C	○
対人行動学特論	2		
コミュニティ心理学特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2		○
司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	選D	○
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2		○
精神保健学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2		○
福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	選E	○
心理療法特論	2		
発達臨床心理学特論	2		
投映法特論	2		

※備考：臨床心理士

- ①◎の必修科目から9科目26単位、選A～E（選択必修科目群A,B,C,D,E）からそれぞれ2単位以上、計10単位以上、計36単位以上を修得していること。
- ②修士論文のテーマと内容が臨床心理学に関するものであること。
- ③上記以外に修了必修科目として「相談指導」を履修すること。
- ④必修科目とE群（選E）科目の履修は、心理臨床学専攻の学生に限る。
- ⑤選択科目は、年度によって不開講の場合もあります。

資格認定に関する詳細については、財）日本臨床心理士資格認定協会の公式HPを参照のこと。

公認心理師

- ①○の12科目、30単位全てを履修すること
- ②臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習B）における施設の分野は、保健医療分野と他2分野以上選択する。
（施設の分野は保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等の分野の施設）
実習時間は、450時間以上とし、担当ケースに関する実習時間は計270時間以上
（うち学外施設における当核実習時間は、90時間以上）とする。

資格認定に関する詳細については、厚生労働省の公式HPを参照のこと。

心理臨床学専攻

	科目	単位	学期	年次	担当者
演習	心理臨床学演習Ⅰ	1	春	1	伊東、大島、吉野、本間
	心理臨床学演習Ⅱ	1	秋	1	伊東、大島、吉野、本間
	心理臨床学演習Ⅲ	1	春	2	伊東、大島、吉野、本間
	心理臨床学演習Ⅳ	1	秋	2	伊東、大島、吉野、本間
	特別研究Ⅰ	1	春	2	伊東、大島、吉野、本間
	特別研究Ⅱ	1	秋	2	伊東、大島、吉野、本間
必修科目	臨床心理学特論Ⅰ	2	春	1	吉野
	臨床心理学特論Ⅱ	2	秋	1	伊東
	臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	春	1	本間
	臨床心理面接特論Ⅱ	2	秋	1	本間
	臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	春	1	大島／吉野
	臨床心理査定演習Ⅱ	2	春	1	大島／伊東
	臨床心理基礎実習	2	通	1	伊東／本間
	臨床心理実習Ⅱ	2	通	2	大島、伊東、本間、三井
	相談指導Ⅰ	1	春	2	大島
	相談指導Ⅱ	1	秋	2	伊東
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）*	10	通	1	大島、伊東、吉野、本間
選択科目	心理学研究法特論	2	春	1	吉野
	心理学統計法特論	2	春	1	水谷
	神経心理学特論	2	集	1	大岸
	学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	秋	1	本間
	認知行動療法特論（心理支援に関する理論と実践）	2	秋	1	吉野
	社会心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	秋	1	田中
	対人行動学特論	2	集	1	金政
	コミュニティ心理学特論（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2	春	1	川野
	司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	春	1	森
	精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	春	1	吉川
	精神保健学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2	春	1	田中
	福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	秋	1	大島
	心理療法特論*	2	／	1	不開講
	発達臨床心理学特論*	2	春	1	伊東
	投映法特論*	2	秋	1	伊東

- 1) 「心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」(各1単位)を必修とする。
- 2) 「特別研究Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)を必修とする。
- 3) 教育学専攻の学生は必修科目と選択科目の*科目〔「臨床心理実習Ⅰ」(心理実践実習)、E群(選E)科目(p.26参照):「心理療法特論」、「発達臨床心理学特論」、「投映法特論」〕は履修することができない。
- 4) 教育学専攻より4単位まで修了要件単位に含めることができる。
- 5) 臨床心理士受験資格取得における最低取得要件単位は34単位である。
- 6) 公認心理師受験資格取得における最低取得要件単位は30単位である。
- 7) 「臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)」は、修了要件外科目とする。
- 8) 最低修了要件単位は34単位である。

講義担当教員

心理臨床学専攻

氏名	学位	専門領域	現職	担当科目
伊東 真里	博士(臨床心理学)[武庫川女子大学]	臨床心理学	本学教授	心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 臨床心理学特論Ⅱ 臨床心理基礎実習 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)・Ⅱ 臨床心理査定演習Ⅱ 発達臨床心理学特論 投映法特論 相談指導Ⅱ
mitou@kobe-shinwa.ac.jp				
大島 剛	教育学修士[京都大学]	臨床心理学	本学教授	心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)・Ⅱ 臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)・Ⅱ 相談指導Ⅰ 福祉心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)
oshima@kobe-shinwa.ac.jp				
本間 友巳	博士(教育心理学)[関西学院大学]	教育心理学	本学教授	心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)・Ⅱ 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習)・Ⅱ 学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)
thonma@kobe-shinwa.ac.jp				
三井 知代	博士(人間科学)[神戸女学院大学]	臨床心理学	本学教授	臨床心理実習Ⅱ
mitsui@kobe-shinwa.ac.jp				
吉野 俊彦	博士(心理学) [ロンドン大学ユニバーシティカレッジ]	学習心理学 行動分析学	本学教授	心理臨床学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 心理学研究法特論 臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習) 臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践) 臨床心理学特論Ⅰ 認知行動療法特論 (心理支援に関する理論と実践)
yoshino@kobe-shinwa.ac.jp				
山中 康裕	医学博士[名古屋市立大学]	臨床心理学	京都大学名誉教授	
大岸 通孝	教育学修士[京都大学]	神経心理学	金沢大学名誉教授	神経心理学特論
金政 祐司	博士(人間科学)[大阪大学]	社会心理学	追手門学院大学教授	対人行動学特論
田中 健吾	博士(文学)[早稲田大学]	社会心理学 臨床心理学 実験心理学	大阪経済大学教授	社会心理学特論 (産業労働分野に関する理論と支援の展開) 精神保健学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)
川野 健治	博士(人間科学)[早稲田大学]	社会心理学 臨床心理学	立命館大学教授	コミュニティ心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)
吉川 陽子	福島県立医科大学医学部卒業	精神医学	本学大学院 非常勤講師	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)
水谷 聡秀	修士(社会学)[関西大学]	社会心理学 教育心理学 認知心理学	本学大学院 非常勤講師	心理学統計法特論
森 丈弓	博士(文学)[東北大学]	犯罪心理学	甲南女子大学教授	司法・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

「臨床心理士」及び「公認心理師」受験資格取得要件科目に対応する本学大学院の開設授業科目

※受験資格取得要件科目の履修については、個別に相談すること。

科目名	単位	臨床心理士に必要な科目	公認心理師に必要な科目
臨床心理学特論Ⅰ	2	◎	
臨床心理学特論Ⅱ	2	◎	
臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	2	◎	○
臨床心理面接特論Ⅱ	2	◎	
臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	◎	○
臨床心理査定演習Ⅱ	2	◎	
臨床心理基礎実習	2	◎	
臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）	10		○
臨床心理実習Ⅱ	2	◎	
心理学研究法特論	2	選A	
心理学統計法特論	2		
神経心理学特論	2	選B	
学校臨床心理学特論（教育分野に関する理論と支援の展開）	2		○
認知行動療法特論（心理支援に関する理論と実践）	2		○
社会心理学特論（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	選C	○
対人行動学特論	2		
コミュニティ心理学特論 （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	2		○
司法・犯罪心理学特論（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2		○
精神医学特論（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	選D	○
精神保健学特論（心の健康教育に関する理論と実践）	2		○
福祉心理学特論（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2		○
心理療法特論	2	選E	
発達臨床心理学特論	2		
投映法特論	2		

※備考：臨床心理士

- ①◎の必修科目から8科目16単位、選A～E（選択必修科目群A,B,C,D,E）からそれぞれ2単位以上、計10単位以上、計26単位以上を修得していること。
- ②修士論文のテーマと内容が臨床心理学に関するものであること。
- ③上記以外に修了必修科目として「相談指導」を履修すること。
- ④必修科目とE群（選E）科目の履修は、心理臨床学専攻の学生に限る。
- ⑤選択科目は、年度によって不開講の場合もあります。

資格認定に関する詳細については、財）日本臨床心理士資格認定協会の公式HPを参照のこと。

公認心理師

- ①○の11科目、30単位全てを履修すること
- ②臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）における施設の分野は、保健医療分野と他2分野以上選択する。
（施設の分野は保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等の分野の施設）
実習時間は、450時間以上とし、担当ケースに関する実習時間は計270時間以上
（うち学外施設における当核実習時間は、90時間以上）とする。

資格認定に関する詳細については、厚生労働省の公式HPを参照のこと。

授業科目名	学校臨床心理学特論 (教育分野に関する理論と支援の展開)	担当者名	本間 友巳
-------	---------------------------------	------	-------

授業の目的

学校臨床心理学の理論・方法と学校臨床が対象とする教育課題への対応について、理解を深める。

到達目標

学校臨床心理学の理論や方法が理解できるとともに、学校臨床と関連する教育課題に対応するための基礎的な実践力を身につけることができる。

授業計画・方法

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 外国にルーツをもつ子ども |
| 2 学校と学校臨床 | 10 外国にルーツをもつ子どもの検討 |
| 3 スクールカウンセリング | 11 発達障がいのある子どもの検討 |
| 4 スクールカウンセリングの検討 | 12 性別違和のある子どもの検討 |
| 5 不登校 | 13 非行の子どもの検討 |
| 6 不登校の検討 | 14 虐待を受けた子どもの検討 |
| 7 いじめ | 15 まとめ (学校臨床の総合的討議) |
| 8 いじめの検討 | |

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

(教科書) 特になし。
(参考書) 授業の中で、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

将来、スクールカウンセラーなどで教育分野での活動を考えている人は少なくないと思います。臨床心理学の視点をどのように学校教育に活かしていくかを考えながら、授業に参加してほしいと思います。

授業科目名	コミュニティ心理学特論 (家族関係・集団・地域社会における 心理支援に関する理論と実践)	担当者名	川野 健治
-------	--	------	-------

授業の目的

「コミュニティ心理学」の目的・方法・実践上の問題などについて理解を深め、将来にわたる臨床心理士としての活動の基礎的知識を得る。

到達目標

- コミュニティ心理学の基礎的概念について理解できる。
- コミュニティの課題について、分析することができる。
- コミュニティへの介入方法について、実践することができる。

授業計画・方法

- 1 オリエンテーション
- 2 環境としてのコミュニティ 1：ストレスとソーシャルサポート
- 3 環境としてのコミュニティ 2：エンパワーメント
- 4-5 ワークショップ1：予防教育
- 6 システムとしてのコミュニティ 1：地域の課題を考える
- 7 システムとしてのコミュニティ 2：アンカーポイント
- 8 システムとしてのコミュニティ 3：依存症
- 9-10 ワークショップ2：ステークホルダー分析とエコマップ
- 11 現場としてのコミュニティ 1：社会参加
- 12 現場としてのコミュニティ 2：コミュニティ意識
- 13-14 ワークショップ3：自殺対策
- 15 全体を通しての意見交換 コミュニティ心理学のビジョン、ミッション、バリュー

評価方法

授業への取り組み：55% レポート：45%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

講義を聞いて知識を得るための授業ではありません。質問の準備、授業中での積極的な発言、成果物の作成にしっかり取り組んでください。

授業科目名	司法・犯罪心理学特論 (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	担当者名	森 丈弓
-------	-------------------------------------	------	------

授業の目的

我が国の刑事司法制度について理解し、科学的根拠に基づいた犯罪者処遇・教育の理論、実際の支援の展開について理解する。

到達目標

我が国の刑事司法制度について説明できるようになる。
科学的根拠に基づいた犯罪者処遇・教育の理論、支援とはどのようなものであるか、説明できるようになる。
実際の支援に理論を生かすためには、どのような方策が考えられるか説明できるようになる。

授業計画・方法

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 導入 犯罪心理学とは何か、犯罪を科学的に検討するとはどういうことを理解する。 2 犯罪者処遇におけるリスクアセスメントの意義について理解する。再犯という視点から犯罪現象をとらえることの重要性を理解する。 3 我が国における刑事司法制度、少年保護法制について理解を深める。 4 リスクアセスメントにおける重要な原則であるRNR原則を理解する。 5 犯罪者処遇が、リスクアセスメントにおいてどのように発展してきたのか、その歴史的経緯を知る。 6 リスクアセスメントツールがどういったものであるかを理解する。YLS/CMIという具体的なツールについて、それが犯罪・非行臨床場面においてどのように利用することが可能かを理解する。 7 YLS/CMIの具体的なスコアリングの基準を知り、非行臨床の査定面接において何がポイントとなるかを理解する。 | <ol style="list-style-type: none"> 8 リスクアセスメントの下支えとなっている再犯研究について、実際の分析例を例にとりて理解を深める。 9 再犯研究の結果を元に、どのようにリスクアセスメントツールが構成されていくのか、その手続きを理解する。 10 再犯を分析した結果が、実際の非行少年処遇にどのように活かすことができるかについて考察し、実証的な根拠に基づいた刑事政策がどういったものであるのか理解を深める。 11 エビデンスを生み出し、効果的な教育の手段を探る上で、プログラム評価が重要であることを理解する。 12 効果検証において生じる各種のバイアスについて理解する。これは犯罪分析のみならず、広く臨床研究一般における効果検証において重要であることを知る。 13 再犯研究の実際の例を概観して、効果検証のやり方、問題点を理解する。 14 エビデンス（科学的根拠）に基づく介入、あるいは施策が陥りやすい問題について理解を深める。 15 まとめ これまでの講義を振り返り、補足し、さらに発展的な研究に触れて、理解を深める。 |
|---|---|

評価方法

授業への取り組み：80% レポート：20%

教科書・参考書

(教科書) 森丈弓 犯罪心理学－再犯防止とリスクアセスメントの科学 ナカニシヤ出版
(参考書) なし

授業科目名	社会心理学特論 (産業・労働分野に関する理論と支援の展開)	担当者名	田中 健吾
-------	----------------------------------	------	-------

授業の目的

職場における心理的問題を理解するために必要な、産業心理臨床領域の法律・制度や人的資源管理に係る様々な理論的背景および職業性ストレス理論について学習することを目的とする。

到達目標

本授業における学習の到達目標は以下の通りである。

- 1 ワークモチベーション理論や人的資源管理の手続きを説明できること。
- 2 心理学的職場ストレスモデルの考え方に沿って、ストレスの発生から個人が心理状態を損なうまでのプロセスを説明できること。

授業計画・方法

授業は講義形式を基本とするが、毎回授業内で討議の時間を設ける。

各回の授業計画は以下の通り。

※受講人数や進捗等によって変更の可能性がある。

※順序についても変更の可能性がある。

- | | |
|---|--|
| <ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（講義） 2 ワークモチベーション理論1（講義とディスカッション） 3 ワークモチベーション理論2（講義とディスカッション） 4 組織心理学に関わる制度・法律・職種等（講義とディスカッション） 5 人事評価制度・教育訓練（講義とディスカッション） 6 心理学的ストレスモデル（講義とディスカッション） 7 職業性ストレス理論（講義とディスカッション） 8 職場メンタルヘルス活動と産業カウンセリング1（講義とディスカッション） | <ol style="list-style-type: none"> 9 職場メンタルヘルス活動と産業カウンセリング2（講義とディスカッション） 10 職場のコミュニケーションとワークエンゲージメント（講義とディスカッション） 11 ストレスチェック制度（講義とディスカッション） 12 職場におけるハラスメントの現状と対策（講義とディスカッション） 13 健康経営（講義とディスカッション） 14 産業組織心理学に関するその他の理論（講義とディスカッション） 15 まとめ |
|---|--|

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) なし

(参考書) 田中健吾・高原龍二(編著)『産業・組織心理学TOMORROW』八千代出版
川上憲人『基礎からはじめる職場のメンタルヘルス：事例で学ぶ考え方と実践ポイント』
小杉正太郎(編著)『ストレスと健康の心理学』朝倉書店

授業・準備学習のアドバイス

授業は講義形式を基本とするが、議論のための時間を設け全員参加の場とする。

授 業 科 目 名	神経心理学特論	担 当 者 名	大岸 通孝
-----------	---------	---------	-------

授業の目的

本特論では、神経心理学の最近の知見をもとに、人間の行動と精神活動のしくみについて考察する。

到達目標

脳の構造と機能についてその概要を把握し、神経心理学の分野の雑誌論文を理解する能力を身につける。また、「脳と精神の関係が現在どこまで科学的に解明されているか」について理解を深める。

授業計画・方法

- | | |
|--------------|------------|
| 1 脳と精神 | 9 脳の発達と可塑性 |
| 2 神経心理学研究法 | 10 情動の機構 |
| 3 言語の神経機構 | 11 顔の認知機構 |
| 4 音楽と脳 | 12 記憶の神経機構 |
| 5 視空間能力と頭頂葉 | 13 睡眠と覚醒 |
| 6 社会的知能と前頭前野 | 14 注意の神経機構 |
| 7 思考・意思決定と脳 | 15 視覚の神経機構 |
| 8 脳とパーソナリティ | |

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

(教科書) Teamsにアップロードしてある講義資料をダウンロードしてください。なお、講義資料を印刷する必要はありません。
(参考書) なし

授 業 科 目 名	心理学研究法特論	担 当 者 名	吉野 俊彦
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

現代の心理学では、母集団を仮定し代表値と散布度をもとに現象を理解する方法が主流である。一方、臨床場面ではシングル・ケースを扱う必要があり、必ずしもそのような方法が有効ではない。この授業では、シングル・ケースまたは少数のケースを科学的に扱うシングル・ケース研究法に主眼を置いて、「もうひとつの」科学的な研究法について議論する。

到達目標

- 1 シングル・ケース研究法の基本概念と方法論について理解すること。
- 2 一般的な研究法との違いを理解すると共に、両者の長所・短所について理解すること。
- 3 臨床場面での事例を科学的に見つめる視点を手に入れること。

授業計画・方法

- | | |
|--|--|
| 1 オリエンテーション、科学としての心理学 | 7 シングルケースデザインの特徴 1：単一事例研究法 |
| 2 臨床心理学と行動分析学の接点 | 8 シングルケースデザインの特徴 2：ベースラインデータ |
| 各自が持っている臨床心理学や研究との関係についてのイメージを確認しながら、科学としての行動分析学がどのように臨床心理学の問題に取り組んでいるのかを概観する。 | 9 シングルケースデザインの特徴 3：基本的実験・介入デザイン |
| 3 スキナーの背景 | 10 シングルケースデザインの特徴 4：多層ベースライン法 |
| 4 行動科学の哲学－徹底的行動主義 | 11 グループデザインとシングルケースデザインの比較 1：一般化の方法の違い |
| 5 オペラント条件づけと実験的行動分析 1 | 12 グループデザインとシングルケースデザインの比較 2：サンプリングの問題 |
| 6 オペラント条件づけと実験的行動分析 2 | 13 臨床場面への応用 1：応用行動分析 |
| 配布したそれぞれの内容についての論文に対して各自の提出した意見をもとに議論し、行動分析学の特徴について理解を深める。 | 14 臨床場面への応用 2：臨床行動分析 |
| | 15 まとめ |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) オドノヒュー・ファーガソン (2005) スキナーの心理学：応用行動分析学 (ABA) の誕生 二瓶社
(参考書) バーロー・ハーセン (1997) 一事例の実験デザイン ケーススタディの基本と応用 二瓶社
杉山尚子 (2005) 行動分析学入門―ヒトの行動の思いがけない理由 集英社新書
吉野智富美・吉野俊彦 (2016) 行動分析学ワークブック 学苑社

授業・準備学習のアドバイス

行動分析学を知らない学生は、あらかじめ参考書 (杉山または吉野・吉野) を一読しておいて欲しい。

授 業 科 目 名	心理学統計法特論	担 当 者 名	水谷 聡秀
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

心理学で用いられる統計手法を学ぶ。調査や実験などで研究を進めるとき、問題設定から実験計画や調査計画などの設計、データ収集、集計、分析、考察を行う。これらの研究計画を立てる段階から結果の考察にかけて、記述統計や推測統計、多変量解析に関する知識と技術を必要とする。そこで、さまざまな統計処理が解説され、探索的研究や仮説検証的研究での利用法について論じられる。その際、実際のデータを分析することで理解を深める。

到達目標

- 1 各自の研究に適切な統計手法が適用できること。
- 2 各自で書籍やマニュアルを見てHADによる操作ができること。
- 3 記述統計や図表表現、検定、重回帰分析、因子分析、共分散構造分析などによる分析ができること。

授業計画・方法

- | | |
|------------------------|-------------------------|
| 1 統計手法を学ぶにあたって | 9 回帰分析の基礎 |
| 2 記述統計（代表値と散布度） | 10 重回帰分析 1 |
| 3 相関関係の分析（種々の相関係数と散布図） | 11 重回帰分析 2 |
| 4 推測統計の基礎 | 12 因子分析 1 |
| 5 平均値の差に関するt検定 | 13 因子分析 2 |
| 6 一要因の分散分析 | 14 共分散構造分析 |
| 7 二要因の分散分析 | 15 その他の統計処理の紹介（ベイズ統計など） |
| 8 カイ2乗検定 | |

評価方法

授業への取り組み：40% 課題や宿題：60%

教科書・参考書

- (教科書) 小宮あすか・布井雅人(2018) Excelで今すぐはじめる心理統計——簡単ツールHADで基本を身につける 講談社サイエンスエッセイ ISBN: 978-4-06-154812-1 2800円(税別)
- (参考書) [心理統計法の基礎] 山内光哉 『心理・教育のための統計法(第3版)』(サイエンス社、2010)
 菅民郎 『多変量解析の実践—初心者がらくらく読める〈上〉』(現代数学社、1993)
 [統計法の応用] 三輪哲・林雄亮 『SPSSによる応用多変量解析』(オーム社、2014)

授業・準備学習のアドバイス

Microsoft ExcelのVBAで動く統計プログラムHAD(清水裕士氏[現:関西学院大学教授]による開発)です。エクセルさえあればどこでもできます。最近も高度な分析が追加されていき、心理学向けの教育用としては十分と言えます。これを主に用いてデータ処理することで統計手法の理解を深めてもらいます。統計言語Rは興味のある方のみ教えます。修士論文でデータ分析する必要のある人には履修することをお勧めします。また、それぞれの統計手法について課題を出します。原則的には翌週までに提出とします。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習 I	担 当 者 名	伊東 真里、大島 剛 本間 友巳、吉野 俊彦
-----------	-----------	---------	---------------------------

授業の目的

修論の研究に向けて、個々の卒業論文の発表を通じて、心理学における研究の方法論と視点とを獲得する。特に、1) 観察・測定される事実と体系的な理論との関連、2) 研究における科学性と臨床における個性とがどのような関わりをもっているか、3) 基礎的な研究の方法論と臨床における技術との対応関係について理解する。また、各自の研究計画に対応した論文をまとめて発表することで、個々の領域において理解しておかなければならない基本事項を再確認するとともに、研究の方向性を探ることを目的とする。

到達目標

- 1 発表やディスカッションへの参加を通じて、発表技術の向上を図るとともに、論理的に問題解決に結びつける能力を培う。
- 2 研究の方法論と具体的な進め方について、質の高い先行研究やミーティングから学び、独自の発想とモチベーションを高める。

授業計画・方法

- | | |
|--------------------|---------------------------|
| 1 研究倫理基準や研究倫理規程の指導 | 9 個別指導 |
| 2 卒業論文の発表(1) | 10 個別指導 |
| 3 卒業論文の発表(2) | 11 個別指導 |
| 4 卒業論文の発表(3) | 12 個別指導 |
| 5 卒業論文の発表(4) | 13 個別指導 |
| 6 研究室紹介(各指導教員による) | 14 個別指導 |
| 7 配属研究室の調整 | 15 まとめとレポート(修士論文のテーマについて) |
| 8 配属研究室の決定 | |

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

- (教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

わかりやすく親切な指導をしています。適宜弱点補強や実力チェックを行っています。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅱ	担 当 者 名	伊 東 真 里
-----------	----------	---------	---------

授業の目的

基礎的な理論と方法を理解し、自らの関心や問題意識と照合して、研究テーマを暫定的に作成する。その研究テーマに即して、関連文献・資料収集・分析し、研究テーマを次第に精緻化していく。専門分野である臨床心理学的研究における知識を院生に教授し、院生の修士論文テーマの設定、実施方法等について具体的に指導する。

到達目標

大学院において研究を進めるために必要な準備と方向づけを行い、各自の興味、関心、将来の希望などに基づいて研究領域を選択し、研究論文のテーマを設定することを目標とする。

授業計画・方法

- | | |
|-------------------------|------------------------------|
| 1 専門分野の文献講読と発表① | 9 研究テーマの精緻化と研究デザインの具体化④ |
| 2 専門分野の文献講読と発表② | 10 研究テーマの精緻化と研究デザインの具体化⑤ |
| 3 専門分野の文献講読と発表③ | 11 個別指導① |
| 4 専門分野の文献講読と発表④ | 12 個別指導② |
| 5 専門分野の文献講読と発表⑤ | 13 個別指導③ |
| 6 研究テーマの精緻化と研究デザインの具体化① | 14 個別指導④ |
| 7 研究テーマの精緻化と研究デザインの具体化② | 15 まとめとレポート（研究テーマに関することについて） |
| 8 研究テーマの精緻化と研究デザインの具体化③ | |

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

(教科書) 学会誌や海外ジャーナル類などを適宜紹介する。
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

院生として主体的に研究に取り組む態度が必要です。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅱ	担 当 者 名	大 島 剛
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

心理臨床（特に発達臨床心理学）に関する先行研究を精読し、諸理論や研究方法、分析・処理の仕方などを学習する。その後自分の関心領域、テーマを絞り込み、その領域における文献検索と研究の概要、計画を具体化する。

到達目標

研究の方法論と具体的な進め方について、多くの先行研究から学び、独自の発想とモチーフを発掘する。特に発達臨床心理学的視点を持つことを重視する。

授業計画・方法

- | | |
|-----------------------|-------------------|
| 1 研究テーマの精緻化、関連文献の検索 1 | 9 研究デザインの検討・発表 4 |
| 2 研究テーマの精緻化、関連文献の検索 2 | 10 研究デザインの検討・発表 5 |
| 3 研究テーマの精緻化、関連文献の検索 3 | 11 個別指導 1 |
| 4 研究テーマの精緻化、関連文献の検索 4 | 12 個別指導 2 |
| 5 研究テーマの精緻化、関連文献の検索 5 | 13 個別指導 3 |
| 6 研究デザインの検討・発表 1 | 14 個別指導 4 |
| 7 研究デザインの検討・発表 2 | 15 個別指導 5 |
| 8 研究デザインの検討・発表 3 | |

評価方法

授業への取り組み：70% レポート：30%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

研究は主体的・自発的活動を前提にしています。図書館の文献検索を駆使して、関係する専門書や論文の収集に努めましょう。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅱ	担 当 者 名	本間 友巳
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

各自の研究のテーマ・目的が明確となり、この研究テーマや目的に基づいた研究計画を策定する。

到達目標

研究のテーマや目的に沿った研究方法を見だし、修士論文の作成に向けた研究計画を策定することができる。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション（心理臨床学演習Ⅰの振り返り） | 9 研究計画の明確化（2） |
| 2 研究のテーマ・目的の明確化（1） | 10 研究計画の明確化（3） |
| 3 研究のテーマ・目的の明確化（2） | 11 研究倫理の確認 |
| 4 研究のテーマ・目的の明確化（3） | 12 研究計画の総合的検討（1） |
| 5 研究の方法の明確化（1） | 13 研究計画の総合的検討（2） |
| 6 研究の方法の明確化（2） | 14 研究計画の総合的検討（3） |
| 7 研究の方法の明確化（3） | 15 まとめ（心理臨床学演習Ⅲに向けて） |
| 8 研究計画の明確化（1） | |

評価方法

授業への取り組み：70% レポート：30%

教科書・参考書

（教科書） 特になし
（参考書） 各自の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

修士論文作成のプロセスの中で、論文の枠組みを明確にする時期です。しっかりとした論文の土台がつかれるよう、粘り強い取り組みを望みます。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅱ	担 当 者 名	吉野 俊彦
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

提出された研究計画と春学期での議論を踏まえて、研究計画を検討することを目的とする。各自の関心に従って、授業時間以外に精読した先行論文を発表し、問題点を明らかにしながら、研究計画を具体化していく。

到達目標

論文のより批判的な読み方ができるようになる。
引き出された問題点を、ディスカッションを通じて研究計画にまとめることができるようになる。

授業計画・方法

- 1 オリエンテーション：各自の研究の方向性の確認を行う。
- 2 先行論文の検索と紹介1：各自の興味に基づいて先行論文を検索し、そのタイトル、内容の概要を発表する。
- 3 先行論文の検索と紹介2：各自の興味に基づいて先行論文を検索し、そのタイトル、内容の概要を発表する。
- 4 先行論文の検索と紹介3：各自の興味に基づいて先行論文を検索し、そのタイトル、内容の概要を発表する。
- 5 先行論文の精読と発表1：紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う。
- 6 先行論文の精読と発表2：紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う。
- 7 先行論文の精読と発表3：紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う。
- 8 先行論文の精読と発表4：紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う。
- 9 先行論文の精読と発表5：紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う。
- 10 先行論文の精読と発表6：紹介とディスカッションを踏まえてより詳細に発表する論文の紹介とディスカッションを行う。
- 11 研究計画の立案1：これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う。
- 12 研究計画の立案2：これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う。
- 13 研究計画の立案3：これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う。
- 14 研究計画の立案4：これまでの議論を踏まえた研究計画の提案とその内容についてのディスカッションを行う。
- 15 まとめ：次年度に向けて残されている問題点の洗い出しと課題を確認する。

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

- (教科書) なし
(参考書) 福澤一吉 (2018) 新版議論のレッスン NHK生活人新書
福澤一吉 (2010) 議論のルール NHK出版新書
木下是雄 (1981) 理解系の作文技術 中公新書
戸田山和久 (2011) 「科学的思考」のレッスン—学校で教えてくれないサイエンス NHK出版新書

授業・準備学習のアドバイス

指示待ちでなく、積極的・自発的な活動を期待します。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅲ	担 当 者 名	伊 東 真 里
-----------	----------	---------	---------

授業の目的

各自の修士論文のテーマに応じて臨床心理学分野の先行研究をよく理解し、研究計画を進め、調査などを通してデータの収集と分析を行い、修士論文として完成させることを目的とする。

到達目標

修士論文を完成させることを目標とする。

授業計画・方法

- | | |
|-------------------|--------------------|
| 1 修士論文の研究計画発表と確認① | 9 修士論文のデータの収集と分析① |
| 2 修士論文の研究計画発表と確認② | 10 修士論文のデータの収集と分析② |
| 3 修士論文の研究計画発表と確認③ | 11 修士論文のデータの収集と分析③ |
| 4 修士論文の研究計画発表と確認④ | 12 修士論文のデータの収集と分析④ |
| 5 修士論文の研究計画発表と確認⑤ | 13 修士論文のデータの収集と分析⑤ |
| 6 修士論文の研究計画発表と確認⑥ | 14 修士論文のデータの収集と分析⑥ |
| 7 修士論文の研究計画発表と確認⑦ | 15 まとめ |
| 8 修士論文の研究計画発表と確認⑧ | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

院生として主体的に研究に取り組む態度が必要です。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅲ	担 当 者 名	大 島 剛
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

臨床心理学分野における修士論文作成のための指導を目的とする。まず演習Ⅰで形作られてきた研究計画に対して、問題意識、先行研究からの流れや位置付けを明確にした上で、個々の院生のオリジナリティーが発揮されるような研究方法を具現化しながら調査・実験などを積み重ね、修士論文を作成するプロセスをとる。

到達目標

修士論文完成の完成に向けた論点の整理、調査の開始。

授業計画・方法

- 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味。
- 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味。
- 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味。
- 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味。
- 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味。
- 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味。
- 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味。
- 問題意識の再確認、先行研究からの位置付け、個人的オリジナリティー、調査実験計画の吟味。
- 調査実験研究の途中経過報告。(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など。)
- 調査実験研究の途中経過報告。(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など。)
- 調査実験研究の途中経過報告。(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など。)
- 調査実験研究の途中経過報告。(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など。)
- 調査実験研究の途中経過報告。(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など。)
- 調査実験研究の途中経過報告。(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など。)
- 調査実験研究の途中経過報告およびまとめ。

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

考えること、結果を解釈することが興味深く、楽しくてしょうがなくなるような研究を目指しましょう。そうすると修士論文が自分の財産になります。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅲ	担 当 者 名	本間 友巳
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

各自の研究テーマや目的に基づいた研究計画に応じて、調査などを通じたデータの収集と分析を行い、修士論文の作成ができるレベルに到達する。

到達目標

研究のテーマや目的に沿った研究方法による調査等を通して、データの収集と分析を完成することができる。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション（心理臨床学演習Ⅱの振り返り） | 9 データの分析（2） |
| 2 研究のテーマ・目的・方法の確認（1） | 10 データの分析（3） |
| 3 研究のテーマ・目的・方法の確認（2） | 11 データの検討（1） |
| 4 研究のテーマ・目的・方法の確認（3） | 12 データの検討（2） |
| 5 データの収集（1） | 13 中間発表（1） |
| 6 データの収集（2） | 14 中間発表（2） |
| 7 データの収集（3） | 15 まとめ（心理臨床学演習Ⅳに向けて） |
| 8 データの分析（1） | |

評価方法

授業への取り組み：70% レポート：30%

教科書・参考書

（教科書） 特になし
（参考書） 各自の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

修士論文作成のプロセスの中で、データを収集し分析する重要な時期です。しっかりとした論文がつかれるよう、丁寧なデータの収集と分析を期待します。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅲ	担 当 者 名	吉野 俊彦
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って、データの収集と分析を行い、論文として完成させる。

到達目標

修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

授業計画・方法

（授業方法） 発表とディスカッションによって進める。

（授業計画）

- | | |
|---|-----------------------------------|
| 1 研究計画の確認 | 10 中間報告の準備1 |
| 2 より明確な論文の書き方1 | 11 中間報告の準備2 |
| 3 より明確な論文の書き方2 | 12 中間報告の準備3 |
| 4 より明確な論文の書き方3 | 得られたデータを分析し、中間報告に向けての準備を行う。 |
| 論文全体の構成の仕方、ブレインストーミングから各部分の文章の構成の仕方について、ワークを行う。 | 13 中間報告（予定）
全体会での中間報告を行う。 |
| 5 データの収集1 | 14 改善点の検討1 |
| 6 データの収集2 | 中間報告を受けて、各自の問題点を洗い出し、議論を深める。 |
| 7 データの収集3 | 15 まとめと秋学期に向けての課題の特定 |
| 8 データの収集4 | 前回の議論に基づいて、残されている課題を特定し、その対応を考える。 |
| 9 データの収集5
実験・調査・観察などを行い、随時報告を行う。 | |

評価方法

授業への取り組み：50% 議論の整合性：50%

教科書・参考書

（教科書） なし
（参考書） なし

授業・準備学習のアドバイス

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者－実践家モデルに対応する臨床心理士として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅳ	担 当 者 名	伊 東 真 里
-----------	----------	---------	---------

授業の目的

各自の修士論文のテーマに応じて臨床心理学分野の先行研究をよく理解し、研究計画を進め、調査などを通してデータの収集と分析を行い、修士論文として完成させることを目的とする。

到達目標

修士論文を完成させることを目標とする。

授業計画・方法

- | | |
|------------------------------|-------------------------------|
| 1 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換① | 9 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑨ |
| 2 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換② | 10 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑩ |
| 3 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換③ | 11 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑪ |
| 4 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換④ | 12 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑫ |
| 5 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑤ | 13 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑬ |
| 6 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑥ | 14 最終確認 |
| 7 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑦ | 15 まとめ |
| 8 修士論文の完成に向けての個別指導とゼミ生の意見交換⑧ | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

院生として主体的に研究に取り組む態度が必要です。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅳ	担 当 者 名	大 島 剛
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

臨床心理学分野における修士論文作成のための指導を目的とする。まず演習Ⅰで形作られてきた研究計画に対して、問題意識、先行研究からの流れや位置付けを明確にした上で、個々の院生のオリジナリティーが発揮されるような研究方法を具現化しながら調査・実験などを積み重ね、修士論文を作成するプロセスをとる。

到達目標

修士論文完成。

授業計画・方法

- 1 調査実験研究の途中経過報告。
(分析を念頭においた研究計画、結果による軌道修正など。)
- 2 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 3 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 4 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 5 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 6 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 7 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 8 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 9 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 10 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 11 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 12 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 13 各自の進度に合わせた個人的指導やグループ相互の意見交換。(結果の解釈、考察、今後の展開など。)
- 14 最終確認
- 15 まとめ

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

思ったよりも時間経過が早く、時間が足りなくなります。早めに動くようにしましょう。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅳ	担 当 者 名	本間 友巳
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

これまでの研究の成果をもとに、質の高い修士論文を完成させる。

到達目標

これまでの研究をもとにして、質の高い修士論文を完成することができる。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------------|-----------------------|
| 1 オリエンテーション（心理臨床学演習Ⅲの振り返り） | 9 修士論文の推敲（1） |
| 2 修士論文の内容の最終確認（1） | 10 修士論文の推敲（2） |
| 3 修士論文の内容の最終確認（2） | 11 修士論文の推敲（3） |
| 4 修士論文の内容の最終確認（3） | 12 修士論文の推敲（4） |
| 5 修士論文の作成（1） | 13 口頭試問に向けて（1） |
| 6 修士論文の作成（2） | 14 口頭試問に向けて（2） |
| 7 修士論文の作成（3） | 15 まとめ（研究の振り返りと今後の展望） |
| 8 修士論文の作成（4） | |

評価方法

授業への取り組み：70% レポート：30%

教科書・参考書

（教科書） 特になし
（参考書） 各自の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

修士論文作成の最終段階です。質の高い論文となるよう、広い視野をもつとともに細部にも細心の注意を払って、論文作成に取り組みましょう。

授 業 科 目 名	心理臨床学演習Ⅳ	担 当 者 名	吉野 俊彦
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って、データの収集と分析を行い、論文として完成させる。

到達目標

修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

授業計画・方法

（授業方法） 発表とディスカッションによって進める。

（授業計画）

- | | |
|---|--|
| 1 ゼミ内中間報告1 | 9 データの読み方3 |
| 2 ゼミ内中間報告2 | 10 データの読み方4 |
| 3 ゼミ内中間報告3 | 11 データの読み方5 |
| 取り組んだ課題を含んで、再度詳細な中間報告を行い、議論する。 | 12 データの読み方6 |
| 4 より明確な論文の書き方1 | 各自の得られたデータと先行研究との関係についてディスカッションし、目的に対応した結論を得るための準備を行う。 |
| 5 より明確な論文の書き方2 | 13 論文の完成とその確認 |
| 6 より明確な論文の書き方3 | 完成された論文をゼミ内で提出し、最終確認を行う。 |
| 春学期での復習と各自の到達度に応じて、よりわかりやすい文章の書き方を練習する。 | 14 発表1 |
| 7 データの読み方1 | 15 発表2 |
| 8 データの読み方2 | 各自の論文について発表し、さらに今後の研究へとつながる問題について議論する。 |

評価方法

授業への取り組み：50% 議論の整合性：50%

教科書・参考書

（教科書） なし
（参考書） なし

授業・準備学習のアドバイス

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者－実践家モデルに対応する臨床心理士として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

授業科目名	精神医学特論 (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	担当者名	吉川 陽子
-------	--------------------------------	------	-------

授業の目的

①将来臨床心理士や公認心理師になる人を対象とし、臨床心理学の理論と実践の習得を深めるため、必要な精神医学の知識と技術を身につける。②精神科診療の診断と治療について、高度専門職である精神科医、心理士（臨床心理士、公認心理師）、ソーシャルワーカーの三職種からのアプローチと連携を、さまざまな精神疾患の事例を通して理解する。③精神疾患と精神医学・医療のあり方について基本から応用までを学ぶ。④臨床心理士や公認心理師を目指す院生には必須の精神医学関連知識と技術の習得を目指している。

到達目標

①精神医学についての知識と技術、考え方を具体的な事例を学ぶことによる精神科臨床の進め方の習得。②精神医療は、多様な情報から必要なデータを集め診断をつけ、その診断結果から治療方法を検討しエビデンスに基づいた精神医学・医療の習得。③手順は、ICD-10、DSM-5 など操作的診断基準を用いた科学的な方法の習得。④倫理面と守秘義務に配慮しながら、関連する専門職種との連携の習得。

授業計画・方法

(授業方法) 基本的にはスライドを元にした講義を行う（スライドをレジュメとして利用）。具体的な症例を示し、各種精神疾患の診断と治療（薬物療法、心理療法を含む）、援助に関して理解を深める。適宜、公認心理士試験についても触れていきたい。授業は、対面授業を3回、その他はTeams上での資料提示により実施する。

(授業計画)

- | | |
|----------------------|-------------------------------|
| 1 オリエンテーション、精神疾患とは | 9 代表的な精神疾患2：気分障害（うつ病、双極性障害） |
| 2 精神症状のみかた | 10 代表的な精神疾患3：強迫症、不安症群 |
| 3 精神疾患の診断・面接、診察、各種検査 | 11 代表的な精神疾患4：適応障害、心的外傷後ストレス障害 |
| 4 精神疾患と薬物療法 | 12 代表的な精神疾患5：神経発達症群 |
| 5 心理療法・支援の基本 | 13 代表的な精神疾患6：児童・思春期における心理的問題 |
| 6 リエゾン精神医学と心理支援 | 14 代表的な精神疾患7：女性の心理的問題 |
| 7 多職種協働と医療連携 | 15 代表的な精神疾患8：高齢期における心理的問題、まとめ |
| 8 代表的な精神疾患1：統合失調症 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 『三村将・幸田るみ子・成本迅（2019）精神疾患とその治療』 医歯薬出版
(参考書) 関連書および必要な文献について適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

具体的な事例を紹介しながら授業を進めていきます。受身的ではなく、自ら疑問を持ち、探求すること、積極的な授業参加を望みます。対面授業ではなるべく質問の時間をもちますので、気軽に質問してください。

授 業 科 目 名	精神保健学特論 (心の健康教育に関する理論と実践)	担 当 者 名	田中 健吾
-----------	------------------------------	---------	-------

授業の目的

多様なストレス問題の増加に伴い、メンタルヘルスリテラシー（心の健康教育）の重要性とそのあり方が問われている。ストレス問題は、ストレス科学、心身医学、健康科学、予防医学、臨床医学だけでなく、倫理問題や法律問題まで幅広く関連している。そこで、本授業の目的は、①こころの健康教育についてストレスに関する理論と実践の習得、②具体的な医療活動、保健活動、災害活動などにおける心理的支援の最新かつ正確な知識と技術の習得とする。

到達目標

①心理的支援の実践にあたって、心理学的視点だけでなく、生物学的視点、社会的視点、倫理的視点の習得。②病気になってからどうするという疾病志向に立脚した捉え方に留まらず、よりポジティブに健康生成の観点から健康志向の重要性の習得。③働き方改革にみられるように、個人対応の限界もみられる現在、集団として心の健康評価を進める上で必要な理論と実践についての習得。

授業計画・方法

(授業方法) 講義に加え、調べ学習・討論を通じて臨床応用へとつなげる。

(授業計画)

- | | |
|--|--------------------------|
| 1 心の健康教育に関する概論（イントロダクション） | 8 ストレス臨床の実際：環境調整 |
| 2 ストレス概念と研究の歴史 | 9 医療現場における心理社会的課題と必要な支援 |
| 3 ストレスのメカニズムとプロセス：生物学的側面（生化学および生理学からの接近） | 10 保健活動における心理社会的課題と必要な支援 |
| 4 ストレスのメカニズムとプロセス：心理学的側面 | 11 災害等に必要心理的支援 |
| 5 ストレス理論と測定 | 12 トピック（産業心理臨床） |
| 6 ストレス臨床の実際：医学的対応 | 13 臨床実践のための倫理問題 |
| 7 ストレス臨床の実際：心理学的対応 | 14 臨床実践のための法律問題 |
| | 15 授業内確認テストとレポート |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

- (教科書) なし
(参考書) 『ストレスと健康の心理学』 小杉正太郎（編著） 朝倉書店
『ストレス学ハンドブック』 丸山総一郎（編著） 創元社
『働く女性のストレスとメンタルヘルスケア』 丸山総一郎（編著） 創元社

授業・準備学習のアドバイス

授業内容・構成は、公認心理師養成大学教員連絡協議会の策定した標準シラバスを踏まえたものです。エビデンスに基づいた科学者－実践者モデルに基づいた学習姿勢を期待します。

授 業 科 目 名	相談指導 I	担 当 者 名	大島 剛
-----------	--------	---------	------

授業の目的

個々の院生が本大学の心理・教育相談室において担当したケースのマネジメントをすること。

到達目標

担当するケースのアセスメントや心理治療を適切に行い、心理臨床の目的に適った援助が為されていることを確認すること。

授業計画・方法

- | | |
|----------|-----------|
| 1 相談指導 1 | 9 相談指導 9 |
| 2 相談指導 2 | 10 相談指導10 |
| 3 相談指導 3 | 11 相談指導11 |
| 4 相談指導 4 | 12 相談指導12 |
| 5 相談指導 5 | 13 相談指導13 |
| 6 相談指導 6 | 14 相談指導14 |
| 7 相談指導 7 | 15 相談指導15 |
| 8 相談指導 8 | |

評価方法

授業への取り組み：90% 担当者から指示：10%

教科書・参考書

- (教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

ケースについての悩みを積極的に相談してください。

授業科目名	相談指導Ⅱ	担当者名	伊東 真里
-------	-------	------	-------

授業の目的

個々の院生が本大学の心理・教育相談室において担当したケースのマネジメントをすること。

到達目標

担当するケースのアセスメントや心理治療を適切に行い、心理臨床の目的に適った援助が為されていることを確認すること。

授業計画・方法

(授業方法) 相談指導は1回90分、年間30回程度を基本として、ケース指導を行う。

(授業計画)

1 相談指導 1	9 相談指導 9
2 相談指導 2	10 相談指導10
3 相談指導 3	11 相談指導11
4 相談指導 4	12 相談指導12
5 相談指導 5	13 相談指導13
6 相談指導 6	14 相談指導14
7 相談指導 7	15 相談指導15
8 相談指導 8	

評価方法

授業への取り組み：90% 担当者から指示：10%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

ケースについての悩みを積極的に相談してください。

授 業 科 目 名	対 人 行 動 学 特 論	担 当 者 名	金 政 祐 司
-----------	---------------	---------	---------

授業の目的

人は他者との関係性のなかに編み込まれている。私たちは他者の存在なくしては自らの存在を認識することさえも危うくなる。このような観点から、まず、私が他者と関わっていくということとはどういうことなのかについて親密な他者との関係性に焦点を当て話を進めていく。次に、私と集団や社会から受けている影響やそのネットワークの重要性について解説し、その後、社会や文化といった普段は気にもとめないような大きなものから影響を受けている私と、それと同時に、社会や文化に積極的に関わっていく存在でもある私について、日常的な出来事と関連させながら説明を行う。本講義では、私と他者との関係性、また、私と社会や文化との関わりについて、実社会においても役立つような知識の育成を目指す。

到達目標

- 1 自己や親密な関係についての諸理論を理解することができる。
- 2 自己や他者のとらえ方が他者との関係性や適応性に及ぼす影響について理解することができる。
- 3 個人と集団との関わりについて理解することができる。
- 4 個人と社会や文化との関わりについて理解することができる。
- 5 授業内容に対する自分の考えや疑問を言語化することができる。

授業計画・方法

(授業方法) 講義を行うとともに学生に講義内容に関しての発言を求め、討論を行いながら進めていく。講義で得られた知識をいかに実社会に連動させるかについて思索しながら、対人行動学について体系的に学習していく。それゆえ、授業内での積極的な発言を求める。

(授業計画)

- 1 イントロダクション・わたしとは何か? (1) 講義の内容、評価方法の説明
心理学での自己の諸理論の説明
- 2 わたしとは何か? (2) 自己評価過程、自尊心、自己と適応
- 3 わたしが他者と関わる時 (1) 対人認知、印象形成、ステレオタイプについて
- 4 わたしが他者と関わる時 (2) 青年期の愛着スタイル、自己成就予言
- 5 親密な関係の光と影 (1) 好意と愛情、報酬の返報性、親密な関係の維持
- 6 親密な関係の光と影 (2) ソーシャルサポート、関係葛藤、DV
- 7 他者に見せるわたし (1) 自己呈示、セルフ・ハンディキャッピング
- 8 他者に見せるわたし (2) 自己呈示とは?親密な他者への自己呈示について
- 9 集団に所属すること (1) 他者からの影響、ネットワーク理論
- 10 集団に所属すること (2) 小さな世界問題、社会的ジレンマ
- 11 社会のなかの落とし穴 (1) 悪質商法
- 12 社会のなかの落とし穴 (2) 説得と承諾のメカニズム
- 13 私の文化を越えて (1) 文化的自己観
- 14 私の文化を越えて (2) 認知と文化、幸福感や価値と文化の関係
- 15 本講義のまとめとして

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

- (教科書) 「わたしから社会へ広がる心理学」 金政祐司・石盛真徳 (編著) 北樹出版
(参考書) 「新編 社会心理学」 堀洋道・山本真理子・吉田富二雄 (編著) 福村出版
「史上最強図解よくわかる恋愛心理学」 金政祐司・相馬敏彦・谷口淳一 (著) ナツメ社

授業・準備学習のアドバイス

各回の授業内容について、事前に予習を行い、その内容を把握しておくこと。また、その内容に関する議論に耐えうるだけの知識を身につけておくこと。事前の予習は、教科書や配布する資料等を参考にするとともに、各回の授業内容と関連する文献を読んでおくこと。

授 業 科 目 名	投映法特論	担 当 者 名	伊 東 真 里
-----------	-------	---------	---------

授業の目的

臨床心理査定技法としての心理検査の意味についての理解を深め、臨床現場で適用される心理検査（投映法）について、実践を通して習熟し、臨床場面で応用できる能力を身につける。また、臨床場面で注意すべき倫理的問題についても考察を深める。

到達目標

臨床心理学の深い知識と実証的態度を身につけるとともに、心理臨床場面でクライアントの不応症状に応じた心理アセスメントの方法について、医学的・心理的・教育的な視点から総合的に捉え、治療に結びつけるケース理解のプロセスを学習する。そして、ケース理解を促進する上で有用な心理検査（投映法）について、個々の症例を通してその解釈と評価に習熟するとともに、症例に応じた治療方法について考察できることを目標とする。

授業計画・方法

- | | |
|-----------------------------|-------------------------|
| 1 投映法による臨床心理査定1（ロールシャッハテスト） | 9 事例研究（不登校）の総合アセスメント1 |
| 2 投映法による臨床心理査定2（ロールシャッハテスト） | 10 事例研究（不登校）の総合アセスメント2 |
| 3 投映法による臨床心理査定3（P-Fスタディ） | 11 事例研究（発達障害）の総合アセスメント1 |
| 4 投映法による臨床心理査定4（P-Fスタディ） | 12 事例研究（発達障害）の総合アセスメント2 |
| 5 投映法による臨床心理査定5（SCT） | 13 事例研究（心身症）の総合アセスメント1 |
| 6 投映法による臨床心理査定6（SCT） | 14 事例研究（心身症）の総合アセスメント2 |
| 7 投映法による臨床心理査定7（バウムテスト） | 15 まとめとレポート（アセスメントについて） |
| 8 投映法による臨床心理査定8（バウムテスト） | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

（教科書） なし
（参考書） 適宜授業中に指示する。

授業・準備学習のアドバイス

心理検査に関する基本的な知識を身につけておくことが望ましいでしょう。
15回目に課題レポートを実施（時間：30分 配点：50点）

授 業 科 目 名	特別研究 I	担 当 者 名	伊 東 真 里
-----------	--------	---------	---------

授業の目的

担当教員による院生の個別指導と心理臨床学専攻の全教員、全院生参加による課題研究を目的とする。

到達目標

各院生の設定したテーマ・研究方法・データ分析などが適切に行われているかどうかについて検討し、各院生が質の高い修士論文を執筆できるようにすることを目標とする。

授業計画・方法

（授業方法） オリエンテーション段階、促進段階と最終段階と3段階に分け、それぞれ特色のある演習を行う。

（授業計画）

課題ごとの研究発表を心理臨床学専攻の教員、院生参加による発表・討議形式およびグループ・ディスカッション方式によって行う。

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 修士論文の年間スケジュールに関する全体討議 | 9 修士論文の研究デザインに関するディスカッション② |
| 2 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討① | 10 修士論文の研究デザインに関するディスカッション③ |
| 3 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討② | 11 修士論文の研究デザインに関するディスカッション④ |
| 4 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討③ | 12 修士論文の研究デザインに関するディスカッション⑤ |
| 5 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討④ | 13 修士論文の調査に関する指導① |
| 6 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討⑤ | 14 修士論文の調査に関する指導② |
| 7 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討⑥ | 15 修士論文の中間発表（予定） |
| 8 修士論文の研究デザインに関するディスカッション① | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

（教科書） なし
（参考書） なし

授業・準備学習のアドバイス

総合的な思考力を養うための課題演習であるので頑張ってください。

授 業 科 目 名	特別研究 I	担 当 者 名	大 島 剛
-----------	--------	---------	-------

授業の目的

修士論文作成に結びつく個人研究と心理臨床学専攻の教員、院生全員参加による課題研究。

到達目標

広く発達臨床心理学に関係するテーマを設定し、研究方法・データの分析などについて検討し、考察を深めていく。質の高い修士論文作成のために力量を高めていく。

授業計画・方法

(授業方法) 研究指導教員とともに研究テーマを絞っていき、修士論文に結び付けていく。

(授業計画)

- | | |
|------------------------------------|-------------------------|
| 1 オリエンテーションおよび今後の研究計画の全体的なスケジュール作成 | 8 研究方法の倫理性、妥当性、信頼性の検討① |
| 2 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討① | 9 研究方法の倫理性、妥当性、信頼性の検討② |
| 3 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討② | 10 研究方法の倫理性、妥当性、信頼性の検討③ |
| 4 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討③ | 11 研究方法の倫理性、妥当性、信頼性の検討④ |
| 5 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討④ | 12 研究方法の倫理性、妥当性、信頼性の検討⑤ |
| 6 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討⑤ | 13 中間発表準備 |
| 7 修士論文作成のための先行研究と研究方法の検討⑥ | 14 中間発表① |
| | 15 中間発表② |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

総合的な思考力を養うための課題演習であるのでがんばってほしい。

授 業 科 目 名	特別研究 I	担 当 者 名	本 間 友 巳
-----------	--------	---------	---------

授業の目的

心理臨床学演習Ⅲと平行して、各自の修士論文作成に必要な具体的な知識やスキルを身につけさせることを目的とする。

到達目標

研究のテーマ・目的に沿った研究方法による調査等に必要となる知識やスキルを獲得することができる。

授業計画・方法

- | | |
|-----------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション (特別研究の意味) | 9 論文作成のポイント (1) |
| 2 先行研究の収集 (1) | 10 論文作成のポイント (2) |
| 3 先行研究の収集 (2) | 11 論文作成のポイント (3) |
| 4 先行研究の収集 (3) | 12 論文作成のポイント (4) |
| 5 先行研究の検討 (1) | 13 中間発表の内容の検討 (1) |
| 6 先行研究の検討 (2) | 14 中間発表の内容の検討 (2) |
| 7 先行研究の検討 (3) | 15 まとめ (特別研究Ⅱに向けて) |
| 8 先行研究の検討 (4) | |

評価方法

授業への取り組み：70% レポート：30%

教科書・参考書

(教科書) 特になし
(参考書) 各自の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

修士論文作成のための知識やスキルを正確に身につけることは、質の高い論文作成に不可欠です。しっかりした論文を構築するために、能動的な態度での学習を望みます。

授 業 科 目 名	特別研究Ⅰ	担 当 者 名	吉野 俊彦
-----------	-------	---------	-------

授業の目的

心理臨床学演習Ⅲと平行して、研究のためのノウハウ、論文作成のためのノウハウを獲得することを目的とする。

到達目標

修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

授業計画・方法

(授業方法) 発表とディスカッションによって進める。また、随時個別指導を行う。

(授業計画)

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1 研究計画の確認 | 10 中間報告の準備1 |
| 2 より明確な論文の書き方1 | 11 中間報告の準備2 |
| 3 より明確な論文の書き方2 | 12 中間報告の準備3 |
| 4 より明確な論文の書き方3 | 13 得られたデータを分析し、中間報告に向けての準備を行う。 |
| 論文全体の構成の仕方、ブレインストーミングから各部分 | 13 中間報告 |
| の文章の構成の仕方について、ワークを行う。 | 全体会での中間報告を行う。 |
| 5 データの収集1 | 14 改善点の検討1 |
| 6 データの収集2 | 14 中間報告を受けて、各自の問題点を洗い出し、議論を深める。 |
| 7 データの収集3 | 15 まとめと秋学期に向けての課題の特定 |
| 8 データの収集4 | 15 前回の議論に基づいて、残されている課題を特定し、その |
| 9 データの収集5 | 15 対応を考える。 |
- 実験・調査・観察などを行い、随時報告を行う。

評価方法

授業への取り組み：80% 議論の整合性：20%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者-実践家モデルに対応する臨床心理士として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ	担 当 者 名	伊東 真里
-----------	-------	---------	-------

授業の目的

担当教員による院生の個別指導と心理臨床学専攻の全教員、全院生参加による課題研究を目的とする。

到達目標

各院生の設定したテーマ・研究方法・データ分析などが適切に行われているかどうかについて検討し、各院生が質の高い修士論文を完成できるようにすることを目標とする。

授業計画・方法

(授業方法) オリエンテーション段階、促進段階と最終段階と3段階に分け、それぞれ特色のある演習を行う。

(授業計画)

課題ごとの研究発表を心理臨床学専攻の教員、院生参加による発表・討議形式およびグループ・ディスカッション方式によって行う。

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 修士論文完成に向けての個人指導① | 9 修士論文完成に向けての個人指導⑨ |
| 2 修士論文完成に向けての個人指導② | 10 修士論文完成に向けての個人指導⑩ |
| 3 修士論文完成に向けての個人指導③ | 11 修士論文完成に向けての個人指導⑪ |
| 4 修士論文完成に向けての個人指導④ | 12 修士論文完成に向けての個人指導⑫ |
| 5 修士論文完成に向けての個人指導⑤ | 13 修士論文完成に向けての個人指導⑬ |
| 6 修士論文完成に向けての個人指導⑥ | 14 修士論文の最終確認 |
| 7 修士論文完成に向けての個人指導⑦ | 15 研究成果の総括 |
| 8 修士論文完成に向けての個人指導⑧ | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

総合的な思考力を養うための課題演習であるので頑張ってください。

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ	担 当 者 名	大 島 剛
-----------	-------	---------	-------

授業の目的

修士論文作成に結びつく個人研究と心理臨床学専攻の教員、院生全員参加による課題研究。

到達目標

広く発達臨床心理学に関係するテーマを設定し、研究方法・データの分析などについて検討し、考察を深めていく。質の高い修士論文作成のために力量を高めていく。

授業計画・方法

(授業方法) 研究指導教員とともに研究テーマを絞っていき、修士論文に結び付けていく。

(授業計画)

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 夏休み中の進捗状況発表 | 9 先行研究との比較検討および考察作成③ |
| 2 予備調査・データ収集準備① | 10 研究成果の概括 |
| 3 予備調査・データ収集準備② | 11 研究成果の報告準備① |
| 4 データ収集および解析① | 12 研究成果の報告準備② |
| 5 データ収集および解析② | 13 研究成果の報告 |
| 6 データ収集および解析③ | 14 まとめ① |
| 7 先行研究との比較検討および考察作成① | 15 まとめ② |
| 8 先行研究との比較検討および考察作成② | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

総合的な思考力を養うための課題演習であるのでがんばってほしい。

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ	担 当 者 名	本 間 友 巳
-----------	-------	---------	---------

授業の目的

心理臨床学演習Ⅳと平行して、各自の論文作成の進度に合わせた指導を受けることを通して、質の高い修士論文を完成させる。

到達目標

論文作成の進度に沿った学びを通して、質の高い修士論文を完成することができる。

授業計画・方法

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| 1 オリエンテーション (特別研究Ⅰの振り返り) | 9 全体での論文の検討 (4) |
| 2 各自の論文作成の進度に沿った個人指導 (1) | 10 各自の論文作成の進度に沿った個人指導 (5) |
| 3 全体での論文の検討 (1) | 11 全体での論文の検討 (5) |
| 4 各自の論文作成の進度に沿った個人指導 (2) | 12 各自の論文作成の進度に沿った個人指導 (6) |
| 5 全体での論文の検討 (2) | 13 修士論文の最終確認 (1) |
| 6 各自の論文作成の進度に沿った個人指導 (3) | 14 修士論文の最終確認 (2) |
| 7 全体での論文の検討 (3) | 15 まとめ (研究の総括) |
| 8 各自の論文作成の進度に沿った個人指導 (4) | |

評価方法

授業への取り組み：70% レポート：30%

教科書・参考書

(教科書) 特になし
(参考書) 各自の研究テーマに応じて、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

これまでの研究の成果としての修士論文を完成させる時期です。理論的にも実践的にも意味のある質の高い論文を期待します。

授 業 科 目 名	特別研究Ⅱ	担 当 者 名	吉野 俊彦
-----------	-------	---------	-------

授業の目的

臨床心理学分野の修士論文作成を目的とする。前年度の心理臨床学演習Ⅰで議論した研究計画に従って、データの収集と分析を行い、論文として完成させる。

到達目標

修士論文の完成
独立した研究者としての基礎的な能力と姿勢の獲得

授業計画・方法

(授業方法) 発表とディスカッションによって進める。

(授業計画)

- | | | | |
|---|--|----|--|
| 1 | ゼミ内中間報告1 | 9 | データの読み方3 |
| 2 | ゼミ内中間報告2 | 10 | データの読み方4 |
| 3 | ゼミ内中間報告3 | 11 | データの読み方5 |
| | 取り組んだ課題を含んで、再度詳細な中間報告を行い、議論する。 | 12 | データの読み方6 |
| 4 | より明確な論文の書き方1 | | 各自の得られたデータと先行研究との関係についてディスカッションし、目的に対応した結論を得るための準備を行う。 |
| 5 | より明確な論文の書き方2 | 13 | 論文の完成とその確認 |
| 6 | より明確な論文の書き方3 | | 完成された論文をゼミ内で提出し、最終確認を行う。 |
| | 春学期での復習と、各自の到達度に応じて、よりわかりやすい文章の書き方を練習する。 | 14 | 発表1 |
| 7 | データの読み方1 | 15 | 発表2 |
| 8 | データの読み方2 | | 各自の論文について発表し、さらに今後の研究へとつながる問題について議論する。 |

評価方法

授業への取り組み：50% 議論の整合性：50%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

修士課程に学ぶことは、研究者となる準備をすることです。論文を完成させるだけでなく、研究者－実践家モデルに対応する臨床心理士として活動する基礎をきちんと築くように努力してください。

授 業 科 目 名	認知行動療法特論 (心理支援に関する理論と実践)	担 当 者 名	吉野 俊彦
-----------	-----------------------------	---------	-------

授業の目的

認知行動療法 (CBT) は、様々な精神障害への介入方法として科学的根拠に基づいて有効性が確認されている。本講義は、1) CBT が認知療法と行動療法の2つの異なるルーツを持って現代の臨床心理学において中核的な位置を占めるようになった背景、2) それぞれの哲学的・理論的基盤、3) そうした基盤に基づいた技法とその適用の注意点について理解することを目的とする。

到達目標

- 1 CBTを構成する認知療法と行動療法の基本的な背景を理解する
- 2 それぞれの哲学的・理論的基盤を理解する
- 3 実際に用いられている様々な技法とその適用の注意点について理解する

授業計画・方法

- | | | | |
|---|--------------------------|----|-----------------|
| 1 | 認知行動療法の概観1 | 9 | 認知行動療法の技法とその適用1 |
| 2 | 認知行動療法の概観2 | 10 | 認知行動療法の技法とその適用2 |
| 3 | 認知療法の背景と基本原理 | 11 | 認知行動療法の技法とその適用3 |
| 4 | 行動療法の背景と基本原理 | 12 | 認知行動療法の技法とその適用4 |
| 5 | 認知行動療法、認知療法、行動療法の共通点と相違点 | 13 | 認知行動療法の技法とその適用5 |
| 6 | 認知行動療法とエビデンスベースト | 14 | 新世代の認知行動療法 |
| 7 | 認知行動療法の適用の実際 | 15 | まとめ |
| 8 | ケースフォーミュレーションと機能分析 | | |

評価方法

授業への取り組み：40% レポート：60%

教科書・参考書

(教科書) 下山晴彦・熊野宏昭・鈴木伸一 (2017) 臨床心理フロンティアシリーズ 認知行動療法入門 (KS専門書) 講談社
(参考書) 原田隆之 (2015) 心理職のためのエビデンス・ベースト・プラクティス入門—エビデンスを「まなぶ」「つくる」「つかう」 金剛出版
坂野雄二 他 (監) (2012) 60のケースから学ぶ認知行動療法 北大路書房
鈴木伸一・神村栄一 (2013) レベルアップしたい実践家のための事例で学ぶ認知行動療法テクニックガイド 北大路書房

授業・準備学習のアドバイス

いわゆるクライアント中心療法などに比べて、認知行動療法は科学的であると同時に、人間的でないなどといった誤解を持たれることがある。きちんと理解することでそうした誤解を払拭しつつ、臨床心理士、公認心理師として働く際に必要な基本的な考えや技法を理解してほしい。

授 業 科 目 名	発達臨床心理学特論	担 当 者 名	伊 東 真 里
-----------	-----------	---------	---------

授業の目的

臨床ということばは医学領域でよく用いられているが、ここでは病理の治療を目的とするだけでなく、障害や問題を抱えつつ生きていく子どもの心理的支援の方法を学習する。そして、障害や問題の範囲を心身障害から心身症状まで含め、人間を心身相関の立場から捉え、医学的・心理的・教育的な視点から総合的に眺め、障害や問題をもつ子どもに関する心理臨床の理論的理解と実践的技術の理解を深める。

到達目標

臨床心理学の深い知識と実証的態度を身につけるとともに、障害や問題を抱えて生きていく子どもの心理的支援の方法を理解し、臨床場面で応用できるレベルを到達目標とする。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------------|-----------------------------|
| 1 発達臨床心理学の目的と対象 | 9 心身症の概念についてのレポート発表 |
| 2 発達臨床心理学的理解の視点 | 10 事例研究（心身症）の心理臨床過程についての検討 |
| 3 発達障害の概念についてのレポート発表 | 11 不安障害の概念についてのレポート発表 |
| 4 事例研究（発達障害）の心理臨床過程についての検討 | 12 事例研究（不安障害）の心理臨床過程についての検討 |
| 5 緘黙症の概念についてのレポート発表 | 13 いじめの概念についてのレポート発表 |
| 6 事例研究（緘黙症）の心理臨床過程についての検討 | 14 事例研究（いじめ）の心理臨床過程についての検討 |
| 7 抜毛症の概念についてのレポート発表 | 15 まとめとレポート（ケースについて） |
| 8 事例研究（抜毛症）の心理臨床過程についての検討 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

（教科書） 随時、資料を配布する。
（参考書） なし

授業・準備学習のアドバイス

障害や問題を抱えつつ生きていく子どもの支援を「臨床」という視点から捉える姿勢をもつことが必要です。
15回目に課題レポートを実施（時間：30分 配点：50点）

授 業 科 目 名	福祉心理学特論 (福祉分野に関する理論と支援の展開)	担 当 者 名	大 島 剛
-----------	-------------------------------	---------	-------

授業の目的

福祉現場において生じる問題およびその背景を理解し、そこに存在する心理社会的課題および必要な支援とは何かを考えていく力を身につける。特に虐待に関する事象の知識と理解を深める。
福祉現場の心理職の特性を理解する。

到達目標

福祉現場で働くことのできる公認心理師、臨床心理士として、福祉と心理の両方の領域をカバーできる素養を身につける。

授業計画・方法

- | | |
|---------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 被虐待児への支援 |
| 2 福祉と心理の関係 | 10 障害児・者の心理アセスメント |
| 3 福祉実践における心理職の果たす役割 | 11 障害児・者への療育と心理 |
| 4 児童相談所の概要 | 12 高齢者施設の概要 |
| 5 児童相談所児童心理司の業務 | 13 高齢者の心理アセスメントと支援 |
| 6 子どもの心理アセスメント | 14 地域福祉との連携 |
| 7 子どもの心理治療 | 15 まとめ |
| 8 虐待の現状 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：40% 課題発表：10%

教科書・参考書

（教科書） 川畑隆・笹川宏樹・宮井研治編著 公認心理師の基礎を学ぶテキスト17 福祉心理学 福祉分野での心理職の役割 ミネルヴァ書房 2020
（参考書） 授業中に適宜知らせる。

授業・準備学習のアドバイス

福祉領域の実習とリンクさせるので、福祉領域の理解を進めること。

授 業 科 目 名	臨床心理学特論Ⅰ	担 当 者 名	吉野 俊彦
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

臨床心理学は、科学、理論、実践とを統合して人間の行動や心的過程の問題に関わる学問である。この授業では、科学者－実践者モデルに軸足を置いて、臨床心理学という学問がどのような体系から成り立っているかを理解することを目的とする。

到達目標

- 1 臨床心理学の基本構造と体系を把握すること。
- 2 臨床心理学が科学的な研究活動と説明責任を果たすことのできる実践活動とに支えられていることを理解する。
- 3 臨床心理学を支えている基本的な理論の概要を理解する。

授業計画・方法

- | | |
|--|------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 7 臨床心理学の基本理論 (3) 科学者－実践者モデル |
| 2 臨床心理学の全体構造、カウンセリング・心理療法・臨床心理学の違い | 8 臨床心理学の基本理論 (4) 生物－心理－社会モデル |
| 3 世界の臨床心理学と日本の臨床心理学 | 9 臨床心理学の基本理論 (5) 実践の全体像 |
| 4 臨床心理学における実践活動と研究活動 | 10 アセスメントの目的と技法 |
| 5 臨床心理学の基本理論 (1) ナラティブ・アプローチ、社会構成主義 | 11 様々な介入技法 |
| 6 臨床心理学の基本理論 (2) エンパワーメント、エビデンス・ベースト・アプローチ | 12 臨床心理学における一般化と個別性 |
| | 13 臨床心理学における社会的責任 |
| | 14 臨床心理士になるために |
| | 15 まとめ |

評価方法

授業への取り組み：40% レポート：60%

教科書・参考書

- (教科書) 伊藤絵美・坂本真士・杉山崇 (編) (2011) 事例でわかる心理学のうまい活かし方—基礎心理学の臨牀的ふだん使い 金剛出版
- (参考書) 下山晴彦 (2009) よくわかる臨床心理学 (やわらかアカデミズム・わかるシリーズ) 改訂新版 ミネルヴァ書房
 下山晴彦 (2010) 臨床心理学1 これからの臨床心理学 東京大学出版会
 下山晴彦・丹野義彦 (編) (2002) 講座 臨床心理学3 異常心理学1 東京大学出版会
 下山晴彦・丹野義彦 (編) (2002) 講座 臨床心理学4 異常心理学2 東京大学出版会

授業・準備学習のアドバイス

臨床心理学=カウンセリングと誤解している人がいるかもしれません。また、臨床心理学を学ぶことはテクニックを学ぶことではありません。現代の臨床心理学の全体像をきちんと把握するためにも、自ら積極的に学んで下さい。

授 業 科 目 名	臨床心理学特論Ⅱ	担 当 者 名	伊東 真里
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

臨床心理学とは何かについて、具体的な臨床活動と関連づけながら理解を深める。臨床心理学の原理と方法論、臨床心理学の主要領域 (アセスメント、面接、コミュニティアプローチ) についての文献によるレビューを行うことを目的とする。

到達目標

臨床心理士について、その職能と社会性についての理解を確立し、種々の臨床場面で柔軟な対応ができるようにすること。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------|------------------------------|
| 1 臨床心理学の定義 | 9 傾聴による援助としての理解 |
| 2 臨床心理学の対象 | 10 病院臨床の領域における臨床心理士・公認心理師の役割 |
| 3 援助者としての臨床心理士・公認心理師 | 11 病院臨床の課題と展望 (精神・神経科領域) |
| 4 援助方法としての臨床心理面接 | 12 病院臨床の課題と展望 (心療内科領域) |
| 5 臨床心理面接の進め方と信頼関係 | 13 病院臨床の課題と展望 (小児科領域) |
| 6 臨床心理面接に臨む基礎 | 14 病院臨床の課題と展望 (老人科・緩和ケア領域) |
| 7 臨床心理士・公認心理師の資質 | 15 まとめとレポート (緩和ケアについて) |
| 8 面接過程と援助の諸問題 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

- (教科書) なし (随時、資料配布)
 (参考書) 大塚・岡堂・東山・下山監修『臨床心理学全書』1～13巻、誠信書房

授業・準備学習のアドバイス

臨床心理学関係の文献をなるべくたくさん読むようにしましょう。
 15回目に課題レポートを実施 (時間：30分、配点：50点)

授業科目名	臨床心理基礎実習	担当者名	伊東 真里、本間 友巳
-------	----------	------	-------------

授業の目的

本実習は、臨床心理士になるための必要不可欠な資質を身につけることを目的とする。主として、心理相談業務の把握と実践的技術の習得、および心理臨床家として相応しい姿勢を体得することの「難しさ」を経験してもらう。

到達目標

臨床心理実習における実践（ケース担当）に要求される水準までの資質の向上

授業計画・方法

- | | |
|---------------------------|------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 16 教育臨床の実際 |
| 2 臨床心理士・公認心理師養成コースのカリキュラム | 17 心理面接の技法訓練（基本的傾聴） |
| 3 心理職の倫理① | 18 心理面接の技法訓練（基本的傾聴ロールプレイ） |
| 4 心理職の倫理② | 19 心理面接の技法訓練（質問技法） |
| 5 心理面接の目的 | 20 心理面接の技法訓練（要約技法） |
| 6 心理面接の方法 | 21 初回面接のロールプレイ① |
| 7 心理教育相談室の業務（初回面接・治療構造） | 22 初回面接のロールプレイ② |
| 8 心理教育相談室の業務（見立て・面接記録） | 23 初回面接のロールプレイ③ |
| 9 心理相談室の見学実習 | 24 初回面接のロールプレイ④ |
| 10 相談申し込みのロールプレイ① | 25 初回面接のロールプレイ⑤ |
| 11 相談申し込みのロールプレイ② | 26 初回面接のロールプレイ⑥ |
| 12 相談申し込みのロールプレイ③ | 27 初回面接のロールプレイ⑦ |
| 13 相談申し込みのロールプレイ④ | 28 初回面接のロールプレイ⑧ |
| 14 相談申し込みのロールプレイ⑤ | 29 初回面接のロールプレイ⑨ |
| 15 病院臨床の実際 | 30 まとめとレポート（ロールプレイの振り返りについて） |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

（教科書） なし
（参考書） なし

授業・準備学習のアドバイス

可能な限り感じたことを言葉にする努力をしてください。毎回のセッションの内容については守秘義務を厳守してください。授業への積極的な取り組み、職業人としての倫理的視点を重視して評価します。

授 業 科 目 名	臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	担 当 者 名	大島 剛、吉野 俊彦
-----------	-----------------------------------	---------	------------

授業の目的

公認心理師や臨床心理士の実践現場でよく用いられる心理的アセスメントについて、その意義や理論と方法の理解および実際のスキルの習得をめざす。またこれらを心理に関する相談、助言、指導等へ応用する能力を身につける。前半では、主に質問紙法による人格査定について概括し、後半部分では、知能検査お発達検査を学び、事例研究も交えていく。

到達目標

公認心理師および臨床心理士として、心理的アセスメントの意義や理論と方法を理解して、現場においてこれらを心理に関する相談、指導等に応用できる基本的能力を身につける。

授業計画・方法

- 1 心理的アセスメントの意義 (大島、吉野)
- 2 質問紙法による人格の査定1 (吉野)
MMPI、TEG、NEO-PI-R、PFスタディ、クレペリン検査などによる、人格特性測定の実施と解釈
- 3 質問紙法による人格の査定2 (吉野)
MMPI、TEG、NEO-PI-R、PFスタディ、クレペリン検査などによる、人格特性測定の実施と解釈
- 4 質問紙法による人格の査定3 (吉野)
MMPI、TEG、NEO-PI-R、PFスタディ、クレペリン検査などによる、人格特性測定の実施と解釈
- 5 病院臨床で用いられる特性の査定1 (吉野)
BDI、STAI、CES-Dなどによる、病院などでの査定に用いられる検査の実施と判定
- 6 病院臨床で用いられる特性の査定2 (吉野)
BDI、STAI、CES-Dなどによる、病院などでの査定に用いられる検査の実施と判定
- 7 病院臨床で用いられる特性の査定3 (吉野)
BDI、STAI、CES-Dなどによる、病院などでの査定に用いられる検査の実施と判定
- 8 質問紙による査定の特徴と問題点、測定することの意味とその問題点についての議論 (吉野)
- 9 WISC-IIIの実施方法、解釈の基礎1 (大島)
- 10 WISC-IVの実施方法、解釈の基礎2 (大島)
- 11 新版K式発達検査2001の理論と方法 (大島)
- 12 新版K式発達検査2001の実践ロールプレイ (大島)
- 13 新版K式発達検査2001のスコア (大島)
- 14 新版K式発達検査2001の解釈 (大島)
- 15 WISCおよび新版K式発達検査2001を用いた助言・指導 (大島)

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

- (教科書) 大島他 (2013) 『発達相談と新版K式発達検査』 明石書店
(参考書) 上里一郎監修 (2001) 『心理アセスメントハンドブック』(第2版) 西村書店
山田剛史・村井潤一郎 (2004) 『よくわかる心理統計』 ミネルヴァ書房
小塩真司 (2011) 『性格を科学する心理学のはなし—血液型性格判断に別れを告げよう』 新曜社
小塩真司 (2010) 『はじめて学ぶパーソナリティ心理学—個性をめぐる冒険』 ミネルヴァ書房
下山晴彦 (2008) 『臨床心理アセスメント入門—臨床心理学は、どのように問題を把握するのか』 金剛出版
藤田和弘 他編 (2005) 『WISC-IIIアセスメント事例集』 日本文化科学社

授業・準備学習のアドバイス

各担当がそれぞれ適宜レポート課題を出します。
臨床現場でよく用いる心理検査です。「知っている」ではなく「使える」というレベルを目指しましょう。

授 業 科 目 名	臨床心理査定演習Ⅱ	担 当 者 名	伊東 真里、大島 剛
-----------	-----------	---------	------------

授業の目的

臨床現場でよく用いられる心理検査（投射法）について、特に重要と思われる「描画法」と「ロールシャッハテスト」を担当教員がそれぞれ担当し、徹底習得を目指す。

到達目標

現場で実践的に使える準備性を持つ。

授業計画・方法

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 描画法全般の効用と限界および留意点（大島） | 9 ロールシャッハテストの目的（伊東） |
| 2 樹木画テストの方法と解釈、留意点（大島） | 10 ロールシャッハテストの実施方法1（伊東） |
| 3 自然樹木画描画法の体験（大島） | 11 ロールシャッハテストの実施方法2（伊東） |
| 4 人物画テストの方法と解釈、留意点（大島） | 12 ロールシャッハテストの記号化法1（伊東） |
| 5 HTPテストの方法と解釈、留意点（大島） | 13 ロールシャッハテストの記号化法2（伊東） |
| 6 風景構成法の方法、留意点（大島） | 14 ロールシャッハテストの解釈（伊東） |
| 7 風景構成法の解釈とその応用（大島） | 15 ロールシャッハテストの解釈のまとめと報告の仕方（伊東） |
| 8 描画法のまとめと報告の仕方（大島） | |

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

- （教科書） なし
（参考書） 片口安史 『改訂 新・心理診断法－ロールシャッハ・テストの解説と研究』 金子書房
高石浩一・谷口高士 『心理学実習 基礎編』 培風館

授業・準備学習のアドバイス

前半、後半でそれぞれの担当者が、事例（実践例）に基づくレポート課題を出題します。臨床現場では必須の心理検査です。現場に出て即使用できるレベルを目指します。

授 業 科 目 名	臨床心理実習Ⅱ	担 当 者 名	伊東 真里、大島 剛 本間 友巳、三井 知代
-----------	---------	---------	---------------------------

授業の目的

心理・教育相談室において担当したケースについて報告するインターク・カンファレンスおよびケース・カンファレンスに積極的に参加することを通して、心理臨床家に必要な基本的スキル、倫理および態度を養うことを目的とする。また病院実習への参加および心理相談研究紀要執筆も義務づけられている。

到達目標

心理臨床家としての実務体験およびケース報告を通して、臨床家に必要な基本的スキル、倫理、および態度を身につける。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------------|--------------------------|
| (春学期) | (秋学期) |
| 1 オリエンテーション（心理・教育相談室、病院実習） | 1 オリエンテーション（病院実習） |
| 2 ケース・カンファレンス | 2 インターク・カンファレンス |
| 3 ケース・カンファレンス | 3 ケース・カンファレンス |
| 4 ケース・カンファレンス | 4 ケース・カンファレンス |
| 5 インターク・カンファレンス | 5 ケース・カンファレンス |
| 6 ケース・カンファレンス | 6 インターク・カンファレンス |
| 7 ケース・カンファレンス | 7 ケース・カンファレンス |
| 8 ケース・カンファレンス | 8 ケース・カンファレンス |
| 9 インターク・カンファレンス | 9 ケース・カンファレンス |
| 10 ケース・カンファレンス | 10 インターク・カンファレンス |
| 11 ケース・カンファレンス | 11 ケース・カンファレンス |
| 12 ケース・カンファレンス | 12 ケース・カンファレンス |
| 13 インターク・カンファレンス | 13 ケース・カンファレンス |
| 14 ケース・カンファレンス | 14 終結・中断・継続・リファーマ等のケース検討 |
| 15 ケース・カンファレンス | 15 病院実習・総括 |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：40% 病院実習：10%

教科書・参考書

- （教科書） なし
（参考書） なし

授業・準備学習のアドバイス

積極的な参加を通して、心理臨床家に必要な基本的スキルおよび態度を身につけてほしい。

授業科目名	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習A)	担当者名	伊東 真里、大島 剛 本間 友巳、吉野 俊彦
-------	----------------------	------	---------------------------

授業の目的

臨床心理の知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とする。学内の心理・教育相談室のケースにおけるカンファレンスを通して、以下について修得をめざす。

- ア) 心理に関する支援を要する者等に関するコミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援等の知識および技能の習得
- イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成

到達目標

心理に関する支援を要する者等に対して、適切な心理的アセスメント等を通して、理解とニーズの把握を行い、支援計画を作成し、心理面接などを駆使しながら支援をしていける素養を習得する。

授業計画・方法

また、ケースカンファレンスに参加、終了後に相談室のケースおよび実習に関する報告や事前事後指導を受ける。

(春学期)

- 1 オリエンテーション
- 2 ケース・カンファレンス
- 3 ケース・カンファレンス
- 4 ケース・カンファレンス
- 5 インテーク・カンファレンス
- 6 ケース・カンファレンス
- 7 ケース・カンファレンス
- 8 ケース・カンファレンス
- 9 インテーク・カンファレンス
- 10 ケース・カンファレンス
- 11 ケース・カンファレンス
- 12 ケース・カンファレンス
- 13 インテーク・カンファレンス
- 14 ケースに関するロールプレイ
- 15 夏季休暇中の実習事前指導

(秋学期)

- 1 夏季休暇中の実習報告
- 2 ケース・カンファレンス
- 3 ケース・カンファレンス
- 4 ケース・カンファレンス
- 5 インテーク・カンファレンス
- 6 ケース・カンファレンス
- 7 ケース・カンファレンス
- 8 ケース・カンファレンス
- 9 インテーク・カンファレンス
- 10 ケース・カンファレンス
- 11 ケース・カンファレンス
- 12 ケース・カンファレンス
- 13 インテーク・カンファレンス
- 14 実習事例に関する報告
- 15 まとめ

評価方法

授業への取り組み：80% レポート：20%

教科書・参考書

- (教科書) なし
- (参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

公認心理師、臨床心理士養成の根幹をなす実習である。積極的に参加する態度で臨んでほしい。

授 業 科 目 名	臨床心理面接特論Ⅰ (心理支援に関する理論と実践)	担 当 者 名	本間 友巳
-----------	------------------------------	---------	-------

授業の目的

臨床心理面接の基盤となる考え方や重要なポイントを整理し、そのうえで面接の基本的な方法やスキルについての理解を深める。

到達目標

臨床心理面接の基盤となる考え方をともに、面接の基本的な方法を理解することができる。

授業計画・方法

- | | |
|--------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 治療関係 |
| 2 臨床心理面接とは | 10 治療関係の検討 |
| 3 面接の構造（共通要因と独自要因） | 11 守秘義務等の倫理的課題 |
| 4 面接の構造の検討 | 12 守秘義務等の倫理的課題の検討 |
| 5 初回面接 | 13 終結・中断 |
| 6 初回面接の検討 | 14 終結・中断の検討 |
| 7 見立て・アセスメント・診断 | 15 まとめ（臨床心理面接に関わる総合的な議論） |
| 8 見立て・アセスメント・診断の検討 | |

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

(教科書) 特になし。
(参考書) 授業において、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

具体的な面接場面をイメージし、自らがカウンセラーやクライアントになったときの気持ちを想像しながら授業に臨んでください。

授 業 科 目 名	臨床心理面接特論Ⅱ	担 当 者 名	本間 友巳
-----------	-----------	---------	-------

授業の目的

臨床心理面接とは、心理学的な立場からの対人支援の中心的な方法を指している。このような視座から、本授業の目的とは、人が抱えるさまざまな心理社会的な課題とその支援としての面接のあり方について理解を深める。

到達目標

人が抱えるさまざまな心理社会的な課題を学び、それらへ支援としての臨床心理的面接の適用について理解することができる。

授業計画・方法

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション（臨床心理面接特論Ⅰの振り返り） | 9 発達障がい |
| 2 精神障がいと臨床心理面接 | 10 発達障がいの検討 |
| 3 自己愛と攻撃性 | 11 ひきこもり |
| 4 自己愛と攻撃性の検討 | 12 ひきこもりの検討 |
| 5 トラウマとケア | 13 性的マイノリティ |
| 6 トラウマとケアの検討 | 14 性的マイノリティの検討 |
| 7 虐待と愛着障害 | 15 まとめ（臨床心理面接の適用に関わる総合的な議論） |
| 8 虐待と愛着障害の検討 | |

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

(教科書) 特になし。
(参考書) 授業の中で、適宜紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

カウンセラーになったとき、どのようにユーザーの心理社会的な課題を解決していけばよいかを考えながら、積極的・主体的に取り組んでください。

教育学専攻

	科目	単位	学期	年次	担当者
	特別研究Ⅰ	1	春	2	戸江、金山、隈元、笹川、畑野、廣岡
	特別研究Ⅱ	1	秋	2	戸江、金山、隈元、笹川、畑野、廣岡
演習科目	教育学演習Ⅰ	2	春	1	戸江、隈元、廣岡
	教育学演習Ⅱ	2	秋	1	戸江、隈元、廣岡
	教育学演習Ⅲ	2	春	2	戸江、隈元、廣岡
	教育学演習Ⅳ	2	秋	2	戸江、隈元、廣岡
	教科教育演習Ⅰ	2	春	1	畑野
	教科教育演習Ⅱ	2	秋	1	畑野
	教科教育演習Ⅲ	2	春	2	畑野
	教科教育演習Ⅳ	2	秋	2	畑野
	教育心理学演習Ⅰ	2	春	1	金山
	教育心理学演習Ⅱ	2	秋	1	金山
	教育心理学演習Ⅲ	2	春	2	金山
	教育心理学演習Ⅳ	2	秋	2	金山
	障害児教育演習Ⅰ	2		1	2021年度 不開講
	障害児教育演習Ⅱ	2		1	2021年度 不開講
	障害児教育演習Ⅲ	2		2	2021年度 不開講
	障害児教育演習Ⅳ	2		2	2021年度 不開講
	生涯福祉演習Ⅰ	2		1	2021年度 不開講
	生涯福祉演習Ⅱ	2		1	2021年度 不開講
	生涯福祉演習Ⅲ	2		2	2021年度 不開講
	生涯福祉演習Ⅳ	2		2	2021年度 不開講
教育学分野	日本語教育演習Ⅰ	2	春	1	笹川
	日本語教育演習Ⅱ	2	秋	1	笹川
	日本語教育演習Ⅲ	2	春	2	笹川
	日本語教育演習Ⅳ	2	秋	2	笹川
	教育哲学特論	2	春	1	廣岡
	道徳教育特論	2	秋	1	隈元
	カリキュラム特論	2	集	1	石井
	教育方法学特論	2	秋	1	廣岡
	教育社会学特論	2	集	1	稲垣
	教育行政学特論	2	集	1	三羽
	臨床教育学特論	2	秋	1	廣岡
	幼児教育学特論	2	春	1	戸江
幼児教育方法学特論A(基礎)	2	秋	1	戸江	
幼児教育方法学特論B(レジャ・エミリア教育)	2	秋	2	森真理	
英書講読(教育学)	2	春	1	隈元	
教科教育学、総合学習分野	国語科教育特論	2		1	2021年度 不開講
	算数科教育特論	2		1	2021年度 不開講
	理科教育特論	2		1	2021年度 不開講
	英語科教育特論	2		1	2021年度 不開講
	体育科教育特論A	2	春	1	三木
	体育科教育特論B	2	春	1	畑野
	総合学習特論	2	秋	1	畑野
	メディア教育特論	2	春	1	森山
	ホリスティック教育特論	2		1	2021年度 不開講
	日本語教育特論	2	春	1	笹川
	日本語学特論	2	秋	1	近藤
	海外教育実習	6		1	2021年度 不開講(修了要件外科目)
	生涯福祉特論	2	秋	1	戸田
教育心理学分野	教育心理学特論	2	秋	1	多鹿
	学校心理学特論	2	春	1	金山
	発達心理学特論	2	秋	1	小山
	生徒指導特論	2	春	1	池島
	学校カウンセリング特論	2	秋	1	金山
	学校心理臨床特論	2	秋	1	小川内 隔年開講(本年度開講)
	心理教育アセスメント特論	2	集中	1	多鹿
	教育研究法特論	2		1	2021年度 不開講
	障害児教育特論	2	集中	1	堀田
	身体教育学特論	2	秋	1	杉山
	英書講読(教育心理学)	2	春	1	小川内 隔年開講(本年度開講)

- 「教育学演習Ⅰ-Ⅳ」、「教科教育演習Ⅰ-Ⅳ」、「教育心理学演習Ⅰ-Ⅳ」、「障害児教育演習Ⅰ-Ⅳ」、「生涯福祉演習Ⅰ-Ⅳ」、「日本語教育演習Ⅰ-Ⅳ」(各2単位)は、修士論文作成のために研究の中心にした分野の演習を必修とする。
- 「特別研究Ⅰ・Ⅱ」(各1単位)を必修とする。
- 「教育学演習Ⅰ-Ⅳ」を履修する場合は、「教育学分野」から8単位以上(「教育哲学特論」を含む)、「教育心理学分野」から6単位以上(「教育心理学特論」を含む)、「教科教育学・総合学習分野」から4単位以上を履修すること。
- 「教育心理学演習Ⅰ-Ⅳ」あるいは「障害児教育演習Ⅰ-Ⅳ」を履修する場合は、「教育心理学分野」から8単位以上(「教育心理学特論」を含む)、「教育学分野」から6単位以上(「教育哲学特論」を含む)、「教科教育学・総合学習分野」から4単位以上を履修すること。
- 「生涯福祉演習Ⅰ-Ⅳ」、「日本語教育演習Ⅰ-Ⅳ」、あるいは「教科教育演習Ⅰ-Ⅳ」を履修する場合は、「教科教育学・総合学習分野」から6単位以上、「教育学分野」から6単位以上(「教育哲学特論」を含む)、「教育心理学分野」から6単位以上(「教育心理学特論」を含む)を履修すること。
- 心理臨床学専攻より、4単位まで修了要件単位に含めることができる。但し、※必修科目およびE群(選E)科目(p23参照)、選択科目「臨床心理実習Ⅰ(心理実践演習)」は履修することができない。
- 最低修了要件単位は32単位である。

講義担当教員

教育学専攻

氏名	学位	専門領域	現職	担当科目
戸江 茂博	文学修士 [関西学院大学]	保育学 幼児教育学	本学教授	教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 幼児教育学特論 幼児教育方法学特論A(基礎)
金山 健一	博士(心理学) [広島大学]	学校心理学 臨床心理学	本学教授	教育心理学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 学校心理学特論 学校カウンセリング特論
隈元 泰弘	文学修士 [同志社大学]	教育哲学 道德教育	本学教授	教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 道德教育特論 英書講読(教育学)
笹川 洋子	社会学修士 [東京大学]	日本語教育	本学教授	日本語教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 日本語教育特論
畑野 裕子	文学修士 [奈良女子大学]	体育科教育学 総合学習 保育内容 舞踊教育学	本学教授	教科教育演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 体育科教育特論B 総合学習特論
廣岡 義之	博士(教育学) [関西学院大学]	教育哲学 教育思想史	本学教授	教育学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ 特別研究Ⅰ・Ⅱ 教育哲学特論 臨床教育学特論 教育方法学特論
小川内哲生	博士(学校教育学) [兵庫教育大学]	教育心理学	本学教授	学校心理臨床特論 教育研究法特論 英書講読(教育心理学)
近藤 要司	修士(国文学) [神戸大学]	日本語学	本学教授	日本語学特論
杉山 真人	博士(スポーツ科学) [大阪体育大学]	知覚運動学習-制御 体育心理学	本学教授	身体教育学特論
戸田 典樹	博士(社会福祉学) [龍谷大学]	社会福祉学 子ども学(環境・ 貧困・社会的養護)	本学教授	生涯福祉特論
森 真理	博士(教育学) [コロンビア大学 大学院ティーチャーズ・カレッジ]	乳幼児教育保育学 乳幼児教育保育国際比較	本学教授	幼児教育方法学特論B (レゾジョ・エミリア教育)
池島 徳大	博士(学校教育学) [兵庫教育大学]	学校教育臨床	兵庫教育大学大学院特任教授	生徒指導特論
石井 英真	博士(教育学) [京都大学]	教育方法学	京都大学准教授	カリキュラム特論
稲垣 恭子	博士(教育学) [京都大学]	教育社会学	京都大学教授	教育社会学特論
小山 正	博士(学術) [神戸大学]	発達心理学	神戸学院大学教授	発達心理学特論
三羽 光彦	博士(教育学) [名古屋大学]	教育行政学	芦屋大学大学院教授	教育行政学特論
多鹿 秀継	教育学博士 [京都大学]	学習心理学 教育心理学	本学大学院 非常勤講師	教育心理学特論 心理教育アセスメント特論
堀田 千絵	博士(心理学) [名古屋大学]	認知発達心理学 障害児教育	奈良教育大学准教授	障害児教育特論
三木 四郎	体育学士 [東京教育大学]	体育学	本学客員教授	体育科教育特論A
森山 潤	博士(学校教育学) [兵庫教育大学]	教育工学 技術・情報教育学	兵庫教育大学大学院教授	メディア教育特論

「学校心理士」資格取得科目に対応する本学大学院の開設授業科目

一般社団法人学校心理士認定運営機構が定める 科目および単位数			左記に対応する科目および単位数	
	科目名	単位	科目名	単位
1	学校心理学	2	学校心理学特論	2
2	教授・学習心理学	2	教育心理学特論	2
3	発達心理学	2	発達心理学特論	2
4	臨床心理学	2	学校心理臨床特論	2
5	心理教育的アセスメント	2	心理教育アセスメント特論	2
6	学校カウンセリング・コンサルテーション	2	学校カウンセリング特論	2
7	特別支援教育	2	障害児教育特論	2
8	生徒指導・教育相談、キャリア教育	2	生徒指導特論	2
		16		16

「学校カウンセリング特論」、「心理教育アセスメント特論」は実習を含む。

備考：1～8の各科目について、2単位以上、計16単位を修得し、1年以上の学校心理学に関する専門的実務経験を有すること。

資格認定に関する詳細については、一般社団法人学校心理士認定運営機構の公式HPを参照のこと。

教育職員免許状について（教育学専攻のみ）

大学院修了者（修士の学位を有すること）で、修士課程において免許状取得に必要な科目および単位を修得した者に次の免許状が授与される。

専攻	免許状の種類	単位数
教育学専攻	幼稚園教諭専修免許状	24 単位
	小学校教諭専修免許状	

専修免許状の授与資格を得ようとする場合は、その免許状に係る一種免許状を有することが必要である。

ただし、一種免許状を有しない場合、学部科目の科目等履修で要件を満たすことにより、幼・小専修免許、中・高一種免許状の取得が可能である。（別途経費必要・詳細は問合せのこと）

専修免許状を取得しようとする者は、下表により24単位以上修得すること。

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する科目	単位	備考
教育の基礎的理解に関する科目	教育社会学特論	2	
	幼児教育学特論	2	幼のみ
	臨床教育学特論	2	
	教育心理学特論	2	
	発達心理学特論	2	
	障害児教育特論	2	
	カリキュラム特論	2	
	教育哲学特論	2	
	ホリスティック教育特論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳教育特論	2	小のみ
	総合学習特論	2	小のみ
	教育方法学特論	2	
	幼児教育方法学特論A（基礎）	2	幼のみ
	幼児教育方法学特論B（レッジョ・エミリア教育）	2	幼のみ
	生徒指導特論	2	小のみ
	学校カウンセリング特論	2	
心理教育アセスメント特論	2		

授 業 科 目 名	英書講読（教育学）	担 当 者 名	隈元 泰弘
-----------	-----------	---------	-------

授業の目的

教育学に関する原書（英文テキスト）の講読を通して、英文の内容を正確に読み取り理解するとともに、教育学の専門的な知識と教養および論文作成のための基礎を身につけることを課題とする。

到達目標

英文を正確に読み取って理解する能力とともに、テキストの解説を通して教育学に関する専門的な知識と思考力、判断力と表現力を身につけることができるようにする。

授業計画・方法

- | | |
|------------------------------|-----------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 テキストの講読 |
| 2 テキストの執筆者の教育学ならびにテキストの内容の紹介 | 10 テキストの講読 |
| 3 テキスト講読の方法の指導 | 11 テキストに関する研究動向と文献の紹介 |
| 4 テキストの講読 | 12 テキストに関する研究文献の講読 |
| 5 テキストの講読 | 13 テキストに関する研究文献の講読 |
| 6 テキストの講読 | 14 テキストに関する研究文献の講読 |
| 7 テキストの講読 | 15 まとめと評価 |
| 8 テキストの講読 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

（教科書） Lawrence Kohlberg, Justice as Reversibility
テキストはコピーして配布する。

（参考書） 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス

文章の意味を考えながら、一文一文丁寧に読むことが重要である。部分的にはわからなくても、段落全体、当該章節の全体を読むとわかってくることもある。難しいと感じたら、もう少し先まで読んでみる、もう一度前の部分を読み直してみる等、とにかく、根気よく取り組むことが何よりも大切である。辞書は中辞典以上のものが望ましい。当該の単語が原文ではどのような意味で使われているのかを、例文を参考にしつつじっくりと考えて「辞書を読む」という勉強ができるようになるとうい。

授 業 科 目 名	学校カウンセリング特論	担 当 者 名	金山 健一
-----------	-------------	---------	-------

授業の目的

本授業では、学校カウンセリングの理論と実践を習得し、今日の子どもたちの抱える様々な問題への具体的な対応方法を学ぶ。学校カウンセリングにおける、予防・開発的な包括的支援モデルを理解し実践方法を体験する。そのためにカウンセリング実践は適宜実施し、更にアセスメント、教員相互のチーム支援、コンサルテーションの進め方を習得する。

到達目標

学校カウンセリングの理論と実践を体系的に学び、児童生徒の抱える課題・問題に対して、対応できる実践力を習得する。また、授業を通して教師として必要な問題解決能力・発表力・表現力などを習得する。

授業計画・方法

（授業方法） 教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。同時に、各自が取り組んでいる論文の指導を随時、実施する。

（授業計画）

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 心理検査 |
| 2 学校カウンセリングとは何か | 10 チーム支援とコンサルテーション |
| 3 学校カウンセリングの理論と方法 | 11 予防・開発的な包括的支援モデル |
| 4 ロジャーズ理論（カウンセリング①） | 12 事例検討とインシデントプロセス法 |
| 5 選択理論（カウンセリング②） | 13 スクールカウンセラー・関係機関との連携 |
| 6 プリーセラピー（カウンセリング③） | 14 学校カウンセリングの倫理 |
| 7 認知療法・認知行動療法（カウンセリング④） | 15 学校カウンセリングの課題と展望 |
| 8 アセスメントの理論と方法 | |

評価方法

授業への取り組み：40% 確認テスト：30% レポート：30%

教科書・参考書

（教科書） なし。随時、プリントを配布する。

（参考書） 『学校心理学』 石隈利紀 誠信書房

授業・準備学習のアドバイス

教育に関する新聞報道や、文部科学省HP、教育心理学、学校心理学、キャリア教育などの分野の文献にも関心を持つことを期待している。授業に関する質問は随時、受け付けている。

授 業 科 目 名	学校心理学特論	担 当 者 名	金山 健一
-----------	---------	---------	-------

授業の目的

本授業では、学校心理学の理論と実践を習得し、今日の学校教育・家庭教育の抱える様々な問題への具体的な対応方法を学ぶ。学校心理学の知見を活かした、学級経営、生徒指導（いじめ・不登校・非行）、特別支援教育における、対応方法を理解する。最終的には、様々な社会問題を心理学の視点で分析できる力量を育成する。

到達目標

- 1 学校心理学の知識・理論を習得し、活用できる能力を目指す。
- 2 学校で起こる様々な問題に対して、学校心理学の視点から対応できる力量の習得を目指す。

授業計画・方法

(授業方法) 学校心理学の知識を学習した上で、様々な事例を用いて、議論やロールプレイで検討していく。社会人としての実践的な問題解決能力育成のため、教員と学生の双方向のコミュニケーションを実施した授業展開とする。

(授業計画)

- | | |
|-------------------------|-----------------|
| 1 オリエンテーション | 9 学校心理学の研究手法 |
| 2 学校心理学とは何か | 10 学校心理学の研究モデル |
| 3 アメリカの学校心理学 | 11 学校心理学と統計 |
| 4 日本の学校心理学 | 12 事例検討（うつ病・自殺） |
| 5 学校心理学による、不登校の理解と対応 | 13 事例検討（LGBT） |
| 6 学校心理学による、非行問題の理解と対応 | 14 事例検討（精神病理） |
| 7 学校心理学による、いじめの理解と対応 | 15 まとめと確認 |
| 8 学校心理学による、特別支援教育の理解と対応 | |

評価方法

授業への取り組み：40% 確認テスト：30% レポート：30%

教科書・参考書

(教科書) なし。随時、プリントを配布する。
(参考書) 『学校心理学』 石隈利紀 誠信書房

授業・準備学習のアドバイス

教育に関する新聞報道や、文部科学省HP、教育心理学、学校心理学、キャリア教育などの分野の文献にも関心を持つことを期待している。授業に関する質問は、随時、受け付けている。

授 業 科 目 名	学校心理臨床特論	担 当 者 名	小川内 哲生
-----------	----------	---------	--------

授業の目的

学校心理臨床の視点で、学業の支援、個人・社会性の発達支援、キャリア発達支援を学ぶ。本講義では、これらの基本的知識をベースにして、具体的な学校心理臨床や学校カウンセリングのあり方について習得する。

到達目標

- 1 学校臨床における、学業の支援、個人・社会性の発達支援、キャリア発達支援方法を習得できる。
- 2 学校における様々な課題・問題に対して、学校心理臨床の視点から事例を分析できる。
- 3 学校で起こるいじめ・不登校などに対して、研究の視点からの確かな指導をできる力量を育成する。

授業計画・方法

(授業方法) 教師としての実践力向上のため、演習・グループワーク・共同学習を用いたアクティブ・ラーニングで実施する。同時に、各自が取り組んでいる論文の指導を随時、実施する。

(授業計画)

- | | |
|----------------------|----------------|
| 1 学校心理学とは何か | 9 特別支援教育 |
| 2 子どもを取り巻く現状 | 10 ニートとキャリア教育 |
| 3 いじめ・不登校への対応 | 11 事例検討の在り方 |
| 4 非行・暴力への対応 | 12 インシデントプロセス法 |
| 5 学級崩壊への対応 | 13 教師の精神疾患 |
| 6 保護者との対応 | 14 教員評価の現状と課題 |
| 7 親子関係の問題 虐待、トラウマの心理 | 15 教師の同僚性と自己実現 |
| 8 開発的、予防的対応 | |

評価方法

授業への取り組み：30% レポート：70%

教科書・参考書

(教科書) 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。
(参考書) 『学校心理学』 石隈利紀 誠信書房
『教師として考えつづけるための教育心理学』 大久保智生・牧郁子（編） ナカニシヤ出版

授業・準備学習のアドバイス

提出するレポートは、新聞報道や、文部科学省HP、教育心理学、学校カウンセリング、学校心理学、キャリア教育などの分野の文献にも関心を持ち、作成することを期待している。

授 業 科 目 名	カリキュラム特論	担 当 者 名	石井 英真
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

学習指導要領の改訂期にあたって、創意工夫を活かした「学校を基礎にしたカリキュラム」を構想する力量が求められている。その固有の課題としては、学力論、共通・選択論、領域論、教科論、編成論、評価論、進級論、接続論をあげることができる。本講義では、学力論、領域論、評価論を中心として教育課程に関する基礎的な概念を深め、将来の実践づくりに向けた展望を示したい。

到達目標

カリキュラム開発に関する基礎的な概念の習得にあたっては、それらをめぐる争点や論点を様々な資料によって共有し、さらには課題解決の過程を通じて、より深い理解への到達をめざしたい。また、このようなカリキュラム開発への深い理解を通じて、教育現場に活きる実践的な力量形成をはかりたい。

授業計画・方法

- | | |
|-------------------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション（教育課程・カリキュラム研究の意義） | 9 カリキュラムと評価（評価の方法） |
| 2 カリキュラムと授業 | 10 カリキュラム開発とカリキュラム経営 |
| 3 教科書とカリキュラム（教材と教科内容の区別） | 11 カリキュラムの接続と入試 |
| 4 教科書とカリキュラム（教科書比較） | 12 カリキュラム改革の歴史（制度史の観点から） |
| 5 子どもの学びとカリキュラム | 13 カリキュラム改革の歴史（実践史の観点から） |
| 6 総合学習のカリキュラム | 14 諸外国のカリキュラム |
| 7 教科指導と教科外活動 | 15 カリキュラム開発の現代的課題 |
| 8 カリキュラムと評価（評価の目的と機能） | |

評価方法

授業への取り組み：70% レポート：30%

教科書・参考書

（教科書） 石井英真 『今求められる学力と学びとは—コンピテンシー・ベースのカリキュラムの光と影』 日本標準 2015年
石井英真 『授業づくりの深め方』 ミネルヴァ書房 2020年
（参考書） なし

授業・準備学習のアドバイス

自分たちの学校経験、これまで学んできた教育に関する知識、各自の問題意識を踏まえて、大いに議論に参加してほしい。

授 業 科 目 名	教育学演習 I	担 当 者 名	隈元 泰弘
-----------	---------	---------	-------

授業の目的

現代の教育問題について考察し、教育学の基本文献を通して教育についての理解を深める。文献解読と相互の対話を通して、各自の問題・課題を見出し、深く思索して問題解決の手掛かりを探る。

到達目標

- 1 教育および教育学に関する専門教養を身に付けるとともに、課題を自ら発見し、論理的に思考し、判断し、表現できる力を培う。
- 2 修士論文のテーマについて考察し、計画を立てる。

授業計画・方法

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 ガイダンス、研究倫理指導 | 9 現代の教育学（2）その展開と展望 |
| 2 古代ギリシャの教育学（1）その特徴と時代背景 | 10 教育学の根源を考える（1）問題意識 |
| 3 古代ギリシャの教育学（2）その課題と展開 | 11 教育学の根源を考える（2）問題の本質 |
| 4 古代ギリシャの教育学（3）その現代的意義 | 12 教育学の根源を考える（3）問題解決方法の研究 |
| 5 近代の教育学（1）その特徴と時代背景 | 13 教育学の根源を考える（4）問題解決への提言 |
| 6 近代の教育学（2）その課題と展開 | 14 教育学の根源を考える（5）提言の検証 |
| 7 近代の教育学（3）その現代的意義 | 15 まとめ |
| 8 現代の教育学（1）現代の特徴とその教育学的課題 | |

評価方法

授業への取り組み：40% レポート：60%

教科書・参考書

（教科書） 授業中に指示する
（参考書） 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

授業科目名	教育学演習Ⅰ	担当者名	戸江 茂博
-------	--------	------	-------

授業の目的

教育学に関する基本文献や資料を理解し、研究のための基盤を養うとともに、教育及び幼児教育についての見方、考え方を深める。

到達目標

- 1 教育及び幼児教育に関する専門的な知識を身に付ける。
- 2 教育学的に思考する能力を身に付ける。

授業計画・方法

(授業方法) 近代の教育学、幼児教育思想に関する文献や資料を読み考えるとともに、教育学的なものの見方、考え方についてディスカッション等を行う。

(授業計画)

- | | |
|-------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 教育学の文献・資料を読む |
| 2 近代の教育学と教育思想について | 10 教育学の文献・資料を読む |
| 3 近代の教育学と教育思想について | 11 教育学の文献・資料を読む |
| 4 近代の教育学と教育思想について | 12 幼児教育思想に関する文献・資料を読む |
| 5 近代の幼児教育思想について | 13 幼児教育思想に関する文献・資料を読む |
| 6 近代の幼児教育思想について | 14 幼児教育思想に関する文献・資料を読む |
| 7 教育学の文献・資料を読む | 15 まとめ(思想家について、研究倫理について) |
| 8 教育学の文献・資料を読む | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 授業中に適宜指示する。
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。ディスカッションにも積極的に参加しよう。

授業科目名	教育学演習Ⅰ	担当者名	廣岡 義之
-------	--------	------	-------

授業の目的

現代の教育問題について考察し、教育学の基本文献を通して教育についての理解を深める。文献解読と相互の対話を通して、各自の問題・課題を見出し、深く思索して問題解決の手掛かりを探る。

到達目標

- 1 教育および教育学に関する専門教養を身に付けるとともに、課題を自ら発見し、論理的に思考し、判断し、表現できる力を培う。
- 2 修士論文のテーマについて考察し、計画を立てる。
- 3 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

授業計画・方法

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 ガイダンス、研究倫理指導 | 9 現代の教育学(2)その展開と展望 |
| 2 古代ギリシャの教育学(1)その特徴と時代背景 | 10 教育学の根源を考える(1)問題意識 |
| 3 古代ギリシャの教育学(2)その課題と展開 | 11 教育学の根源を考える(2)問題の本質 |
| 4 古代ギリシャの教育学(3)その現代的意義 | 12 教育学の根源を考える(3)問題解決方法の研究 |
| 5 近代の教育学(1)その特徴と時代背景 | 13 教育学の根源を考える(4)問題解決への提言 |
| 6 近代の教育学(2)その課題と展開 | 14 教育学の根源を考える(5)提言の検証 |
| 7 近代の教育学(3)その現代的意義 | 15 まとめ |
| 8 現代の教育学(1)現代の特徴とその教育学的課題 | |

評価方法

授業への取り組み：40% レポート：60%

教科書・参考書

(教科書) 授業中に指示する
(参考書) 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

授業科目名	教育学演習Ⅱ	担当者名	隈元 泰弘
-------	--------	------	-------

授業の目的

現代の教育及び教育学に関する文献や資料を理解し、研究のための基盤を強固なものにするとともに、修士論文の作成に向けての指導を行う。

到達目標

- 1 現代の教育及び教育学に関する専門的な知識を身に付ける。
- 2 教育的に思考する力を身に付ける。
- 3 修士論文の作成の仕方について学ぶ。
- 4 修士論文に必要な文献・データを収集し、その読解・分析を進める。

授業計画・方法

- | | |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 教育哲学の古典を読む（４）ペスタロッチ：新たな解答 |
| 2 教育学の研究手法（１）問題の立て方 | 10 道徳教育の古典を読む（１）カント：問題提起 |
| 3 教育学の研究手法（２）研究史の研究 | 11 道徳教育の古典を読む（２）カント：思索の展開 |
| 4 教育学の研究手法（３）思索・研究の展開 | 12 道徳教育の古典を読む（３）カント：思索の深化 |
| 5 教育学の研究手法（４）オリジナリティの探求 | 13 道徳教育の古典を読む（４）カント：新たな解答 |
| 6 教育哲学の古典を読む（１）ペスタロッチ：問題提起 | 14 修士論文の作成指導（１）序論の書き方 |
| 7 教育哲学の古典を読む（２）ペスタロッチ：思索の展開 | 15 修士論文の作成指導（２）本論展開の構想 |
| 8 教育哲学の古典を読む（３）ペスタロッチ：思索の深化 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

（教科書） 授業中に適宜指示する。
（参考書） なし

授業・準備学習のアドバイス

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。教育・幼児教育について研究的に取り組む姿勢を身に付けよう。

授業科目名	教育学演習Ⅱ	担当者名	戸江 茂博
-------	--------	------	-------

授業の目的

現代の教育学や幼児教育思想に関する文献や資料を理解し、研究のための基盤を強固なものにするとともに、修士論文の作成に向けての指導を行う。

到達目標

- 1 現代の教育及び幼児教育に関する専門的な知識を身に付ける。
- 2 教育的に思考する力を身に付ける。
- 3 修士論文の作成の仕方について学ぶ。

授業計画・方法

（授業方法） 現代の教育学、幼児教育思想に関する文献や資料を読み考えとともに、自らのテーマや課題を見つけ研究的に進めるための方法を探る。

（授業計画）

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 幼児教育思想に関する文献・資料を読む |
| 2 現代の教育学と教育思想について | 10 教育学の研究の仕方 |
| 3 現代の教育学と教育思想について | 11 教育学の研究の仕方 |
| 4 現代の幼児教育思想について | 12 レポート発表 |
| 5 現代の幼児教育思想について | 13 レポート発表 |
| 6 教育学の文献・資料を読む | 14 修士論文の作成指導 |
| 7 教育学の文献・資料を読む | 15 修士論文の作成指導 |
| 8 幼児教育思想に関する文献・資料を読む | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

（教科書） 授業中に適宜指示する。
（参考書） なし

授業・準備学習のアドバイス

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。教育・幼児教育について研究的に取り組む姿勢を身に付けよう。

授業科目名	教育学演習Ⅱ	担当者名	廣岡 義之
-------	--------	------	-------

授業の目的

現代の教育及び教育学に関する文献や資料を理解し、研究のための基盤を強固なものにするとともに、修士論文の作成に向けての指導を行う。

到達目標

- 1 現代の教育及び教育学に関する専門的な知識を身に付ける。
- 2 教育学的に思考する力を身に付ける。
- 3 修士論文の作成の仕方について学ぶ。
- 4 修士論文に必要な文献・データを収集し、その読解・分析を進める。
- 5 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

授業計画・方法

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 教育思想に関する文献・資料を読む |
| 2 現代の教育学と教育思想について | 10 教育学の研究の仕方 |
| 3 現代の教育学と教育思想について | 11 教育学の研究の仕方 |
| 4 現代の教育哲学思想について | 12 レポート発表 |
| 5 現代の教育哲学思想について | 13 レポート発表 |
| 6 教育学の文献・資料を読む | 14 修士論文の作成指導 |
| 7 教育学の文献・資料を読む | 15 修士論文の作成指導 |
| 8 教育思想に関する文献・資料を読む | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 授業中に適宜指示する。
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。教育・幼児教育について研究的に取り組む姿勢を身に付けよう。

授業科目名	教育学演習Ⅲ	担当者名	隈元 泰弘
-------	--------	------	-------

授業の目的

修士論文を作成するために先行研究や参考文献をまとめ、自らの問題意識を深める。具体的な指導の下で修士論文の執筆を進める。

到達目標

- 1 テーマについての理解を深める。
- 2 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究についてまとめる。
- 3 修士論文の執筆を進めるとともに思索の深化をはかる。
- 4 修士論文の全体構成について再検討する。

授業計画・方法

- | | |
|-----------------------------|----------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 修士論文執筆指導 (4) オリジナリティの追及 |
| 2 修士論文執筆指導 (1) 序論の構成 | 10 道徳教育の現代思想を読む (1) コールバーグ：問題提起 |
| 3 修士論文執筆指導 (2) 本論の展開 | 11 道徳教育の現代思想を読む (2) コールバーグ：思索の展開 |
| 4 修士論文執筆指導 (3) 結論のまとめ方 | 12 道徳教育の現代思想を読む (3) コールバーグ：思索の深化 |
| 5 教育哲学の古典を読む (1) デューイ：問題提起 | 13 道徳教育の現代思想を読む (4) コールバーグ：新たな解答 |
| 6 教育哲学の古典を読む (2) デューイ：思索の展開 | 14 修士論文執筆指導 (5) 文献の活用 |
| 7 教育哲学の古典を読む (3) デューイ：思索の深化 | 15 修士論文執筆指導 (6) データの収集と活用 |
| 8 教育哲学の古典を読む (4) デューイ：新たな解答 | |

評価方法

授業への取り組み：40% レポート：60%

教科書・参考書

(教科書) 授業中に指示する
(参考書) 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

授業科目名	教育学演習Ⅲ	担当者名	戸江 茂博
-------	--------	------	-------

授業の目的

修士論文を作成するために先行研究や参考文献をまとめ、自らの問題意識を深め、修士論文作成のための基盤を構築する。

到達目標

- 1 先行研究をまとめる。
- 2 必要な参考文献を収集し、理解を深める。
- 3 修士論文の計画を作成する。
- 4 修士論文の内容構成について検討する。

授業計画・方法

(授業方法) 修士論文の執筆に入ることになるが、自らの問題意識を深め、修士論文の作成に必要な文献等を読解しまとめていく。また、修士論文の作成方法、修士論文の内容等について議論を行い、具体案を構築できるようにしていく。読み合わせ、議論、発表を十分に行う。

(各回の計画)

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| 1 修士論文の具体的な執筆計画の作成 | 9 修士論文の内容についての吟味・検討 |
| 2 修士論文の具体的な執筆計画の作成 | 10 修士論文の内容についての吟味・検討 |
| 3 先行研究、関連文献の読解 | 11 修士論文の内容についての吟味・検討 |
| 4 先行研究、関連文献の読解 | 12 修士論文の発表 |
| 5 問題意識を深め、修士論文のテーマの設定 | 13 修士論文の内容についての吟味・検討 |
| 6 先行研究、関連文献の読解 | 14 修士論文の内容についての吟味・検討 |
| 7 先行研究、関連文献の読解 | 15 修士論文の発表 |
| 8 先行研究、関連文献の読解 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) 適宜授業中に提示する。

授業・準備学習のアドバイス

修士論文の作成にかかります。自らの問題意識を十分に温めて、内容の豊かな論文となるように準備を進めましょう。関連の学術論文をよく読んで、備えましょう。

授業科目名	教育学演習Ⅲ	担当者名	廣岡 義之
-------	--------	------	-------

授業の目的

修士論文を作成するために先行研究や参考文献をまとめ、自らの問題意識を深める。具体的な指導の下で修士論文の執筆を進める。

到達目標

- 1 テーマについての理解を深める。
- 2 必要な参考文献を収集して分析し、先行研究についてまとめる。
- 3 修士論文の執筆を進めるとともに思索の深化をはかる。
- 4 修士論文の全体構成について再検討する。
- 5 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

授業計画・方法

- | | |
|--------------------------|---------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 修士論文執筆指導 (4) オリジナリティの追及 |
| 2 修士論文執筆指導 (1) 序論の構成 | 10 臨床育の現代思想を読む (1) フランクル：問題提起 |
| 3 修士論文執筆指導 (2) 本論の展開 | 11 臨床教育の現代思想を読む (2) フランクル：思索の展開 |
| 4 修士論文執筆指導 (3) 結論のまとめ方 | 12 臨床教育の現代思想を読む (3) フランクル：思索の深化 |
| 5 教育哲学を読む (1) ボルノー：問題提起 | 13 臨床教育の現代思想を読む (4) フランクル：新たな解答 |
| 6 教育哲学を読む (2) ボルノー：思索の展開 | 14 修士論文執筆指導 (5) 文献の活用 |
| 7 教育哲学を読む (3) ボルノー：思索の深化 | 15 修士論文執筆指導 (6) データの収集と活用 |
| 8 教育哲学を読む (4) ボルノー：新たな解答 | |

評価方法

授業への取り組み：40% レポート：60%

教科書・参考書

(教科書) 授業中に指示する
(参考書) 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

授業科目名	教育学演習Ⅳ	担当者名	隈元 泰弘
-------	--------	------	-------

授業の目的

教育学専攻での学修の総まとめとして、同時に教育学演習での研究の結実として、修士論文を完成する。修士論文の完成に向けた研究のプロセスを通して、教育並びに教育学への高度な資質能力そのものを育む。

到達目標

- 1 修士論文を完成させる。
- 2 教育に関する批判的観察力・思考力を養い、深く先鋭な教育学的思索力を培って、教育界の担い手たり得る資質能力を身につける。
- 3 教育及び教育学に関する専門的知識・技能を培い、学校教育の発展に貢献できる力を養う。

授業計画・方法

- | | |
|------------------------------------|---|
| 1 修士論文作成計画の再検討 | 10 修士論文執筆箇所の発表と指導（9）本論各章における当該課題の将来的展望 |
| 2 修士論文執筆箇所の発表と指導（1）序論における問題提起 | 11 修士論文執筆箇所の発表と指導（10）結論における全体の再考察 |
| 3 修士論文執筆箇所の発表と指導（2）序論における研究史への論究 | 12 修士論文執筆箇所の発表と指導（11）結論における当該研究の研究史上の意義づけ |
| 4 修士論文執筆箇所の発表と指導（3）序論における当該研究の位置づけ | 13 修士論文執筆箇所の発表と指導（12）結論における当該研究の独自性の明示と確認 |
| 5 修士論文執筆箇所の発表と指導（4）本論の全体構成 | 14 修士論文執筆箇所の発表と指導（13）結論において指摘すべき残された課題 |
| 6 修士論文執筆箇所の発表と指導（5）本論各章の構成 | 15 修士論文の完成稿の見直し |
| 7 修士論文執筆箇所の発表と指導（6）本論各章の展開 | |
| 8 修士論文執筆箇所の発表と指導（7）本論各章の詳細 | |
| 9 修士論文執筆箇所の発表と指導（8）本論各章において残された課題 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

（教科書） 授業中に適宜指示する。
（参考書） なし

授業・準備学習のアドバイス

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。教育・幼児教育について研究的に取り組む姿勢を身に付けよう。

授業科目名	教育学演習Ⅳ	担当者名	戸江 茂博
-------	--------	------	-------

授業の目的

教育学演習の総まとめとして、修士論文を完成し、完成度を高めるために、推敲を重ねる。

到達目標

- 1 修士論文を完成させる。
- 2 内容構成について再考する。
- 3 推敲を重ねる。

授業計画・方法

（授業方法） 修士論文を完成するために、修士論文の作成方法、修士論文の内容構成等を確かなものにし、具体的な執筆作業に入る。修士論文の内容について、繰り返し吟味検討を行い、完成度の高いものに仕上げていくようにする。修士論文の内容に関する吟味・検討や議論を進め、発表を通して修士論文の完成度を高めていくようにする。

（各回の計画）

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 修士論文作成に向けての留意点 | 9 修士論文の執筆 |
| 2 修士論文の内容についての再検討 | 10 修士論文の執筆 |
| 3 修士論文の内容についての再検討 | 11 修士論文の執筆 |
| 4 修士論文の内容についての再検討 | 12 発表 |
| 5 修士論文の内容についての再検討 | 13 修士論文内容の推敲 |
| 6 発表 | 14 修士論文内容の推敲 |
| 7 修士論文の執筆 | 15 修士論文の完成 |
| 8 修士論文の執筆 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

（教科書） なし
（参考書） 適宜授業中に提示する。

授業・準備学習のアドバイス

修士論文の完成を目指し、持続的に文章を構成していくことが求められます。説得力のある、論理的に構成された文章を書くことが出来るように、文章力を磨くようにしてください。

授業科目名	教育学演習Ⅳ	担当者名	廣岡 義之
-------	--------	------	-------

授業の目的

教育学専攻での学修の総まとめとして、同時に教育学演習での研究の結実として、修士論文を完成する。修士論文の完成に向けた研究のプロセスを通して、教育並びに教育学への高度な資質能力そのものを育む。

到達目標

- 1 修士論文を完成させる。
- 2 教育に関する批判的観察力・思考力を養い、深く先鋭な教育学的思索力を培って、教育界の担い手たり得る資質能力を身に着ける。
- 3 教育及び教育学に関する専門的知識・技能を培い、学校教育の発展に貢献できる力を養う。
- 4 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

授業計画・方法

- 1 修士論文作成計画の再検討
- 2 修士論文執筆箇所の発表と指導 (1) 序論における問題提起
- 3 修士論文執筆箇所の発表と指導 (2) 序論における研究史への論究
- 4 修士論文執筆箇所の発表と指導 (3) 序論における当該研究の位置づけ
- 5 修士論文執筆箇所の発表と指導 (4) 本論の全体構成
- 6 修士論文執筆箇所の発表と指導 (5) 本論各章の構成
- 7 修士論文執筆箇所の発表と指導 (6) 本論各章の展開
- 8 修士論文執筆箇所の発表と指導 (7) 本論各章の詳細
- 9 修士論文執筆箇所の発表と指導 (8) 本論各章において残された課題
- 10 修士論文執筆箇所の発表と指導 (9) 本論各章における当該課題の将来的展望
- 11 修士論文執筆箇所の発表と指導 (10) 結論における全体の再考察
- 12 修士論文執筆箇所の発表と指導 (11) 結論における当該研究の研究史上の意義づけ
- 13 修士論文執筆箇所の発表と指導 (12) 結論における当該研究の独自性の明示と確認
- 14 修士論文執筆箇所の発表と指導 (13) 結論において指摘すべき残された課題
- 15 修士論文の完成稿の見直し

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 授業中に適宜指示する。
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

教育とは何だろうという問題意識をつねに保持しながら、教育・幼児教育に関する文献等を読み、理解を深めよう。教育・幼児教育について研究的に取り組む姿勢を身に付けよう。

授業科目名	教育行政学特論	担当者名	三羽 光彦
-------	---------	------	-------

授業の目的

現代公教育における教育行政の意義と役割について考察し、教育行政の基本的事項を理解するとともに、現代日本の教育と教育行政の諸現象を教育学的に分析し、現在課題となっている教育改革についても考察を深める。

到達目標

学校教育を中心とする教育行政学の基本知識を修得するとともに、近年の教育行政学の研究成果や論争点を理解し、今日の日本の教育と教育行政の諸課題を教育的に整理・検討することができることを到達目標とする。

授業計画・方法

- | | |
|-----------------------------------|---------------------------------|
| 1 教育行政の意義とその機能 | 9 教員法制と教員の服務 |
| 2 日本国憲法と教育を受ける権利 | 10 教員組織と学校経営（学校の危機管理とチーム学校の在り方） |
| 3 教育の機会均等 | 11 学校制度の原理と課題 |
| 4 社会経済的格差と教育行政の課題 | 12 幼保一元化と幼児教育の課題 |
| 5 教育基本法の意義と論点 | 13 学校・家庭・地域の連携 |
| 6 教育行政の原理と教育委員会制度 | 14 これからの教育改革の課題 |
| 7 教育課程行政の在り方と学習指導要領（カリキュラムマネジメント） | 15 本講義のまとめ |
| 8 教科書と教科書行政 | |

評価方法

授業への取り組み：20% 確認テスト：50% 授業中のレポート：30%

教科書・参考書

- （教科書）教科書は使わず、プリントで進める。
（参考書）大田堯 『教育とは何か』 岩波新書
河合隼雄 『子どもと自然』 岩波新書
福地誠 『教育格差が日本を没落させる』 洋泉社新書
その他は授業中に指示します。

授業・準備学習のアドバイス

教科書、プリント、参考書、図書館、インターネット、新聞・雑誌で調べてください。

授業科目名	教育社会学特論	担当者名	稲垣 恭子
-------	---------	------	-------

授業の目的

人間の生涯を支えるさまざまな教育文化について、教育社会学、歴史社会学の視点から探究していきます。子どもから大人への成長の過程は、家族、友人、教師、地域のコミュニティ、メディアなどさまざまな出会いや関係性のなかで、困難と出会いそれらを乗り越えて自立していく過程です。本授業では、子どもの成長を支える教育文化について、主に家庭文化、子ども文化、学校文化、サブカルチャーなどの視点から検討します。とくに、ジェンダーによる自己形成の違いや特徴について皆さんと議論したいと思います。具体的には以下のようなテーマについて考えます。

- 1 自己形成をめぐる物語：自己形成物語（ビルドゥングスroman）という視点から、「大人になること」の意味について考える。
- 2 ドラマ・小説にみる自己形成の物語：ドラマや小説のなかで子どもから大人への成長過程がどのように描かれてきたのか、また受容してきたのかについて、朝の連続テレビ小説や少女小説などを素材として検討する。
- 3 家庭と子ども文化：大人と区別される子どもの概念の成立とそれにもなう教育家族の誕生、子ども文化の特徴と変容、現在について考える。少年文化、少女文化のそれぞれについて、雑誌メディア等を資料にしながら検討する。
- 4 学校文化とサブカルチャー：教師と生徒の関係や生徒同士の関係（サブカルチャー）について、その特徴や変容、現在について考える。
- 5 現代の自己形成：ポストモダン社会といわれる現代における自己形成のありかたについて議論する。

到達目標

子どもの成長を支えるさまざまな教育文化について、家庭、学校、子ども文化、女性文化などの具体的なテーマにそって理解すると同時に、現代の教育文化の状況や課題について分析し展望することが目標である。これらを通して、教育文化の社会学、歴史社会学の視点と方法を身につけることが望まれる。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------|------------------|
| 1 インTRODクシON | 9 サブカルチャーの変容と現在 |
| 2 教育文化とは | 10 男子の教養・女子の教養 |
| 3 子どもから大人への移行をどうみるか | 11 メディアと自己形成物語 |
| 4 小説・ドラマにみる自己形成物語 | 12 現代における自己形成とは |
| 5 大人と子どもの関係を考える | 13 ポストモダン社会と自己形成 |
| 6 教育家族の誕生と変容 | 14 総合討議 |
| 7 子ども文化の変容と現在 | 15 まとめと課題 |
| 8 学校文化と教師-生徒関係の変容と現在 | |

評価方法

授業への取り組み：30% 確認テスト：20% レポート：50%

教科書・参考書

- (教科書) 稲垣恭子 『教育文化の社会学』 放送大学教育振興会 2017年
(参考書) 稲垣恭子 『女学校と女学生』 中公新書 2007年
稲垣恭子 編 『教育文化を学ぶ人のために』 世界思想社 2011年

授 業 科 目 名	教育心理学演習Ⅰ	担 当 者 名	金山 健一
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

授業の目的は、修士論文を作成するための教育心理学・学校心理学の研究内容の理解と研究方法の習得である。

到達目標

到達目標は以下の2点である

- 1 修士論文のテーマに関連する学術論文の内容を理解する。
- 2 教育心理学・学校心理学の研究の方法、資料の分析の方法、及びまとめ方等、論文作成の基本技術を修得する。

授業計画・方法

- | | |
|---|------------------|
| 1 introduction ならびに本学研究倫理基準・規定にのっとった研究倫理教育の講義 | 8 各自の論文発表・解説・討論 |
| 2 教育心理学・学校心理学と学校教育 | 9 各自の論文発表・解説・討論 |
| 3 教育心理学・学校心理学における教育臨床の現状 | 10 各自の論文発表・解説・討論 |
| 4 教育心理学・学校心理学における教育臨床のスキル | 11 各自の論文発表・解説・討論 |
| 5 教育心理学・学校心理学における教育臨床の測定 | 12 各自の論文発表・解説・討論 |
| 6 教育心理学・学校心理学における教育臨床の課題 | 13 各自の論文発表・解説・討論 |
| 7 教育心理額・学校心理学の研究倫理基準・規定 | 14 各自の論文発表・解説・討論 |
| | 15 まとめ・講評 |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

(参考書) 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

授業・準備学習のアドバイス

論文発表のためには、関連する文献収集し理解を深めることが必要である。授業では、学校現場のフィールドを紹介し、調査研究ができる体制を提供するので、積極的に活用してほしい。

授 業 科 目 名	教育心理学演習Ⅱ	担 当 者 名	金山 健一
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

授業の目的は、修士論文を作成するための教育心理学・学校心理学の研究内容の理解と研究方法の訓練、並びに修士論文に関連するデータの収集である。

到達目標

到達目標は以下の2点である

- 1 修士論文のテーマに関連する学術論文の理解
- 2 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析

授業計画・方法

- | | |
|--------------------|---------------------|
| 1 introduction | 9 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 2 学校心理学の研究論文の発表・討論 | 10 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 3 学校心理学の研究論文の発表・討論 | 11 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 4 教育臨床の研究論文の発表・討論 | 12 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 5 教育臨床の研究論文の発表・討論 | 13 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 6 統計を用いた研究論文の発表・討論 | 14 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 7 統計を用いた研究論文の発表・討論 | 15 まとめ・講評 |
| 8 各自の収集したデータの分析・討論 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

(参考書) 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

授業・準備学習のアドバイス

論文発表のためには、関連する文献収集し理解を深めることが必要である。授業では、学校現場のフィールドを紹介し、調査研究ができる体制を提供するので、積極的に活用してほしい。

授 業 科 目 名	教育心理学演習Ⅲ	担 当 者 名	金山 健一
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

授業の目的は、修士論文を作成するために必要な関連文献の理解と修士論文に関連するデータの収集である。

到達目標

到達目標は以下の2点である

- 1 修士論文のテーマに関連する学術論文の理解
- 2 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析

授業計画・方法

- | | |
|--------------------------------------|---------------------|
| 1 introductionと本学研究倫理基準・規定にのった研究倫理教育 | 8 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 2 学校心理学に関する関連文献の発表・討論 | 9 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 3 学校心理学に関する関連文献の発表・討論 | 10 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 4 教育臨床研究に関する関連文献の発表・討論 | 11 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 5 教育臨床研究に関する関連文献の発表・討論 | 12 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 6 量的研究に関する関連文献の発表・討論 | 13 各自の収集したデータの分析・討論 |
| 7 量的研究に関する関連文献の発表・討論 | 14 各自の収集したデータの分析・討論 |
| | 15 まとめ・講評 |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

(参考書) 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

授業・準備学習のアドバイス

授業では、学校現場のフィールドを紹介し、調査研究ができる体制を提供するので、積極的に活用してほしい。

授 業 科 目 名	教育心理学演習Ⅳ	担 当 者 名	金山 健一
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

授業の目的は、教育心理学演習の仕上げで、教育心理学の修士論文を完成させることである。

到達目標

到達目標は以下の2点である

- 1 修士論文を完成させること
- 2 教育心理学研究の本質を理解し、critical thinking の力をつけること

授業計画・方法

- | | |
|--------------------|------------------------|
| 1 orientation | 9 各自の収集したデータの分析と討論 |
| 2 各自の収集したデータの分析と討論 | 10 各自の収集したデータの分析と討論 |
| 3 各自の収集したデータの分析と討論 | 11 作成した論文並びに関連文献の発表と討論 |
| 4 各自の収集したデータの分析と討論 | 12 作成した論文並びに関連文献の発表と討論 |
| 5 各自の収集したデータの分析と討論 | 13 作成した論文並びに関連文献の発表と討論 |
| 6 各自の収集したデータの分析と討論 | 14 作成した論文並びに関連文献の発表と討論 |
| 7 各自の収集したデータの分析と討論 | 15 まとめと講評 |
| 8 各自の収集したデータの分析と討論 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 教科書は使用しないが、必要に応じて毎時間、資料を配布する。

(参考書) 教育心理学研究・学校心理学研究・ピアサポート研究・学校教育相談研究などの学会誌を参考にする。

授業・準備学習のアドバイス

授業では、学校現場のフィールドを紹介し、必要に応じて学校教師の協力も仰げる体制を提供するが、調査対象学校には研究結果をフィードバックすることが肝要である。

授業科目名	教育心理学特論	担当者名	多鹿 秀継
-------	---------	------	-------

授業の目的

この講義では、教室場面における教授・学習過程を心理学の視点から明確にする。すなわち、授業に関する基礎理論や授業設計の構築に関して、実証的かつ具体的な研究方法に基づき、主に教育心理学が明確にした成果や知見を提供し検討していくことによって、教授・学習過程の理解を深める。

到達目標

教授学習過程に介在する教育心理学的原理を理解し、これに基づいて児童生徒の理解や学習援助ができる。

授業計画・方法

- | | |
|--------------------|--------------|
| 1 教育心理学とは何か | 9 知識の獲得と適用 |
| 2 教授学習過程の理解 | 10 メタ認知とは何か |
| 3 授業と学級集団 | 11 メタ認知の活性化 |
| 4 学習と動機づけ | 12 学習環境の設定 |
| 5 学習の方法と学習の転移 | 13 学習指導と学習理論 |
| 6 情報処理アプローチによる知識獲得 | 14 個人差と授業 |
| 7 知識の構成過程 | 15 まとめと確認 |
| 8 熟達者と初学者の知識構成 | |

評価方法

授業への取り組み：20% レポート：80%

教科書・参考書

- (教科書) なし
(参考書) 多鹿秀継 『教育心理学 第2版-より充実した学びのために-』 サイエンス社
多鹿秀継・上淵 寿・堀田千絵・津田恭充 『読んでわかる教育心理学』 サイエンス社

授業科目名	教育哲学特論	担当者名	廣岡 義之
-------	--------	------	-------

授業の目的

教育思想を教育哲学的に考察しつつ、教育の本質的な見方、考え方についての専門的な理解を深めることを課題とする。

到達目標

教育思想を教育哲学的に考察しつつ、教育的課題について論理的に思考し、判断し、それを主体的に解決し、表現する能力を身につけることをねらいとする。

本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

授業計画・方法

(授業方法) 講義および質疑応答

(授業計画)

- | | |
|-------------------|------------------------|
| 1 個人主義的な教育の定義 | 9 ベスタロッチの教育哲学 |
| 2 集団主義的な教育の定義 | 10 幼児教育の教育哲学 |
| 3 生理的早産 | 11 ボルノーの教育哲学 (1) 悲連続性 |
| 4 ソクラテスの助産術 | 12 ボルノーの教育哲学 (2) 道徳的危機 |
| 5 プラトンの洞窟の比喩 | 13 ボルノーの教育哲学 (3) 覚醒 |
| 6 古代ギリシア・ローマの教育哲学 | 14 プーバーの教育哲学 |
| 7 中世・ルネサンスの教育哲学 | 15 教師と子どもの信頼関係 |
| 8 バロックの教育哲学 | |

評価方法

授業への取り組み：70% 確認テスト：30%

教科書・参考書

- (教科書) 広岡義之著、『絵で読む教育学入門』 ミネルヴァ書房
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

予習復習を習慣づけましょう。

授 業 科 目 名	教育方法学特論	担 当 者 名	廣 岡 義 之
-----------	---------	---------	---------

授業の目的

本講義では、まず、西洋の教育方法の変遷を全体的に把握する。その後、具体的な教育者の教育方法について詳細に考察していく。日本の教育者についても論ずる。最後に、最新の学習指導要領の教育方法、評価の仕方についても考察を深めつつ、今後の課題を展望してみたい。

到達目標

西洋や日本の教育方法を概観することを通じて、現代学校で採用されている教育方法を批判的に考察する視点を獲得する。そのうえで、ひとりひとりが創造的な授業を構想し、創造する力量を身に付けることを目標とする。本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

授業計画・方法

(授業方法) 講義と並行して講義内容や資料をもとに討論を行う。また、重要な論点や教育的課題についても討論の機会を設定する。

(授業計画)

- | | |
|------------------|---------------------|
| 1 西洋の教育方法の歴史の変遷① | 9 シュタイナーの教育方法③ |
| 2 西洋の教育方法の歴史の変遷② | 10 林竹二の教育方法① |
| 3 西洋の教育方法の歴史の変遷③ | 11 林竹二の教育方法② |
| 4 フレーベルの教育方法① | 12 東井義雄の教育方法① |
| 5 フレーベルの教育方法② | 13 東井義雄の教育方法② |
| 6 フレーベルの教育方法③ | 14 新学習指導要領における教育方法① |
| 7 シュタイナーの教育方法① | 15 新学習指導要領における教育方法② |
| 8 シュタイナーの教育方法② | |

評価方法

授業への取り組み：70% 確認テスト：30%

教科書・参考書

(教科書) 適宜、資料を配布する。
(参考書) 適宜、指示をする。

授業・準備学習のアドバイス

- 1 しばしば資料を配布するので、なくさないように綴じておいて、授業時には持参してください。
- 2 授業中に、発表したり、主体的に参加することを求めます。
- 3 楽しく議論して自分の意見を深めましょう。

授 業 科 目 名	教科教育演習 I	担 当 者 名	畑 野 裕 子
-----------	----------	---------	---------

授業の目的

「総合的な学習の時間」の教育的意義や現状と課題をとらえるとともに、「総合的な学習の時間」における国際理解、環境、情報、健康・福祉等について理解を深め、それらに関する研究についても探求する。

到達目標

学習指導要領において「探究な学習」の充実として位置づけられた「総合的な学習の時間」の学習理論と具体的な授業実践について理解を深める。総合的な学習の時間について目標、内容、指導計画、評価、学習指導、組織体制等の理論と実際の方法が具体的に実践できる指導能力の獲得を目標とする。

授業計画・方法

- | | |
|-----------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション (研究倫理を含む) | 9 修士論文執筆に必要な先行研究の概要の発表① |
| 2 修士論文題目について | 10 修士論文執筆に必要な先行研究の概要の発表② |
| 3 修士論文研究計画について | 11 修士論文執筆に必要な調査・面接の説明① |
| 4 修士論文理論的構成等について | 12 修士論文執筆に必要な調査・面接の説明② |
| 5 修士論文執筆に必要な先行研究の紹介① | 13 各自の論文発表・解説・討論① |
| 6 修士論文執筆に必要な先行研究の紹介② | 14 各自の論文発表・解説・討論② |
| 7 修士論文執筆に必要な先行研究の概要① | 15 総括 |
| 8 修士論文執筆に必要な先行研究の概要② | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：25% 発表：25%

教科書・参考書

(教科書) 随時紹介する。
(参考書) 随時紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

提示された課題に関して、予習・復習を行う。

授 業 科 目 名	教科教育演習Ⅱ	担 当 者 名	畑野 裕子
-----------	---------	---------	-------

授業の目的

- 1 修士論文に関する理論的な構成を構築する。
- 2 修士論文を作成するために、教科教育学・体育科教育学の研究内容や研究方法を理解し、修士論文に関連するデータの収集を行う。

到達目標

- 1 修士論文のテーマに関連する学術論文を理解し、先行研究を整理する。
- 2 修士論文のテーマに関連するデータの収集と分析等の方法論について、理解を深める。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------|--------------------------|
| 1 オリエンテーション（研究倫理を含む） | 9 修士論文執筆に必要な先行研究の概要の発表① |
| 2 修士論文題目について | 10 修士論文執筆に必要な先行研究の概要の発表② |
| 3 修士論文研究計画について | 11 修士論文執筆に必要な調査・面接の説明① |
| 4 修士論文理論的構成等について | 12 修士論文執筆に必要な調査・面接の説明② |
| 5 修士論文執筆に必要な先行研究の紹介① | 13 各自の論文発表・解説・討論① |
| 6 修士論文執筆に必要な先行研究の紹介② | 14 各自の論文発表・解説・討論② |
| 7 修士論文執筆に必要な先行研究の概要① | 15 総括 |
| 8 修士論文執筆に必要な先行研究の概要② | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 随時紹介する。
(参考書) 随時紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

提示された課題に関して、予習・復習を行う。

授 業 科 目 名	教科教育演習Ⅲ	担 当 者 名	畑野 裕子
-----------	---------	---------	-------

授業の目的

修士論文を作成するために、必要な関連文献をまとめ理論的に構成し、論文執筆にとりかかる。修士論文に関連する資料やデータを収集する。それらを基に、それまでの成果をまとめて中間発表をする。

到達目標

- 1 修士論文に関連する学術論文の知見をまとめ、自分の考察を深め、理論的に構成する。
- 2 修士論文作成に必要な予備調査、本調査を行い、データを収集・分析し、その調査結果をまとめて、論文を執筆する。

授業計画・方法

- | | |
|--|--------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 7 予備調査案を検討する。 |
| 2 演習Ⅱを踏まえた修士論文題目、研究活動計画案について発表し、先行研究を検討する。 | 8 予備調査の経過について発表し、改善点等について討議する。 |
| 3 検討した修士論文題目、研究活動計画について、理論的構成や調査案を加えて修正する。 | 9 本調査案を検討する。 |
| 4 修士論文執筆のための研究活動計画にそって、討議しながら修士論文を作成する。① | 10 本調査案を発表し、改善点等について討議する。 |
| 5 修士論文執筆のための研究活動計画にそって、討議しながら修士論文を作成する。② | 11 本調査の経過について発表し、討議する。 |
| 6 修士論文執筆のための研究活動計画にそって、討議しながら修士論文を作成する。③ | 12 本調査の結果について発表し、討議する。 |
| | 13 本調査結果を発表し、データ分析の方法について検討する。 |
| | 14 調査結果のデータを分析し、その結果を発表し討議する。 |
| | 15 総括・講評 |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 授業中に指示する
(参考書) 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

授 業 科 目 名	教科教育演習Ⅳ	担 当 者 名	畑野 裕子
-----------	---------	---------	-------

授業の目的

教科教育学演習Ⅲを踏まえて、教育学専攻での学修の総まとめとして、修士論文を完成させる。
修士論文の完成に向けた研究のプロセスを通して、教育並びに教育学への高度な資質能力を育む。

到達目標

- 1 調査データをまとめて分析し考察を進め、論文全体の理論的構成などを再考し、推敲を加え、修士論文を完成させる。
- 2 教科教育学研究の本質を理解し、批判的思考力をつける。

授業計画・方法

- | | |
|--------------------------------------|----------------------------|
| 1 オリエンテーション：演習Ⅲでの中間発表を踏まえて、課題を再認識する。 | 9 調査データの考察。討議。 |
| 2 収集したデータを分析し、まとめる。① | 10 修士論文の執筆を進める。 |
| 3 収集したデータを分析し、まとめる。② | 11 修士論文の執筆を進める。 |
| 4 分析したデータの結果をまとめ、討議する。① | 12 修士論文を完成させる。 |
| 5 分析したデータの結果をまとめ、討議する。② | 13 修士論文の発表の準備をし、最終チェックを行う。 |
| 6 データの結果を考察し、討議する。① | 14 修士論文を発表する。 |
| 7 データの結果を考察し、討議する。② | 15 総括・講評 |
| 8 調査データの考察。討議。 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 授業中に適宜指示する。
(参考書) 授業中に必要に応じて指示する。また、参考資料を適宜配布する。

授業・準備学習のアドバイス

ゼミでの研究・討議に積極的に参加すること。

授 業 科 目 名	障害児教育特論	担 当 者 名	堀田 千絵
-----------	---------	---------	-------

授業の目的

特別支援教育の理念を理解するとともに、特別支援教育における実際の支援と指導の在り方について学ぶ。

到達目標

- 1 特別支援教育の理念を理解する
- 2 特別支援教育の理念に基づいた実際の支援を習得する
- 3 特別支援教育の支援、指導のあり方について各自の理解を深める

授業計画・方法

- | | |
|-----------------|---------------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 視覚障害 |
| 2 特別支援教育の理念 | 10 重度重複障害 |
| 3 特別支援教育の実際 | 11 特別支援教育の教育課程とその特質 |
| 4 知的障害 | 12 発達段階を踏まえた支援について(1) アセスメントの方法 |
| 5 肢体不自由 | 13 発達段階を踏まえた支援について(2) 授業構成 |
| 6 発達障害(LD ADHD) | 14 事例による理解 |
| 7 発達障害(ASD) | 15 まとめと発表 |
| 8 聴覚障害 | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 読んでわかる教育心理学(2018) 第11章 障害の発達と学習
※授業中に適宜資料を配布します。
(参考書) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説総則編(幼稚部・小学部・中学部)
特別支援学校学習指導要領解説自立活動編
特別支援学校学習指導要領解説各教科等編(小学部・中学部)

授業・準備学習のアドバイス

授業と共に、予習、復習を通して特別支援教育に対する理解を深めてください。

授業科目名	生涯福祉特論	担当者名	戸田 典樹
-------	--------	------	-------

授業の目的

この授業では、社会福祉の基本的概念を歴史、制度・政策を通じて学ぶことにより、人々にとって生涯福祉とは何かについて理解することを授業の目的とする。

到達目標

この授業は基本的には講義形式であるが、学生は与えられた課題についてレポートを通じて、生涯福祉の理念と在り方を修得することを到達目標とする。

授業計画・方法

(授業方法) 学生に配布する教材「大学院生涯福祉特論」とパワーポイント等視覚教材を用いて、学生との対話を通じて授業を展開する。

(授業計画)

- | | |
|---------------|-----------------|
| 1 現代社会と福祉 | 9 高齢者と社会福祉制度 |
| 2 現代社会と福祉 | 10 高齢者と社会福祉制度 |
| 3 現代社会と福祉 | 11 障害者と社会福祉制度 |
| 4 社会福祉制度の発達過程 | 12 障害者と社会福祉制度 |
| 5 社会福祉制度の発達過程 | 13 生活困窮者と社会福祉制度 |
| 6 社会福祉制度の発達過程 | 14 生活困窮者と社会福祉制度 |
| 7 児童と社会福祉制度 | 15 まとめと確認 |
| 8 児童と社会福祉制度 | |

評価方法

授業への取り組み：40% 確認テスト30% レポート：30%

教科書・参考書

(教科書) 受講者の関心事を合わせて資料を作成する。あるいは、購入する。
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

授業は基本的に講義が中心であるが、レポート・発表形式も用いるので、学生の授業への積極的な参加を期待しています。

授業科目名	英書講読（教育心理学）	担当者名	小川内 哲生
-------	-------------	------	--------

授業の目的

目的は2点。

- 1 教育心理学の学習・認知過程に言及したテキストを講読し、英語表現になじむことによって、テキストの内容である学習・認知過程の理解を深めること。
- 2 各自の興味ある研究テーマに関する英語論文が読めるようになること。

到達目標

積極的に英語論文が読めること。

授業計画・方法

- | | |
|------------------------------------|------------------|
| 1 introduction・使用するテキストの内容・執筆者の紹介等 | 9 テキストの講読・討論Ⅶ |
| 2 テキストの講読・討論Ⅰ | 10 テキストの講読・討論Ⅸ |
| 3 テキストの講読・討論Ⅱ | 11 各自の研究論文紹介・討論Ⅰ |
| 4 テキストの講読・討論Ⅲ | 12 各自の研究論文紹介・討論Ⅱ |
| 5 テキストの講読・討論Ⅳ | 13 各自の研究論文紹介・討論Ⅲ |
| 6 テキストの講読・討論Ⅴ | 14 各自の研究論文紹介・討論Ⅳ |
| 7 テキストの講読・討論Ⅵ | 15 まとめ・講評 |
| 8 テキストの講読・討論Ⅶ | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) Bransford, J.D., Brown, A.L., & Cocking, R. (Eds.). (2000). How people learn: Brain, mind, experience, and school (Expanded ed.). Washington, DC: National Research Council.
(参考書) なし

授 業 科 目 名	身体教育学特論	担 当 者 名	杉山 真人
-----------	---------	---------	-------

授業の目的

スポーツなどの身体運動は幼児から高齢者に至るまで実生活に浸透しており、生涯にわたる営みであると捉えられる。他方で、高度に文明が発達した今日において、身体運動を健康や教育と関連づけた場合、種々の問題を見いだすことができる。そこで、本講義ではこれらの問題を前提として身体運動の教育的意義を理解し、科学的根拠に基づいた運動指導における知識を習得することを目的とする。

到達目標

科学的知見に基づいた諸理論を通して身体運動の原理を理解し、運動実行者の指導や援助ができる。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------|----------------------|
| 1 身体を通した教育の重要性 | 9 身体教育及び健康を取り巻く現状と課題 |
| 2 システムとしての身体 | 10 運動の個人差と体力・運動能力 |
| 3 身体運動と環境情報 | 11 子どもの体力・運動能力の現状と課題 |
| 4 運動の学習過程 | 12 学校教育における運動指導の実際 |
| 5 運動技能の評価 | 13 生涯スポーツとしての身体運動 |
| 6 身体運動制御の情報処理的アプローチ | 14 運動指導における安全教育と安全管理 |
| 7 環境との相互作用を通じた身体運動制御 | 15 まとめと確認（総合的な討議） |
| 8 運動の発達過程 | |

評価方法

授業への取り組み：40% レポート：60%

教科書・参考書

- (教科書) なし
(参考書) シュミット、R.A (1994) 運動学習とパフォーマンス 大修館書店

授業・準備学習のアドバイス

ヒトの運動は合目的に果たされることが多いため、課題（原因）と成果（結果）が直接的に結びついていると捉えがちです。しかし、複雑な身体構造や神経システムは必ずしも直接的な因果関係だけで説明できるものではありません。これらの基盤となる諸原理を理解するためには、現象の巨視的及び微視的な視点が必要となります。この点を踏まえた上で学習に臨んでほしいと思います。

授 業 科 目 名	心理教育アセスメント特論	担 当 者 名	多鹿 秀継
-----------	--------------	---------	-------

授業の目的

教室場面における心理教育アセスメントを理解し、個別式知能検査の習熟に向けた体験を積み重ねていくこと。

到達目標

- 2点あります。
1 心理教育アセスメントの効用と限界を理解すること。
2 個別式知能検査の1つであるWISCの実施体験から、子ども理解を深めること。

授業計画・方法

(授業方法) 講義と実際の検査道具を使って実習を組み合わせる。

(授業計画)

- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1 心理教育アセスメントとは何か | 9 WISC検査の実習Ⅰ（WISC検査の特徴の習熟） |
| 2 教育測定の理解 | 10 WISC検査の実習Ⅱ（子どもを使っての実習） |
| 3 心理検査の信頼性と妥当性 | 11 WISC検査の実習Ⅲ（WISC検査結果の整理・分析） |
| 4 教育評価の理解 | 12 WISC検査の実習Ⅳ（実習レポートの作成） |
| 5 心理検査の理解と活用 | 13 WISC検査の実習Ⅴ（学業との関連をおさえて、指導計画の立案） |
| 6 知能検査と教育の評価 | 14 WISC検査と子どもの理解 |
| 7 学級・学校のアセスメント | 15 心理教育アセスメントと子ども理解 |
| 8 知能の構造と知能検査の基礎実習 | |

評価方法

授業への取り組み：20% レポート：80%

教科書・参考書

- (教科書) WISC手引書
(参考書) 授業で随時伝える。

授業・準備学習のアドバイス

できるだけ実習体験を重視する。そのための予習復習をしっかりと行うこと。

授 業 科 目 名	生徒指導特論	担 当 者 名	池島 徳大
-----------	--------	---------	-------

授業の目的

本授業では、すべての児童・生徒の健全な発達を促す視点に立って、生徒指導の原理について学ぶとともに、思春期・青年期の心理的発達及び今日の生徒指導上の諸問題についての知見を深め、その対応と方法について検討する。講義だけでなく、演習を織り交ぜて行う。

到達目標

本授業の到達目標は、下記の5点である。

- 1 生徒指導の原理を説明することができ、実際に構想することができる。
- 2 演習を通して、多様な生徒理解の方法を説明することができ、実際に活用することができる。
- 3 いじめ、不登校などの生徒指導上の諸問題の状況とその対応の在り方について説明することができ、実際に活用することができる。
- 4 学校カウンセリングの考え方を説明することができ、実際に活用することができる。
- 5 開発的・予防的視点に立つ生徒指導について説明することができ、その実際について活用することができる。

授業計画・方法

- | | |
|--------------------------|-----------------------------------|
| 1 オリエンテーション（リレーション技法の導入） | 9 いじめ・対立問題への具体的対応 |
| 2 生徒指導の基本原則 | 10 わが国の不登校問題の現状 |
| 3 生徒指導と学校カウンセリング | 11 不登校の心理とその理解 |
| 4 生徒指導の教育課程上の位置づけ | 12 不登校問題への具体的対応 |
| 5 児童期・青年期の心の発達 | 13 生徒指導におけるカウンセリングの考え方と進め方（事例研究1） |
| 6 ビアプレッシャーと生徒理解 | 14 生徒指導におけるカウンセリングの考え方と進め方（事例研究2） |
| 7 わが国のいじめ問題の現状とその心理理解 | 15 開発的・予防的視点に立つ生徒指導の展開（確認テスト含む） |
| 8 日本のいじめと諸外国のいじめの国際比較研究 | |

評価方法

授業への取り組み：15% 確認テスト：60% レポート：25%

教科書・参考書

- （教科書） 池島徳大監修・著 2011 「ピア・サポートによるトラブル・けんか解決法！ 指導用ビデオと指導案ですぐできるピア・メディエーションとクラスづくり」 ほんの森出版
- （参考書） 池島徳大 1997 「いじめ解決への教育的支援」 日本教育新聞社
 佐藤修策編、池島徳大他著 2007 「学校カウンセリングの理論と実践」 ナカニシヤ出版
 國分康孝編 1999 「学校カウンセリング」 日本評論社
 文部科学省 2010 「生徒指導提要」

授業・準備学習のアドバイス

生徒指導に関して、いじめ・不登校などup-to-dateな問題も取り上げます。日頃からの目的意識をもった受講を強く望みます。

授 業 科 目 名	総合学習特論	担 当 者 名	畑野 裕子
-----------	--------	---------	-------

授業の目的

「総合的な学習の時間」の教育的意義や現状と課題をとらえるとともに、「総合的な学習の時間」における国際理解、環境、情報、健康・福祉等について理解を深め、それらに関する研究についても探求する。

到達目標

学習指導要領において「探究な学習」の充実として位置づけられた「総合的な学習の時間」の学習理論と具体的な授業実践について理解を深める。総合的な学習の時間について目標、内容、指導計画、評価、学習指導、組織体制等の理論と実際の方法が具体的に実践できる指導能力の獲得を目標とする。

授業計画・方法

- | | |
|-------------------------|---------------------------|
| 1 総合的な学習の時間の意義について | 9 総合的な学習の時間における情報について |
| 2 総合的な学習の時間の現状と課題について | 10 総合的な学習の時間における情報について |
| 3 総合的な学習の時間における国際理解について | 11 総合的な学習の時間における情報について |
| 4 総合的な学習の時間における国際理解について | 12 総合的な学習の時間における健康・福祉について |
| 5 総合的な学習の時間における国際理解について | 13 総合的な学習の時間における健康・福祉について |
| 6 総合的な学習の時間における環境について | 14 総合的な学習の時間における健康・福祉について |
| 7 総合的な学習の時間における環境について | 15 総括 |
| 8 総合的な学習の時間における環境について | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：25% 発表：25%

教科書・参考書

- （教科書） 随時紹介する。
 （参考書） 随時紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

提示された課題に関して、予習・復習を行う。

授 業 科 目 名	体育科教育特論A	担 当 者 名	三木 四郎
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

体育科教育の目標、内容、評価について理解を深め、体育科の独自の学習内容である運動学習の指導のあり方について考える。学校体育で生涯にわたって運動の楽しさを味わうための資質・能力として、どんな身体能力を育てるのかの問題意識をもとに発生運動学の運動理論を理解する。また、運動習得に関する学習指導の諸問題を明らかにしながら、人間の運動についても考える。

到達目標

- 1 体育科教育の目標、内容、評価について理解できる。
- 2 発生論的運動学の運動指導の理論が理解できる。
- 3 幼児、児童の運動習得の様相を理解できる。
- 4 動感指導の理論を用いて具体的な指導場面での指導案と指導方法を論述できる。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------------|----------------------------|
| 1 学校体育の目標 | 9 動きかたを覚えるための動感能力について（その2） |
| 2 学校体育における学習内容 | 10 動きかたを教えるための指導能力について |
| 3 運動学習とスポーツ運動学 | 11 動感指導の考え方と実践 |
| 4 体育における運動学習の問題点 | 12 動感指導の実践的事例の検証（その1） |
| 5 運動学習の指導のための基礎的運動理論 | 13 動感指導の実践的事例の検証（その2） |
| 6 発生運動学に基づく動感指導の考え方 | 14 テーマ発表とまとめ |
| 7 幼児と児童の運動習得と動の形成位相について | 15 まとめと今後の学校体育の課題 |
| 8 動きかたを覚えるための動感能力について（その1） | |

評価方法

授業への取り組み：50% 確認テスト：20% レポート：30%

教科書・参考書

- （教科書） 三木四郎 新しい体育授業の運動学（明和出版）
（参考書） 金子明友 スポーツ運動学（明和出版）
金子明友 わざの伝承の道しるべ（明和出版）
三木四郎 器械運動の動感指導と運動学（明和出版）
三木四郎、灘英世 編著 ボール運動の運動感覚指導（明和出版）

授業・準備学習のアドバイス

現象学的人間学の発生運動理論を基に幼児や児童の運動指導の考え方を学ぶことができる。特に運動の苦手な子供の指導の在り方を中心に論を進める。事前に授業で講義する内容の章を読んでおくことと、自分の運動経験に照らして理解できるようにする。

授 業 科 目 名	体育科教育特論B	担 当 者 名	畑野 裕子
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

体育科における国内外の授業研究や、舞踊（表現運動・ダンス）に関わる理論を論じる。特に、舞踊（表現運動・ダンス）に関しては、その本質を論じ、体育における役割について考察するとともに、舞踊教育の現状や、教材研究、学習指導法等に関しても論じる。

到達目標

国内外の体育授業に関する理解を深める。
舞踊（表現運動・ダンス）に関して、内容を理解し、舞踊教育に関する理解を深める。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------------|---------------------|
| 1 保健体育科の内容・領域編成、教材について | 9 選択制・総合学習について |
| 2 教科特性と身体運動文化について | 10 諸外国における体育について |
| 3 体育における授業研究について | 11 諸外国におけるダンスについて |
| 4 オリンピック教育について | 12 諸外国におけるダンス教育について |
| 5 表現運動・ダンスの本質と体育における役割について | 13 日本における舞踊について |
| 6 小学校における表現運動の学習指導について | 14 舞踊教育における新しい取り組み |
| 7 中学校におけるダンスの学習指導について | 15 全体討論と総括 |
| 8 高等学校におけるダンスの学習指導について | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

- （教科書） なし
（参考書） 日本教材学会編 『「教材学」現状と展望』 協同出版 2008
その他の参考文献は、授業の中で指示し、プリント資料を配布する。

授業・準備学習のアドバイス

提示された課題に関して、予習・復習を行う。

授業科目名	道徳教育特論	担当者名	隈元 泰弘
-------	--------	------	-------

授業の目的

- 1 人間の「善さ」とは何か、学校教育において「善さ」の発達を促すということとはどのようにして可能となるのか。この問題について様々な道徳教育論を考察する。
- 2 様々な道徳教育の思想を歴史的、世界的視野から検討する。
- 3 日本における道徳教育を、その歴史、現在のあり方と問題点、世界との比較という観点から論じる。
- 4 道徳の授業の様々な方法論を、善さとその発達に関する基礎理論との一体的視点から解説し、学校における人間教育の新たな可能性について提案する。

到達目標

- 1 人間の善さに関する思想の多彩な内容と、その向上を促す教育の持つ様々な困難について理解する。
- 2 道徳教育の本質並びに現代日本における道徳教育の状況と困難について歴史的・世界的視野から理解し、道徳教育の意義を説明できるようにする。
- 3 道徳の授業に関してその様々な方法論を習得する。さらに、それに立脚して自分独自の指導案を作成し、実際に授業を展開する力を身につける。

授業計画・方法

- | | |
|------------------------------|-------------------------------------|
| 1 道徳教育の課題 | 9 道徳性の発達に関する諸理論とその類型 |
| 2 世界における道徳教育・人間教育の現状 | 10 「道徳の授業」の方法論 (1) 「品性教育」 |
| 3 日本における道徳教育の歴史 | 11 「道徳の授業」の方法論 (2) 「価値明確化の教育」 |
| 4 現代日本の道徳教育 (学校教育全般における道徳教育) | 12 「道徳の授業」の方法論 (3) 「コールバーグ理論」 |
| 5 現代日本の道徳教育 (道徳の時間における道徳教育) | 13 「道徳の授業」の方法論 (4) 「構成的グループエンカウンター」 |
| 6 道徳教育思想史 (1) 古代ギリシャ | 14 「道徳の授業」の方法論 (5) 「モラルスキルトレーニング」 |
| 7 道徳教育思想史 (2) 近世ヨーロッパ | 15 道徳教育論の新たな展開 |
| 8 道徳教育思想史 (3) 現代アメリカ | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

- (教科書) 土戸敏彦編集 『<道徳>は教えられるのか?』 教育開発研究 2003年
(参考書) 佐野安仁、吉田謙二編 『コールバーグ理論の基底』 第2版 世界思想社 1996年
佐野安仁監修、加賀裕郎、隈元泰弘編集 『現代教育学のフロンティア』 世界思想社 2003年

授業・準備学習のアドバイス

「善さ」と「善さの発達」という根本問題について歴史的・世界的視野から理解するという姿勢をもって講義にのぞんでほしい。さらに、「善さの発達を実現する教育」の具体的な方法に関して理論と実践との両面から総合的に学んでほしい。(尚、レポートの代わりに確認テストを行う可能性もある。)

授業科目名	特別研究Ⅰ	担当者名	金山 健一、隈元 泰弘、笹川 洋子 戸江 茂博、畑野 裕子、廣岡 義之
-------	-------	------	--

授業の目的

全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標

- 1 各自の研究を修士論文として完成させるために、関連資料やデータを収集すること。
- 2 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

授業計画・方法

- | | | | |
|------|---|----|---|
| 1 | オリエンテーション | | |
| 2 | 研究開始の段階
大学院担当教員と全院生の参加により、「研究計画発表会」を実施し、修士論文の研究課題と研究方法を議論する。 | | 教員を中心に、選定した研究課題と研究方法の適切性について再点検する。具体的には、修士論文に関連する資料やデータを収集し、記述方法やデータ整理の方法を吟味する。
なお、この段階では、「研究成果報告会」を全員で実施する。 |
| 3-14 | 研究促進の段階
教育学分野と教育心理学分野、教科教育学・総合学習分野の3つのグループに分かれて、それぞれの研究指導 | 15 | 授業のまとめ |

評価方法

授業への取り組み：70% レポート：30%

教科書・参考書

- (教科書) なし
(参考書) なし

授業科目名	特別研究Ⅱ	担当者名	金山 健一、隈元 泰弘、笹川 洋子 戸江 茂博、畑野 裕子、廣岡 義之
-------	-------	------	--

授業の目的

全院生と研究指導教員による研究発表会を行い、研究の交流を図ることにより、院生各自の研究を深めること。

到達目標

- 1 各自の研究を修士論文として完成させること。
- 2 幅広い研究領域の発表内容についての集団討議を通して、教育にかかる専門性の高い資質や本質追求的な態度を身につけること。

授業計画・方法

- | | | | |
|------|---|----|--|
| 1 | オリエンテーション | | |
| 2-14 | 研究完成の段階
大学院担当教員と全院生の参加により、研究の目的・方法・結果・考察等についてまとめられた修士論文に | 15 | ついて「修士論文発表会」(最終審査会)を実施し、研究成果を吟味する。
授業のまとめ |

評価方法

授業への取り組み：70% レポート：30%

教科書・参考書

- (教科書) なし
(参考書) なし

授業科目名	日本語学特論	担当者名	近藤 要司
-------	--------	------	-------

授業の目的

「とりたて助詞」を解説する。
「とりたて助詞」という名称は「文のある要素をきわだたせ、同類の要素との関係を背景にして、特別な意味を加える」働きをする助詞である。
しかし、その文法的な特徴はは助詞ごとにまちまちで、相互関係がつかみにくい。本講義では、「ダケ、シカ、バカリ、コソ、モ、デモ、サエ、マデ、ナンカ、ハ」について、その「とりたて助詞」としての働きをわかりやすく説明する一方で、各助詞の相互関係についても考察する。

到達目標

日本語の文法の全体像を理解すること。
日本語の助詞のさまざまな特質について理解すること。
とりたて助詞それぞれの意味用法の特徴とともにその相互関係についても理解する。

授業計画・方法

1	日本語文法の基本 1	文法の特徴	9	とりたて助詞	モ 1
2	日本語文法の基本 2	品詞の概観 体言と用言	10	とりたて助詞	モ 2
3	日本語文法の基本 3	品詞の概観 副用語	11	とりたて助詞	デモ
4	日本語文法の基本 4	助詞・助動詞	12	とりたて助詞	サエ、マデ
5	とりたて助詞概観 1		13	とりたて助詞	ナンカ
6	とりたて助詞概観 2		14	助詞ハについて	
7	限定のとりたて 1	ダケとシカ	15	とりたて助詞のまとめ	
8	限定のとりたて 2	バカリとコソ			

評価方法

授業への取り組み：40% レポート：60%

教科書・参考書

- (教科書) 使用しない。毎回、資料を配付する。
(参考書) 小柳智一 「〈シンポジウム特集 とりたて研究の可能性〉副助詞研究の可能性」 日本語文法学会編 『日本語文法』 8巻 2号 2008年 9月
坂梨隆三 「助詞の分類」 「膠着語とは何か」 鈴木一彦・林巨樹 『研究資料日本文法 第5巻 助辞編 (一) 助詞』 明治書院 1984年 3月25日
沼田善子 「とりたて」 新田義雄・益岡隆史編 『〈日本語の文法 2〉時・否定と取り立て』 岩波書店
沼田善子 (2009) 『現代日本語とりたて詞の研究』 ひつじ書房
山田孝雄 (1908) 『日本文法論』 宝文館
益岡隆志・田窪行則 (1992) 『基礎日本語文法』 ひつじ書房

授業・準備学習のアドバイス

『日本語文法大辞典』(明治書院)、『日本語文型辞典』(くろしお出版)などを調べて、授業で扱う助詞の意味用法について、予習しておいてください。特に留学生は十分に予習をしておいてください。
授業中には、文芸文あるいは『現代日本語書き言葉均衡コーパス』などのコーパスを配布して、副助詞の実際の用例を採集調査しますが、授業時間中に調査しきれなかった分については、次週までに調べてレポートするようにしてください。
総合文化学科の春学期開講科目「日本語文法(現代)」を受講しておくことをすすめます。

授業科目名	日本語教育演習Ⅰ	担当者名	笹川 洋子
-------	----------	------	-------

授業の目的

日本語教育の研究分野について最近の動向を知り、主要な研究論文を講読する。さらに、学生の興味関心のある分野の基本文献を読み、修士論文に必要な先行研究をおさえる。

到達目標

日本語教育の分野における理論的背景の概要をつかみ、さらに学生の修士論文に必要な基礎文献を講読することで、修士論文執筆に必要な研究背景を知る。
 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。
 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

授業計画・方法

(授業方法) 教師が研究論文を紹介するが、基本的に学生が研究論文を分担し、まとめ、発表するという演習形式で行う。また、随時、修士論文執筆計画について討議したい。

(授業計画)

- | | | | |
|---|------------------------------|----|-----------------------------|
| 1 | 研究倫理規程の確認。研究倫理の必要性について話し合う。 | 8 | 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。 |
| | 日本語教育研究における最近の研究動向、主要論文の紹介Ⅰ。 | 9 | 修士論文執筆計画中間発表。討議。 |
| 2 | 日本語教育研究における最近の研究動向、主要論文の紹介Ⅱ。 | 10 | 修士論文に必要な先行研究の紹介。 |
| 3 | 日本語教育研究における最近の研究動向、主要論文の紹介Ⅲ。 | 11 | 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。 |
| 4 | 各自の修士論文題目、執筆計画について発表。討議。 | 12 | 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。 |
| 5 | 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。 | 13 | 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。 |
| 6 | 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。 | 14 | 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。 |
| 7 | 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。 | 15 | 修士論文執筆計画の発表。討議 |

評価方法

授業への取り組み：50% 発表：50%

教科書・参考書

- (教科書) 随時紹介する
 (参考書) 随時必要な参考文献を指示する。

授業・準備学習のアドバイス

修士論文に必要な先行研究を調べ上げ、まとめていくという作業が多くなります。教師も論文を紹介しますが、基本的に個人個人が自分の論文執筆のための先行研究を検索するという積極的な態度が求められます。

授 業 科 目 名	日本語教育演習Ⅱ	担 当 者 名	笹川 洋子
-----------	----------	---------	-------

授業の目的

先学期に引き続き、修士論文に関わる日本語教育の研究分野について最近の動向をおさえ、主要な研究論文を講読する。今学期は、研究題目をさらに絞り込み、必要な研究文献を読み込み、修士論文の理論構成をしていく。また、修士論文のための調査方法について、調査対象、調査内容などを具体化していく。

到達目標

修士論文に関わる日本語教育の分野の理論的背景、先行研究の知見を積み上げ、さらに学生の修士論文計画をつめていくことで、修士論文の理論的構成、調査案の具体化を目標とする。

授業計画・方法

(授業方法) 教師が研究論文を紹介するが、基本的に学生が研究論文を分担し、まとめ、発表するという演習形式で行う。今学期は、特に、修士論文執筆における理論的構成、調査案の具体化を討議の中心としたい。

(授業計画)

- 1 各自の修士論文題目、執筆計画について発表。理論的構成、調査案について討議。
- 2 各自の修士論文題目、執筆計画について発表。理論的構成、調査案について討議。
- 3 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。
- 4 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。
- 5 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。
- 6 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。
- 7 各自の修士論文題目、執筆計画について発表。理論的構成、調査案について討議。
- 8 各自の修士論文題目、執筆計画について発表。理論的構成、調査案について討議。
- 9 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。
- 10 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。
- 11 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。
- 12 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、概要を発表する。
- 13 各自の修士論文題目、執筆計画について発表。理論的構成、調査案について討議。
- 14 各自の修士論文題目、執筆計画について発表。理論的構成、調査案について討議。
- 15 各自の修士論文題目、執筆計画について発表。理論的構成、調査案について討議。

評価方法

授業への取り組み：50% 発表：50%

教科書・参考書

(教科書) 随時紹介する

(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

修士論文に必要な先行研究を調べ上げ、まとめていくという作業が多くなります。教師も論文を紹介しますが、基本的に個人個人が自分の論文執筆のための先行研究を検索するという積極的な態度が求められます。また、調査案を具体化するために、調査内容を詰めて行く作業、予備調査の実施が必要となります。

授業科目名	日本語教育演習Ⅲ	担当者名	笹川 洋子
-------	----------	------	-------

授業の目的

今学期は修士論文の先行研究をまとめ、理論的に構成し、論文執筆にとりかかる。併せて、効果的な調査を行うために、予備調査を行い、調査内容を検討した上で、本調査を行い。調査結果をまとめていく。

到達目標

先行研究の知見をまとめ、自分の考察を深め、修士論文の執筆を進める。また、修士論文作成に必要な予備調査、本調査を行い、その調査結果をまとめて、修士論文にかかしていく。

授業計画・方法

(授業方法) 今学期は、具体的に修士論文執筆に入り、その原稿における理論的構成などを討議していきたい。なお、修士論文作成のための調査を実施するが、予備調査を行い、改善点を本調査にかかすという手順を踏まえて調査を進めたい。

(授業計画)

- 1 各自の修士論文題目、執筆計画について発表。理論的構成、調査案について討議。
- 2 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、修士論文を作成する。理論的構成などについて討議。
- 3 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、修士論文を作成する。理論的構成などについて討議。
- 4 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、修士論文を作成する。理論的構成などについて討議。
- 5 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、修士論文を作成する。理論的構成などについて討議。
- 6 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、修士論文を作成する。理論的構成などについて討議。
- 7 予備調査案の検討。
- 8 予備調査経過発表。改善点討議。
- 9 本調査案発表。討議。
- 10 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、修士論文を作成する。理論的構成などについて討議。
- 11 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、修士論文を作成する。理論的構成などについて討議。
- 12 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、修士論文を作成する。理論的構成などについて討議。
- 13 修士論文執筆に必要な先行研究をまとめ、修士論文を作成する。理論的構成などについて討議。
- 14 本調査結果発表。データ分析について討議。
- 15 調査結果のデータ分析発表。討議。

評価方法

授業への取り組み：50% 論文：50%

教科書・参考書

(教科書) 随時紹介する
(参考書) 随時必要な参考文献を紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

修士論文を実際に執筆し、また調査を行うという、実務的な作業が中心になります。論文執筆のいちばん重要な時期です。

授業科目名	日本語教育演習Ⅳ	担当者名	笹川 洋子
-------	----------	------	-------

授業の目的

修士論文執筆の最終段階である。論文執筆と併せ、調査データをまとめ、分析し、考察を進める。論文の完成段階では、論文全体の理論的構成などを再考し、推敲を加える作業が中心となる。

到達目標

調査データを整理し、考察に組み込む。論文の独自性、論理的構成などを視野に入れ、推敲を加えて、完成度の高い論文をしあげる。

授業計画・方法

(授業方法) 今学期は、修士論文を完成する最終段階に入る。調査データを分析し、考察を深め、論文全体に推敲を加え、完成度の高い修士論文を作成する。

(授業計画)

- | | |
|------------------|------------------------------|
| 1 調査データのまとめ。討議。 | 9 調査データの考察。討議。 |
| 2 調査データのまとめ。討議。 | 10 修士論文執筆を進める。理論的構成などについて討議。 |
| 3 調査データのまとめ。討議。 | 11 修士論文執筆を進める。理論的構成などについて討議。 |
| 4 調査データを分析する。討議。 | 12 修士論文執筆を進める。理論的構成などについて討議。 |
| 5 調査データを分析する。討議。 | 13 修士論文執筆を進める。理論的構成などについて討議。 |
| 6 調査データを分析する。討議。 | 14 修士論文執筆を進める。理論的構成などについて討議。 |
| 7 調査データの考察。討議。 | 15 修士論文の最終チェックを行う。 |
| 8 調査データの考察。討議。 | |

評価方法

授業への取り組み：50% 論文：50%

教科書・参考書

(教科書) 随時紹介する
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

調査データをまとめ、分析し、考察を加えていきます。修士論文の完成をめざし執筆を続けますが、理論的構成など、何回も推敲を加えていくことで、より完成度の高い修士論文を書き上げることができます。

授業科目名	日本語教育特論	担当者名	笹川 洋子
-------	---------	------	-------

授業の目的

日本語教育を中心に外国語教育研究の分野の主要な研究、研究手法を紹介し、大まかな研究動向、研究の課題を考える。次に、外国語教授法研究、応用言語学分野の研究に関わる論文を紹介する。また、日本語能力評価法、教授法、教材について分析し、日本事情紹介を取り入れた日本語教育の可能性を探る。最後に、日本語教育をテーマとした研究方法についても触れる。

到達目標

学問研究としての日本語教育研究の可能性を知り、理論的な視点から、外国語教育を分析する視点、研究方法を身につける。また、日本語教育ではどういうことを目標にし、それがどのように実践されるか、どのような事項が日本語教育の分野の問題となっているか、できるだけ具体的なレベルで考えたい。特に、近年注目されている学習ストラテジー研究とあわせ、日本語教育研究の新しい動向に対応する力をつけたい。

授業計画・方法

- | | | | |
|---|---|----|---|
| 1 | オリエンテーション：講義の内容を確認し、学問研究としての日本語教育研究の可能性とその概要を紹介する。外国語教授法理論の変遷（1）：Richards, Jack C.&Theodore S.Rogers (1986) "Approaches and methods in language teaching: a description and analysis" の概要を紹介する。 | 7 | 協同言語教授法、内容重視の教授法、タスク重視の教授法、ポスト教授法時代 |
| 2 | コミュニカティブ・アプローチと変遷と動向 | 8 | 第二言語習得研究の動向 |
| 3 | 言語教育の歴史、アプローチとメソッド | 9 | 学習者ストラテジーとオートノミー |
| 4 | オーディオリンガル・メソッド | 10 | 日本語能力の評価（日本語スタンダード） |
| 5 | サジェストペディア・TPR、サイレントウェイ、CLLなど | 11 | 初級日本語教授法と教材分析 |
| 6 | 多重知能、レクシカル・アプローチ、NLP、ナチュラル・アプローチなど | 12 | 中上級日本語教育と教材分析 |
| | | 13 | 日本事情教育とプロジェクトワーク |
| | | 14 | カリキュラム作成とコースデザイン |
| | | 15 | 日本語教育分野の教授法—質的研究法（参与観察、アクション・リサーチ、会話分析、ナラティブ分析など） |

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

(教科書) Richards, Jack C.&Theodore S.Rogers (1986) "Approaches and methods in language teaching: a description and analysis"
(参考書) 『日本語教育事典』。参考文献を随時紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

日本語教育と、日本語教育に影響を与える隣接分野の研究について考え、また日本語教育における日本事情教育の可能性を探りたいと思います。まず、日本語教育の基本的な概念を学び、日本語教育の背景にある第二言語習得研究を学びます。教材分析や研究方法を紹介することで、日本語教育分野に理論的にアプローチできる能力を身につけたいと思います。そして、活発に討議を行える授業、日本語教育の新しい動向を視野においた授業をめざします。

授業科目名	発達心理学特論	担当者名	小山 正
-------	---------	------	------

授業の目的

本特論では、言語獲得期の発達に焦点をあて、発達心理学的立場から、定型発達や障がいのある子どもの言語獲得過程とその支援について理解できるようになることを目的とする。

- 1 ことばの遅れや環境などこの時期の発達の様相について理解できるようになることを目的とする。
- 2 また、知的発達症や、自閉スペクトラム症の子どもの言語・コミュニケーションの発達支援に関して理解できるようになることを目的とする。
- 3 そして、子どもの発達、人間発達について、発達心理学的立場から考察することを目的とする。

到達目標

- 1 定型発達の子どもの言語獲得期の発達について説明できる。
- 2 自閉スペクトラム症等、障がいのある子どもの乳幼児期の発達について説明できる。
- 3 象徴機能の発達とその障がいについて説明できる。
- 4 言語発達支援における発達論的アプローチについて行うことができる。
- 5 子どもの発達過程を解釈できる。
- 6 発達支援の視点・方法を考えるうえでの基本的事柄を述べることができる。
- 7 発達心理学的立場から人間発達について解釈することができる。

授業計画・方法

- | | |
|---------------------|------------------------------|
| 1 発達とは | 9 他者認識の発達と心の理論 |
| 2 前言語期における認知発達 | 10 学校教育と子どもの発達、言語と思考の問題 |
| 3 共同注意の発達 | 11 発達における多様性と個人差 |
| 4 言語学習の認知的基盤 | 12 障がいのある子どもの言語発達支援をめぐって |
| 5 言語獲得期の発達 | 13 親になること-現代の親の養育態度と子どもの発達 |
| 6 ボキャブラリー・スパートと認知発達 | 14 発達の理論 |
| 7 象徴遊びの発達の意義 | 15 全体の総括と振り返り：人間発達と言語について考える |
| 8 遊びと言語発達 | |

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

(教科書) 小山正 著 『言語発達』 ナカニシヤ出版
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

- 1 テキストの該当章を事前によく読んでおいてください。
- 2 「授業への取り組み」とは授業態度やディスカッションに対する意欲的な取り組みのことである。「レポート」とは授業内レポートである。

授 業 科 目 名	メディア教育特論	担 当 者 名	森山 潤
-----------	----------	---------	------

授業の目的

ICTなどのメディアと教育との関わりについて、教育情報化の動向、学習者の認知、データの活用、テクノロジー利用、情報社会のあり方などの観点から考究し、今後の教育実践の方向性について学習する。

到達目標

- 次に示す4つの柱についての考え方、知識、スキルを修得し、それらを実践に活かそうとする態度を身に付ける。
- 1 基礎理論：問題解決や相互作用による協調など、人間の認知過程を学習環境の在り方と関連づけながら理解する
 - 2 教育メディア活用の実際：コンピュータやインターネット、タブレット端末などのICTを活用した教育実践の在り方について理解する。また、関連するICT活用スキルやデータ分析スキルを習得する。
 - 3 新しい情報教育の方向性：情報活用能力の概念及び情報教育に関わる教育実践の在り方について理解する。また、関連する教材等を活用するスキルを習得する。
 - 4 教育情報化の課題と展望：上記で学んだことを踏まえ、今後の学校における教育情報化の課題と展望について考察する。

授業計画・方法

(授業方法) 演習においてコンピュータを活用する。また、討論や発表などを取り入れる。

(授業計画)

- | | |
|------------------|-------------------|
| 1 情報とメディアの概念 | 9 プログラミング教育 |
| 2 ICTに関わる基礎的な知識 | 10 情報モラル・セキュリティ教育 |
| 3 ICTに関わる基本的なスキル | 11 教育データの分析と活用 |
| 4 情報の数理的な処理 | 12 エビデンスに基づく教育改善 |
| 5 教育情報化の動向 | 13 実践事例検討①小学校 |
| 6 学習環境と教育メディア | 14 実践事例検討②中学校、高校 |
| 7 学習指導におけるICT活用 | 15 課題プレゼンテーション |
| 8 新しい情報活用能力の考え方 | |

評価方法

授業への取り組み：40% 課題プレゼンテーション：30% 授業中に出題される課題の提出：30%

教科書・参考書

(教科書) 教材は学習支援システムによって配信する。
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

学習支援システムによって配信される講義資料を事前にダウンロード、印刷し、内容を予習する。

授 業 科 目 名	幼児教育学特論	担 当 者 名	戸江 茂博
-----------	---------	---------	-------

授業の目的

子供とはいかなる存在か、子供とは何か、子供はどのように観られてきたかなどについて、子供の人間学の視点から探究していきたい。歴史の中で子供はどのように誕生してきたのか、社会の中で子供はどのように生きていく存在なのか、大人との関係において子どもはどのような存在なのかについて問いながら、人間学的に見た子供の特性などを中心として、子供について総合的に考えていきたい。

到達目標

- 1 子供の人間学という視座について理解する
- 2 子供という存在について、様々な視点から学ぶ
- 3 子供観や教育観について知る
- 4 教育的存在としての子供について理解する

授業計画・方法

- | | |
|----------------------------|----------------------------------|
| 1 授業オリエンテーション | 9 社会の中の子供Ⅱ (少子社会の中の子供) |
| 2 歴史の中の子供Ⅰ (近代における子供の発見) | 10 文学の中の子供Ⅰ (日本の小説や文学より) |
| 3 歴史の中の子供Ⅱ (子供の在り方を見直す) | 11 文学の中の子供Ⅱ (海外の小説や文学より) |
| 4 子供観と教育観Ⅰ (古代・中世の子供観と教育観) | 12 子どもが主人公の小説等を読むⅠ (日本文学を中心として) |
| 5 子供観と教育観Ⅱ (近代の教育思想と子供) | 13 子どもが主人公の小説等を読むⅡ (海外の文学を中心として) |
| 6 子供観と教育観Ⅲ (現代の教育思想と子供) | 14 現代の子供問題 |
| 7 子供観をめぐるディスカッション | 15 まとめと確認 |
| 8 社会の中の子供Ⅰ (情報化社会と子供) | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) なし
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

子供という存在について、様々な視点から学んでいきましょう。子供はどこにでもいます。子供という存在を意識してみましょう。視点を変えると、子供はどこにもいないかもしれません。文学の中に描かれた子供の姿に、意外にも子供のリアリティが浮き彫りになっています。児童文学、子供が主人公になっている小説などを読んでみてください。

授 業 科 目 名	幼児教育方法学特論A（基礎）	担 当 者 名	戸 江 茂 博
-----------	----------------	---------	---------

授業の目的

教育方法学は、教育方法の理論的探究と考えられる。幼児教育方法学は、したがって幼児教育（保育）の方法についての理論的な探究といえる。方法はたんにメソッドの意味にとどまらず、実践論の意味合いをもつ。本講義では、幼児教育の方法にかかわる様々の問題や課題について、またとくに遊びと環境と生活について幼児教育の方法論の視点から考えていきたい。

到達目標

- 1 方法論や方法学の視点から幼児教育を理解する。
- 2 幼児教育の様々な方法論（遊びの教育、環境の教育、生活の教育など）について知る。
- 3 幼児教育の方法上、実践上の問題や課題について理解を深める。

授業計画・方法

- | | |
|----------------------------|---------------------------------|
| 1 授業オリエンテーション | 9 環境と幼児教育Ⅰ（環境とは） |
| 2 遊びと幼児教育Ⅰ（遊びとは） | 10 環境と幼児教育Ⅱ（環境内存在としての人間） |
| 3 遊びと幼児教育Ⅱ（遊びの語義） | 11 環境の教育学（環境による教育） |
| 4 遊びと幼児教育Ⅲ（遊び論の歴史） | 12 生活と幼児教育（子供の生と生活とは） |
| 5 遊びと幼児教育Ⅳ（遊びと教育の関係） | 13 生活の教育学（生活による教育） |
| 6 遊びの教育学Ⅰ（遊びによる教育） | 14 ディスカッションⅡ（環境、生活と幼教育の関係をめぐって） |
| 7 遊びの教育学Ⅱ（遊戯的人間の育成） | 15 まとめと確認 |
| 8 ディスカッションⅠ（遊びと教育の関係をめぐって） | |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

- （教科書） なし
（参考書） 幼稚園教育要領解説（文部科学省、2018年）
保育所保育指針解説（厚生労働省、2018年）

授業・準備学習のアドバイス

子供の生活と遊びと環境について考えてみてください。幼稚園教育要領解説や保育所保育指針解説を、生活と遊びと環境をキーワードとして読解しましょう。

授 業 科 目 名	幼児教育方法学特論B （レッジョ・エミリア教育）	担 当 者 名	森 真理
-----------	-----------------------------	---------	------

授業の目的

「教育はすべての人、すべての子どもの権利であり、同様にコミュニティの責任である」を教育の理念として位置づけ、「子どもは100の言葉を持っている」子ども観により、教育実践を展開するイタリアのレッジョ・エミリア市。同市の乳幼児教育について、その歴史・思想・文化・教育実践について理解を深めると同時に、受講生が社会・世界に貢献する一員として、子どもの権利を保障する教育・生活のあり方について発信する力を育む。

到達目標

- ・レッジョ・エミリアの教育思想哲学・実践の理解を深めることのみならず、受講生の子ども観、乳幼児教育保育観、世界観の再考と展望に繋げることを目指す。
- ・子どもが市民として、社会の真ん中にある生活のあり方について、考え発信できる力を身につける。

授業計画・方法

- | | |
|-----------------------|---------------------------|
| 1 オリエンテーション | 9 受講生の個人プロジェクトについて |
| 2 レッジョ・エミリア市の概要 | 10 プロジェクト・アプローチ ① 理念 |
| 3 子ども観：子どもたちの100の言葉 | 11 プロジェクト・アプローチ ② 実践 |
| 4 ローリス・マラグツィの生涯と思想・実践 | 12 ドキュメンテーション |
| 5 乳児保育所 | 13 諸外国におけるレッジョ・アプローチの取り組み |
| 6 幼児学校 | 14 受講生個人プロジェクトのプレゼンテーション |
| 7 アトリエとアトリエスタ | 15 振り返りと今後の展望 |
| 8 REMIDA（レミダ）の働き | |

評価方法

授業への取り組み：60% レポート：40%

教科書・参考書

- （教科書） ・「発達 156号： 特集 なぜ、いま レッジョ・エミリアなのか」（ミネルヴァ書房）2018年、ISBN 978-4-623-08458-6
・「レッジョ・エミリア市自治体の幼児学校と乳児保育所の指針」 Reggio Children, JIREA
・「レッジョ・エミリア市自治体立乳児保育所と幼児学校の事業憲章～大切にしていること～」 Reggio Children, JIREA
・その他、授業にて説明、紹介する。
（参考書） 随時、授業にて説明、紹介する。

授業・準備学習のアドバイス

- ・知りたい、深めたいとの心持ちで授業に参加していただきたい。
- ・幼児教育保育をよりよくする当事者意識を持って、授業に参加されたい。

授業科目名	臨床教育学特論	担当者名	廣岡 義之
-------	---------	------	-------

授業の目的

臨床教育学とは何かを理解し、具体的な教育実践での支援の在り方を探求する。

到達目標

- 1 臨床教育学とは何か、その理論を理解する。
- 2 教育問題や課題を的確に把握してその解決策の端緒を探る。
- 3 本学の研究倫理基準を学び、研究における不正行為の問題性とそれを防止するための対策について理解し、研究を遂行することができる。

授業計画・方法

(授業方法) 講義および質疑応答

(授業計画)

- | | |
|--------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 ホリスティック教育哲学を紐解き討論する (1) 主要特徴 | 7 ボルノーの庇護性と安全な居場所を紐解き討論する (2) 晴れやかさ |
| 2 ホリスティック教育哲学を紐解き討論する (2) 共感と真実性 | 8 リルケの死生論の臨床教育学 |
| 3 ホリスティック教育哲学を紐解き討論する (3) スピリチュアリティ | 9 星野富弘さんの生き方を主題とした道徳教育 |
| 4 マインドフルネス教育学を紐解き討論する (1) 自己変容 | 10 人間教師としての星野富弘 |
| 5 マインドフルネス教育学を紐解き討論する (2) 魂に満ちた教師 | 11 人間の命の平等性の教育教育 |
| 6 ボルノーの庇護性と安全な居場所を紐解き討論する (1) ある不登校児 | 12 道徳の読み物教材における助言者の構図 |
| | 13 フランクル思想の良心論 (1) 仏の銀蔵 |
| | 14 フランクル思想の良心論 (2) 吾一と京造 (路傍の石) |
| | 15 国際理解教育と道徳教育 |

評価方法

授業への取り組み：50% レポート：50%

教科書・参考書

(教科書) 廣岡義之 著 『臨床教育学への招待』 あいり出版
(参考書) なし

授業・準備学習のアドバイス

毎回予習復習を習慣化しましょう。

3

学 生 生 活 等

事務取扱時間一覧

部 局 名	講義期間中		講義期間以外	
	平 日	土曜日	平 日	土曜日
学生サービスセンター事務局 教務担当・学生担当	8：30～17：00	－	9：00～17：00	－
国際・留学センター	9：00～17：00	－	9：00～17：00	－
キャリアセンター	9：00～17：00	－	9：00～17：00	－
附属図書館	8：30～21：00	9：00～17：00	Webページ参照	
学習教育総合センター	8：30～18：00	－	Webページ参照	
ラーニングコモンズ開館時間	8：00～21：00	9：00～17：00	Webページ参照	
ラーニングコモンズ2階窓口受付	9：00～17：50	－	－	

【学生サービスセンター事務局教務担当】

<履修>

4月の所定の期間に履修登録（1年間分）を必ず行うこと。なお、GPA制度導入に伴い、5月および10月に取消期間を設ける。

<授業>

講義は以下の時間割で行われる。

	平 日
1時限	9：00～10：30
2時限	10：40～12：10
3時限	13：00～14：30
4時限	14：40～16：10
5時限	16：20～17：50
6時限	17：55～19：25
7時限	19：30～21：00

注1）時間割、教室の変更等があった場合は、全て掲示を行う。

注2）6・7時限は、教育学専攻のみの開講とする。

<休講>

大学又は各授業科目の担当者のやむを得ない事情で授業を休講とすることがある。休講は、*Shinwa Smile.net* により通知する。

休講の掲示がなく授業開始後30分以上経過しても教員が入室しない場合は、教務担当に連絡すること。

<臨時休講について>

気象情報・交通機関の途絶等の緊急状況の場合は、次のようになる。

1. 気象警報の発表

①警報の種類

特別警報	大雨・高潮・波浪・大雪・暴風・暴風雪のいずれか
警 報	大雪・暴風・暴風雪のいずれか

②適用範囲（いずれかの地域で発表された場合に適用）

適用範囲 警報の種類	兵庫県南部						大阪市
	阪 神	播 磨 南東部	播 磨 南西部	播 磨 北西部	北 播 丹 波	淡路島	
特別警報	○	○	○	○	○	○	○
警 報	○	○	×	×	×	×	×

③授業の取り扱い

時間 警報の種類	前日23時59分まで に解除された場合	午前0時00分現在 発表中の場合	午前0時を過ぎて 午前6時59分まで に解除された場合	午前7時00分現在 発表中の場合	午前7時を過ぎて 午前9時59分まで に解除された場合	午前10時以降も 解除されない場合	午前7時を過ぎてから 発表された場合
特別警報	平常通り授業	第1・2時限は休講		全日休講			発表時の 次の時限 から休講
警報		平常通り授業	第1・2時限は 休講	第3時限より 授業	全日休講		

※当該時間内に特別警報から警報（又は警報から特別警報）になった場合は、特別警報の欄を参照。

2. 交通機関の途絶

交通ストライキが実施された場合は以下の通りとなる。適用交通機関は、以下の通り。

JR西日本（塚本～姫路間）・阪神・阪急・山陽・神戸電鉄のうち1社以上がストライキ等により全面的に運休している場合。

全面運休でない場合及びJR西日本の塚本～姫路間以遠・加古川線・播但線・姫新線・福知山線・神戸市営地下鉄・各社バスのストライキ等については、平常通り授業を行う。

交通ストライキ	午前7時00分現在 実施中の場合	午前7時を過ぎて 午前9時59分までに 解除された場合	午前10時00分現在 実施中の場合
授業	第1・2時限は休講	第3時限より授業	全日休講

※補講期間中の欠席については、通常の講義期間と同様の取扱いとなる。

<試験>

試験に関しては、担当教員の指示に従うこと。

<レポート>

レポートの提出は、Office365 Teams によって行います。（2020年度より、教務担当でのレポートの受け取りは行っていません。）書式（字数等）・提出期限については、各授業科目担当者の指示に従ってください。

<単位>

履修登録をし、試験等に合格すると所定の単位が与えられる。一度、単位を与えられた科目の再履修は認めない。

本学ではGPA制度を導入している。GPAは、履修した全科目の成績の平均を数値で表したもので、不可になった科目も対象になる。従い、各自の履修登録に際しては、より真剣に取り組む必要がある。自らの学習成績を的確に把握し、適切な履修計画を立て、より主体的に学習することを期待している。

履修した科目については、成績通知書に、累積されたGPAが記載される。また、成績証明書にも証明書発行時点での累積GPAが記載されることになる。

判定	素点評価	成績評価	ポイント	成績評価基準	
合格	100～90点	優	4.0	到達目標を達成し、優れた成果をおさめている	
	89～85点		3.5		
	84～80点		3.0		
	79～75点	良	2.5		到達目標をおおむね達成している
	74～70点		2.0		
	69～65点	可	1.5		到達目標をある程度達成している
64～60点	1.0				
不合格	59～0点	不可	0.0	到達目標を達成していない	
合格	-	認定	-	他大学、留学制度等で修得した単位認定及びTOEIC、TOEFL iBT、 実用英語検定による単位認定 ※GPAの対象としない	
	-	合	-	知識および技能に係る学修により単位認定到達目標を達成している ※GPAの対象としない	
不合格	-	否	-	到達目標を達成していない	

計算方法（小数点第3位を四捨五入）

$$\text{GPA} = \frac{\text{（単位数} \times \text{ポイント）の合計}}{\text{（履修登録総単位数）}}$$

（GPAによる学生指導）

第22条 当該年度のGPAが1.0未満の学生については、学修意欲の確認、履修計画の作成等、指導教員による指導を行う。
2 前項による指導を行っても、学修意欲等の改善が認められない者には退学を勧告することがある。

成績発表方法については **Shinwa Smile.net** にて示すので、その指示に従うこと。なお、表示された成績に疑義がある場合は、直ちに（履修確認期間最終日までに）教務担当に問い合わせること。

＜学籍異動＞

休学、復学、退学、再入学等の学籍異動を希望する者は、指導教員に相談の上、定められた期限までに教務担当で所定の手続を行うこと。

＜学費＞

学校法人親和学園学費規程（P.7）を参照のこと。

【学生サービスセンター事務局学生担当】

＜奨学金＞

本学で取り扱っている奨学金は次のとおりである。なお、毎年4月にすべての奨学金の説明会を一齐に行い、出席者のみ申込書を配布する。詳しい日程等については掲示にて知らせる。

（1）神戸親和女子大学大学院授業料免除

出 願 資 格	学業・人物ともに優秀な者
成 績 基 準	成績係数4.0以上
免 除 額	授業料相当額またはその半額
募 集 予 定 人 数	1～2名
他奨学金との併用	併用不可
選 考 方 法	前年の所得証明書による困窮度と成績の総合評価により選考

（2）日本学生支援機構奨学金

	第1種（無利子）	第2種（3%を上限とした有利子）
学力基準	大学等並びに大学院における成績が特に優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができる者と認められる者	• 大学等並びに大学院における成績が優れ、将来、研究能力又は高度の専門性を要する職業等に必要の高度の能力を備えて活動することができる者と認められる者 • 大学院における学修に意欲があり、学業を確実に修了できる見込みがあると認められる者
出願時期	4月の説明会で申込書を配布し、提出期限等を連絡する。	
出願手続	申込書に所得証明書、確定申告書などを添えて提出すること。（詳細は説明会）	
貸与月額	次の金額より選択 50,000円、88,000円	次の金額より選択 50,000円、80,000円、100,000円、130,000円、150,000円

※2年次以降に申請する場合は、前年度修得単位数が標準修得単位数（16単位）を満たしていること。

<保険>

(1) 学生教育研究災害傷害保険

授業や課外活動、学校行事等で怪我（熱中症・食中毒含む）をした場合に学生に保険金が支払われる制度で、入学と同時に全員加入している。事故が発生した場合、直ちに学生担当に連絡し、事故通知を提出すること。（30日以内に提出のない場合は保険金が支払われない場合がある。）

区分 保険金	・正課中 ・学校行事中	・課外活動中	・キャンパス内 ・通学中
死亡	1,200万円	600万円	600万円
後遺障害	障害の程度により 72万円～1,800万円	障害の程度により 36万円～900万円	障害の程度により 36万円～900万円
医療	治療日数により 3千円～30万円 治療日数1日以上対象	治療日数により 3万円～30万円 治療日数14日以上対象	治療日数により 6千円～30万円 治療日数4日以上対象
入院（日額）	4,000円	4,000円	4,000円

(2) 学研災付帯賠償責任保険

大学院生が、医療関連施設等における実習中に、過って人を傷つけたり、物を壊したりした場合の損害賠償責任を救済する保険で、実習をともなう心理臨床学専攻の大学院生を対象に大学で保険に加入している。

事故が発生した場合、直ちに学生担当及びしおり記載の保険会社に事故の内容を連絡すること。

対象となる活動	補償内容
正課、学校行事及びその往復中	対人賠償と対物賠償合わせて 1名1事故1億円まで

<自動車通学>

大学院生の自動車通学については「自動車通学等に関する取扱要領」（P.20参照）に基づき許可制をとっている。身体障害、社会人大学院生等、特にやむを得ない事情のある者で、希望する場合は、学生担当に申し出ること。学生委員会で審議し可否を決定するので、認められない場合もある。

<学生証>

学生証は、証明書自動発行機の本人認証や図書館の利用、また、試験の際などに必要につき紛失しないこと。紛失や盗難があった場合は、直ちに学生担当に届け出るとともに、最寄の警察署等にも届け出ること。また、学生担当で再発行の手続きをすること。（再発行手数料1,500円）

<住所変更等>

住所変更や電話番号の変更など身上異動があった場合は、所定の用紙にて学生担当に届けること。

<学籍番号>

学籍番号は在学中はもちろん、卒業後も変更されることがない。

		春入学	秋入学		春入学	秋入学	
2020年入学生	心理臨床学専攻	J 20501～	J 20601～	2021年入学生	心理臨床学専攻	J 21501～	J 21601～
	教育学専攻	K 20501～	K 20601～		教育学専攻	K 21501～	K 21601～

<学校学生生徒旅客運賃割引証（学割）>

JRで100kmを超えて乗車する場合、普通旅客運賃の割引が受けられる。証明書自動発行機による発行となるが、使用に際しての詳細は学生担当まで。

<施設使用>

学内の施設を使用する場合は、事前に「施設使用願」が必要である。

また、日曜、祝祭日、休業期間中に登校し、学内施設を使用したい場合も「施設使用願」により事前に届けること。

なお、退出時間は午後9時までとなっているので、帰路の途中は十分注意すること。

<遺失物・拾得物・盗難>

学内で物品を紛失、拾得した時は学生担当へ届けること。また、盗難が発生した場合すぐに学生担当へ連絡するとともに、警察にも届けること。

<災害被災>

災害により、被災した場合は可能な限り速やかに安否及び被災の状況を連絡すること。

<喫煙>

大学構内および大学周辺も含め、全て禁煙である。

<保健室>

定期健康診断（必ず毎年受診すること）および、身長、体重、血圧、視力、体脂肪等の測定（随時）などを行っている。また、身体的、心理的相談や専門医による相談も保健室にて受けつけている。

【国際・留学センター】

<留学>

海外の協定大学等への留学・海外研修プログラムへの参加が可能である。詳細は国際・留学センターまで。

【キャリアセンター】

就職支援を行っている。一人ひとりの進路選択に応じた個別相談を随時行い、個人の希望に即した進路の支援を行っている。様々な行事日程は、**Shinwa Smile.net** およびキャリアセンター前掲示板で確認できる。

<キャリアセンター資料室>

求人票や合同セミナーの案内の掲示をはじめ、各種試験の情報、就職活動に必要な資料などを備えている。また、パソコンからインターネットを利用して企業情報を得ることもできる。

○利用可能時間

平日	土曜日
9:00~19:00	9:00~17:00

【学習教育総合センター・情報処理教室】

情報処理教室は、教育・研究において、コンピュータを適正かつ効率的に利用するために設置された全学共同利用施設である。

利用ID、及び電子メールアドレスは、入学時のセンター講習会で配付する。

<情報処理教室>

- ・以下の4教室に166台の学生用パソコンが設置され、本学の学生なら誰でも利用できる。
321教室（50台）、322教室（50台）、3演2教室（16台）、332教室（50台）
- ・授業時間外は、自習可。開室及び利用時間は、学習教育総合センター・ITサポートのWebページを参照のこと。

<無線LANの利用>

- ・教室や図書館、院生研究室などに、学内無線LANのアクセスポイントがあり、持参したパソコンでインターネットを利用することができる。手続きや利用条件等については、学習教育総合センター事務室に問い合わせること。

<利用上の注意>

- ・情報機器にトラブルが起きた時は、すぐにセンター職員に連絡すること。
- ・機器類は水やほこりに弱いため、飲食をしてはならない。
- ・ソフトウェアの複写、ダウンロード等によるインストールは厳禁である。
- ・センターでの印刷は、印刷枚数に制限がある。詳細は学習教育総合センター・ITサポートのWebページを参照のこと。

【附属図書館】

現在の蔵書数は図書・製本雑誌合わせて約25万冊、その他に新聞、カレント雑誌、視聴覚資料、各種データベース等の資料がある。

休館日は、日曜、授業のない祝日・振替休日、大学行事日、夏冬休みの一定期間。

○利用時間（通常授業日）

	平日	土曜日
閲覧	8：30～21：00	9：00～17：00
図書の貸出・返却	8：30～20：30	9：00～16：30
コピー受付	8：30～20：30	9：00～16：30
マルチメディアルーム	8：30～20：30	9：00～16：30
レファレンス・相互利用	8：30～20：00	9：00～16：00

○貸出

貸出冊数 (図書・製本雑誌共)	貸出期限	
	図書	製本雑誌
10冊	4週間	1週間

詳細や変更については、図書館ホームページ (<https://www.kobe-shinwa.ac.jp/facilities/library/>) を参照されたい。

【ラーニングcommons（愛称「TOMO」）】

本学を利用できる誰もが自由に利用できる。一部を授業で使用していても、空いている空間を利用することができ、開館時間内であれば使用制限はない（一部時間帯は機器貸出不可）。

休館日は、夏期・冬期休業中の事務一斉休業期間、その他大学が指定する日。利用可能時間は93ページを参照すること。

ラーニングcommons 2階の使用に際しては、他の利用者の迷惑となる行為、学修を目的としない行為及び蓋付飲料以外の飲食等は慎むこと。

☆大学内のコピーは、生協カード（学生証）で支払です。

授業で配布するための教材の印刷は大学院合同研究室に尋ねてください。

☆院生の皆さんの円滑な研究の一助となるよう研究補助費を用意しています。

具体的な請求方法、申請手続などはオリエンテーション時に説明します。

	内容	申請に必要な書類
1	諸学会への参加費	主催者発行の領収書
2	各種研究会への参加費 但し、指導教員が研究費支出に相応であると認めた場合	領収書 ない場合は研究会案内資料（日時、場所、会費がわかるもの） いずれにしても該当書類に指導教員の捺印要
3	コピー使用料	コピー使用料の証明
4	本学図書館における 相互利用サービス使用	図書館にて発行する証明書
5	アンケート調査に伴う郵送費	郵便局発行の領収書、 宅急便控等々金額のわかるもの
6	心理検査用具の購入費 (検査用紙、画用紙、クレヨン等々)	領収書

☆領収書…レシートは不可です。

キャンパス・ハラスメント等の被害にあったら

I 「神戸親和女子大学キャンパス・ハラスメント等防止に関するガイドライン」について

1. 目的

このガイドラインは、神戸親和女子大学（以下「本学」という。）におけるハラスメント（以下「キャンパス・ハラスメント等」という。）を防止し、修学・就業にふさわしい環境を確保することができるように、適正な対応を図ることを目的としています。

2. 定義

キャンパス・ハラスメント等とは、次の各号のいずれかに該当する行為を指します。

(1) セクシュアル・ハラスメント

相手方の意に反する性的な言動により、相手方に不快感その他の不利益を与え、学習、教育・研究又は就業環境を悪化させることをいう。

(2) アカデミック・ハラスメント

教育・研究の場における地位又は権力を利用して行う不適切な言動、指導又は待遇により、相手方の学習・研究意欲を低下させ、又は学習・研究環境を悪化させることをいう。

(3) パワー・ハラスメント

職務上の地位や人間関係など職場内の優位性を背景に、業務の適正な範囲を超えて、精神的・身体的苦痛を与える又は職場環境を悪化させることをいう。

(4) ジェンダー・ハラスメント

性別による差別意識に基づく言動により、相手方に不快感その他の不利益を与え、教育・研究、学習及び労働環境を悪化させることをいう。

(5) マタニティ・ハラスメント及びパタニティ・ハラスメント

妊娠・出産・育児休業・介護休業などを理由とする解雇・雇止め、降格などの不利益な取り扱い又は嫌がらせのことをいう。

(6) その他のハラスメント

3. ガイドラインの対象について

このガイドラインが適用される対象は、以下の通りです。

(1) 本学の学生、科目等履修生、研究生及び聴講生等（以下「学生」という。）

(2) 本学の教職員及び本学との間に雇用契約並びに取引のある全ての者。

4. 教職員の責務

教職員は、本学においてハラスメントのない大学づくりを推進し、人との関係を大切に、互いの尊厳を認め合い、一人ひとりの人権を尊重しなければなりません。

5. キャンパス・ハラスメント等防止のための取り組み

本学には、キャンパス・ハラスメント等防止の観点から、教職員及び学生の人権意識を高め、人権教育を推進するために、人権教育委員会があります。人権教育委員会は、啓発活動や研修会の実施などに取り組み、人権関係図書・資料の収集に努めます。

6. キャンパス・ハラスメントやその他の人権侵害が起きた場合の相談について

本学では、キャンパス・ハラスメントやその他の人権侵害が起きた場合のためにキャンパス・ハラスメント等相談窓口（以下「相談窓口」という。）を開いています。

(1) 相談にあたっては、当事者のプライバシーの保護が優先されるとともに、当事者の意思が尊重されます。

(2) 相談窓口は、学生サービスセンター、学生相談室、保健室の相談担当者、学生相談員、学科長・専攻主任、ゼミ担当教員です。

(3) 相談は、直接相談窓口を訪ねるほか、電話やEメールでもできます。また、友人に付いてきてもらってもかまいません。その際、被害を伝えるために、できるだけ多くの記録を取っておくと、より正確に伝えることが可能です。

(4) 相談窓口担当者のほかにも、相談しやすい教職員に相談してもかまいません。相談窓口担当者以外の教職員が、被害の訴えや相談を受けた場合は、相談窓口を紹介するとともに、被害を訴えた者の了解の範囲内で、訴えや相談内容について、相談窓口の担当者に報告しなければなりません。

(5) 通訳や介助を希望する場合は、これを保障します。

7. キャンパス・ハラスメントやその他の人権侵害への対応について

キャンパス・ハラスメント等の相談内容に応じて、当事者の意思を尊重しつつ、キャンパス・ハラスメント等相談窓口運営部会は、学長をはじめ、権限を有する学内機関や教職員とともに、問題解決の対応に努めます。

(1) キャンパス・ハラスメント等の被害者は、相談窓口の担当者の支援を受けて、問題解決のための取り組みを要請することができます。

(2) 学長は、必要に応じて問題調査検討委員会を立ち上げることがあります。問題調査検討委員会は、学長の諮問を受け、教職員及び学生にかかわる諸問題について、調査を行い、対応策を検討の上、学長に答申します。

(3) キャンパス・ハラスメント等の被害者は、関係諸機関の支援、協力を受けて、心理的ケアをはじめとした必要な支援を受けることができます。

(4) 学長は、修学・就業の環境整備並びに該当者への教育研修を行う等により、再発防止に努めます。

8. 守秘義務

キャンパス・ハラスメント等に関する相談や情報を知り得た人は、その秘密を厳守し、他に漏らすことはありません。

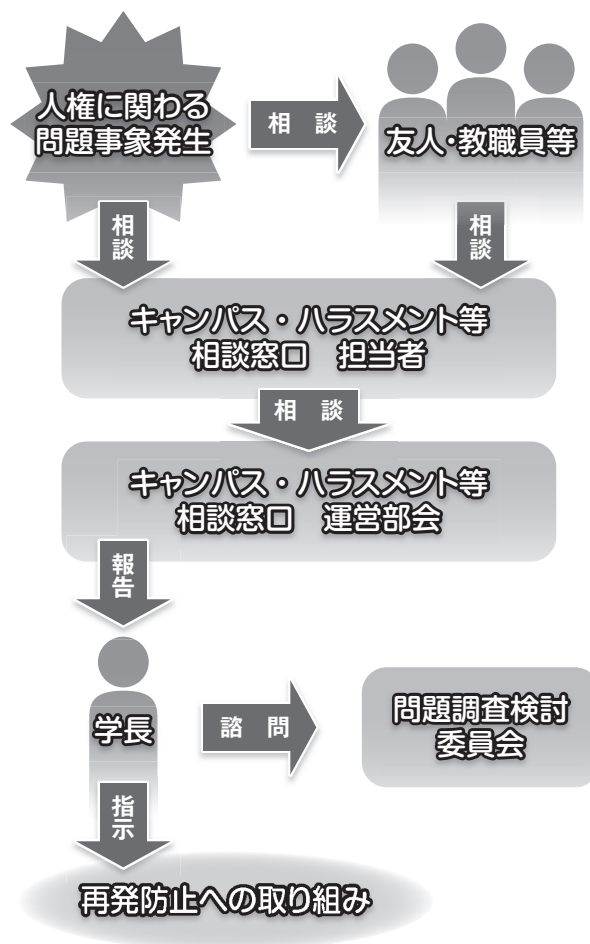
9. 二次被害の防止

被害を訴えたり、証言したことにより、訴えた者や証言者に不利益や二次被害が生じないよう十分に配慮しなければなりません。また、繰り返し調査をすることで、被害者に更なる精神的な苦痛を与えないように、配慮します。

10. 虚偽の申し立て・証言の禁止

キャンパス・ハラスメント等に関する虚偽の申し立てや証言をしてはなりません。また、虚偽の申し立てや証言によって、関係者に不利益が生じたり、あるいは生じる恐れがある場合、学長は速やかにその回復や予防の為の措置を講じます。

キャンパス・ハラスメント等対応フローチャート



上図は、ハラスメント等対応のフロー・チャート図です。
大学全体が組織的に対応することによって、公正・公平性と
秘密厳守による解決を目指します。

相談窓口

自分が相談しやすい方に相談してください。

* 学生相談員、各ゼミ担当教員

学生相談員のメンバーは、ホームページで確認してください。

ゼミ担当教員の場合は他の教員でもかまいません。

* 学生サービスセンター事務局

1号館1階西側にあります。

学生相談員とコンタクトをとる際にも利用できます。

TEL：078-591-3296（学生担当）

* 保健室

1号館1階北玄関西側にあります。

学生相談室の予約ができます。

TEL：078-591-3790（保健室）

* 学生相談室

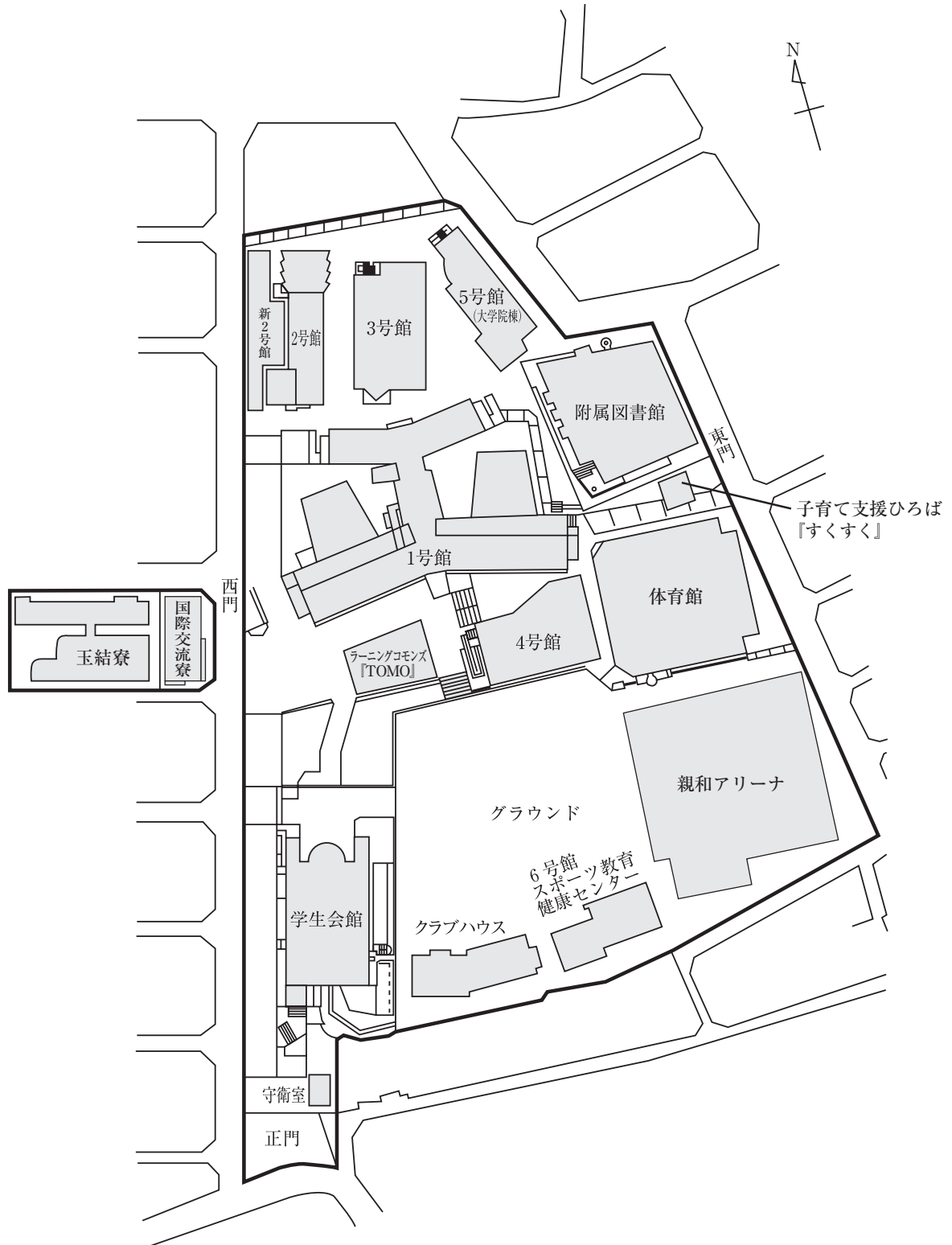
1号館1階北玄関西側にあります。

専門の臨床心理士がカウンセラーとして対応します。

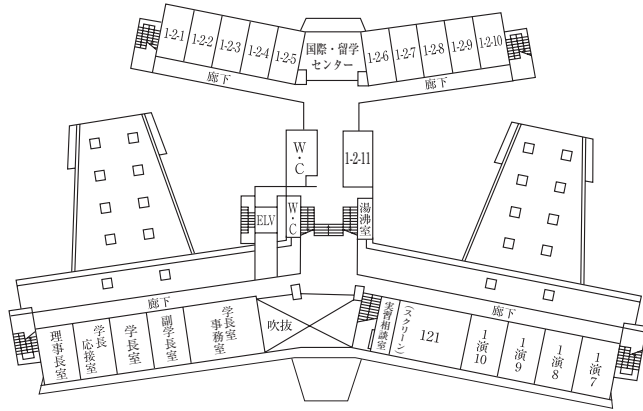
4

建物配置図

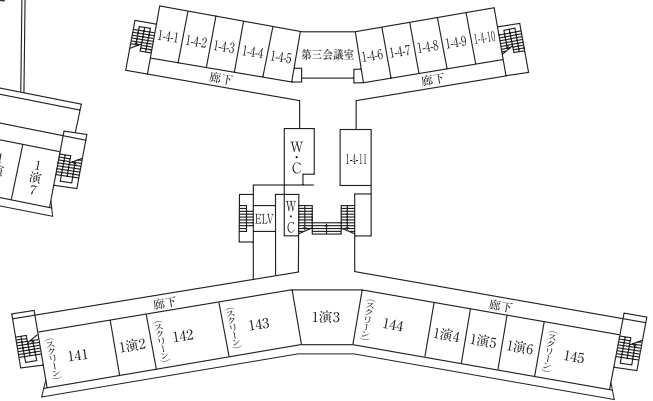
全体配置図



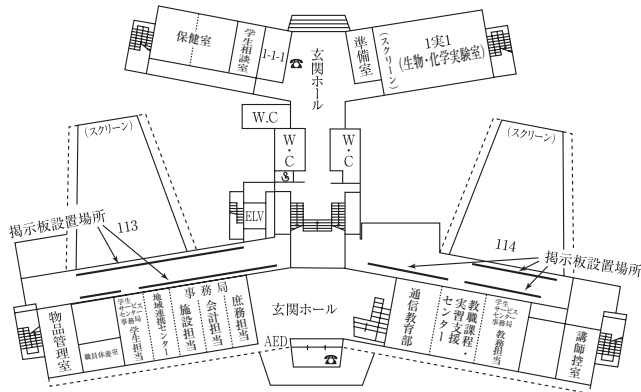
1号館



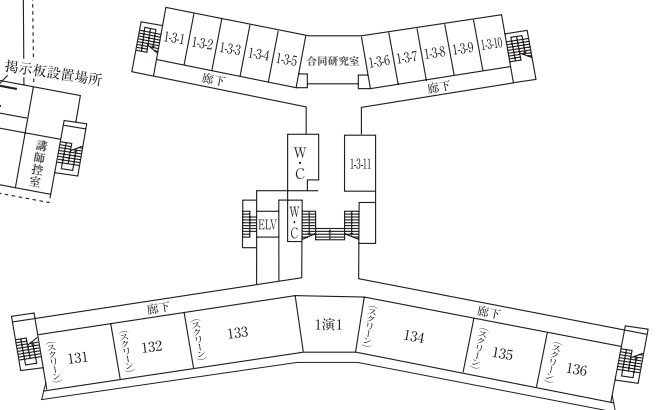
2階



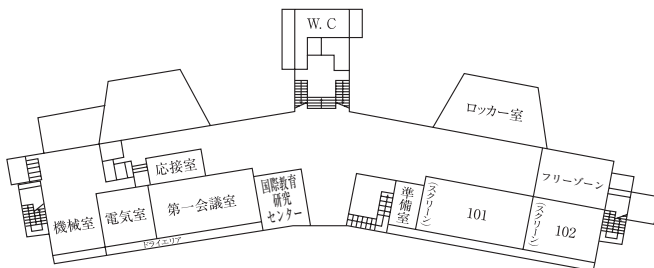
4階



1階

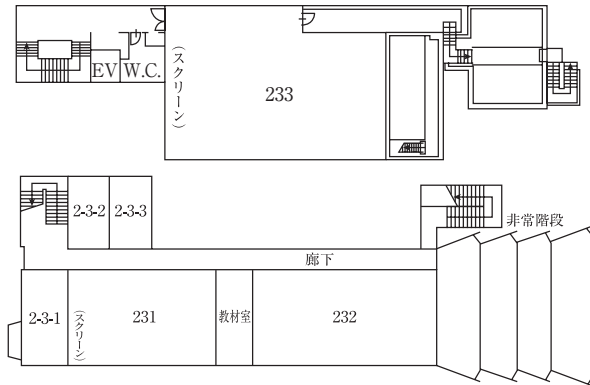


3階

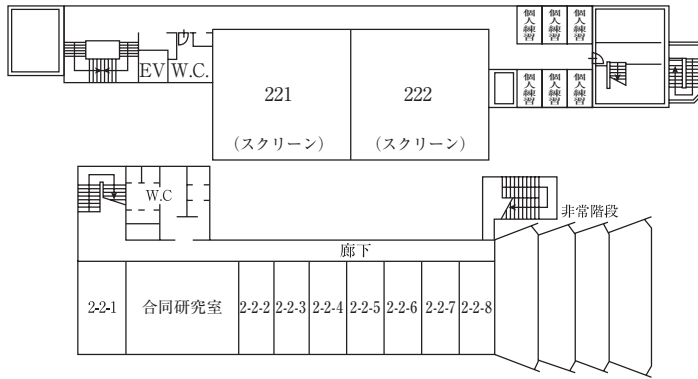


B1階

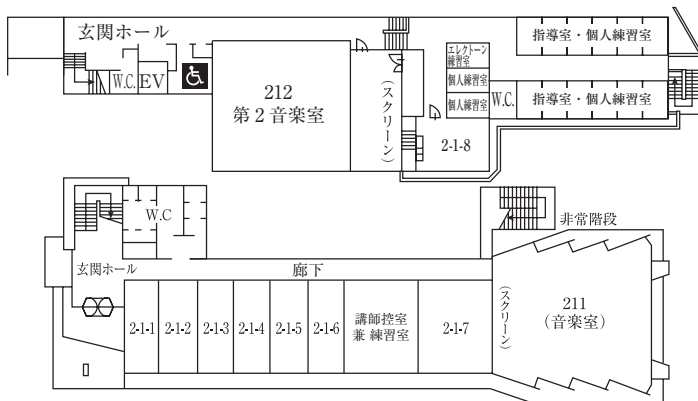
2号館・新2号館



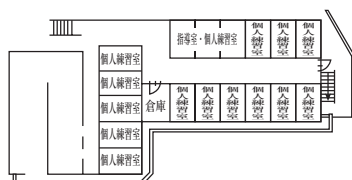
3 階



2 階

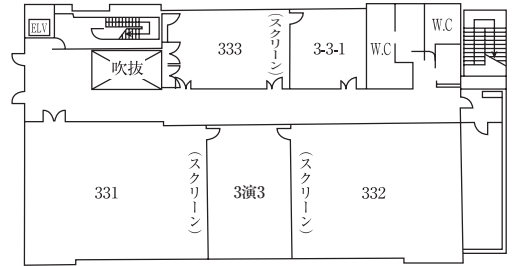


1 階

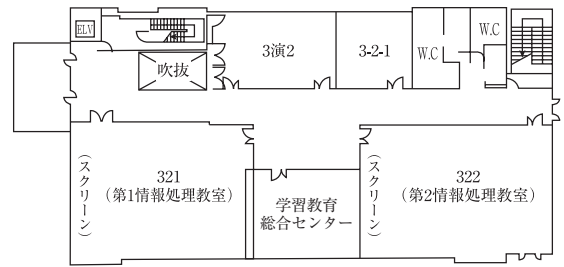


B 1 階

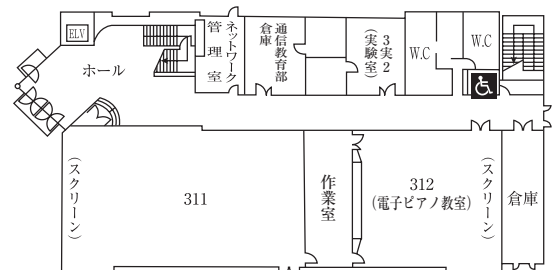
3号館



3 階

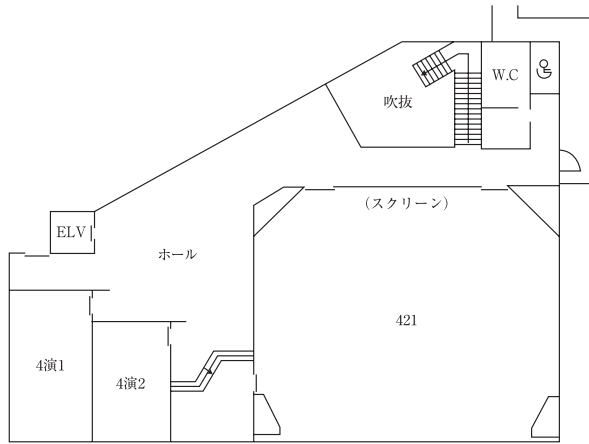


2 階

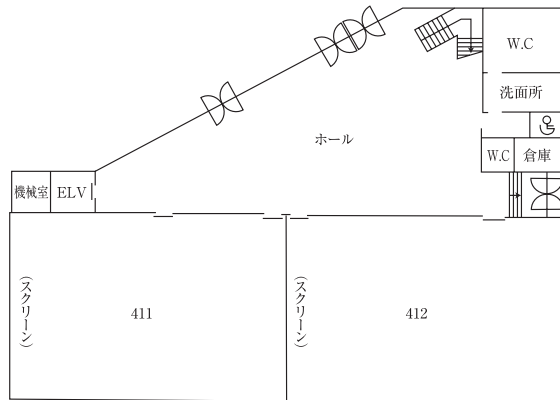


1 階

4号館

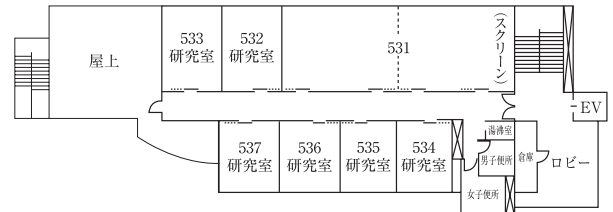


2階

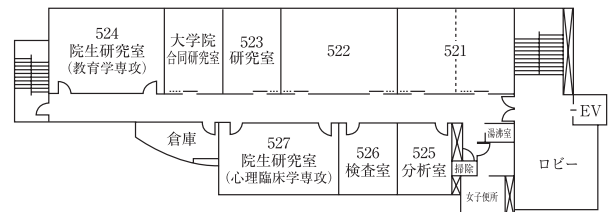


1階

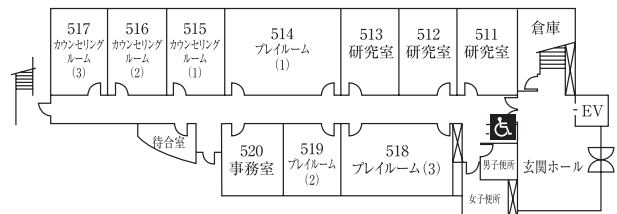
5号館



3階

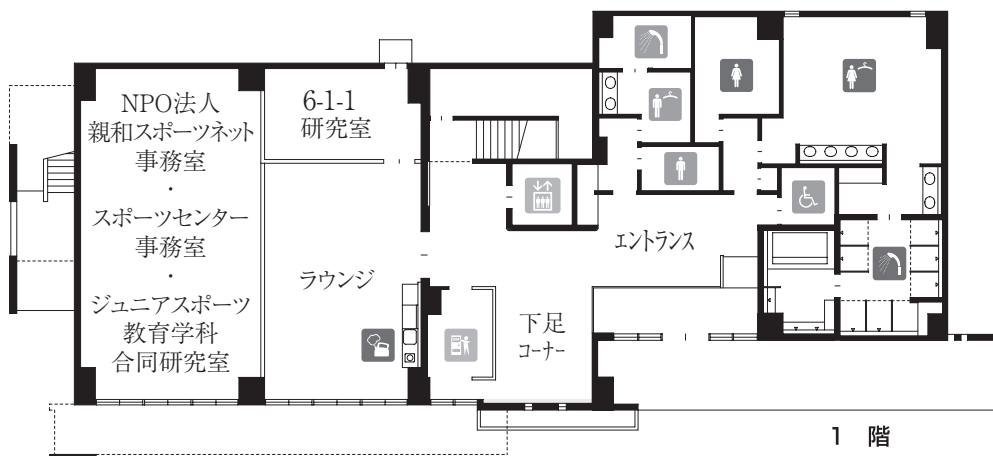
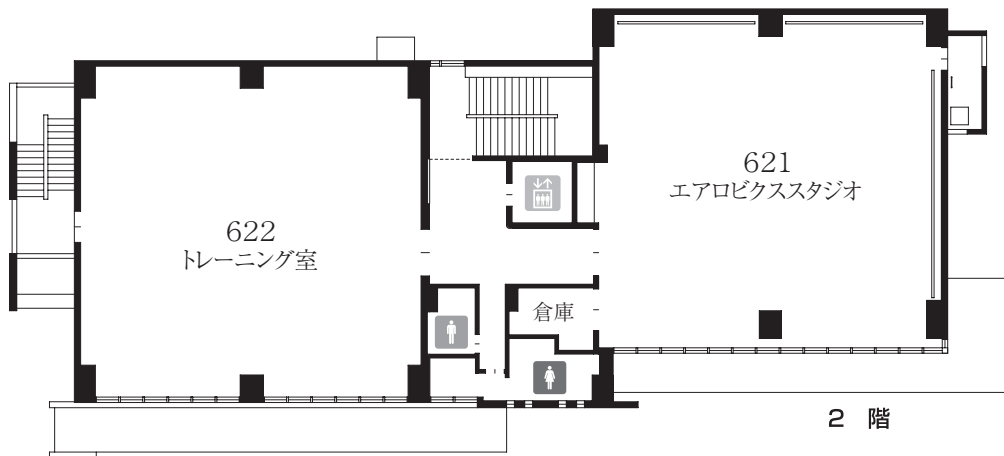
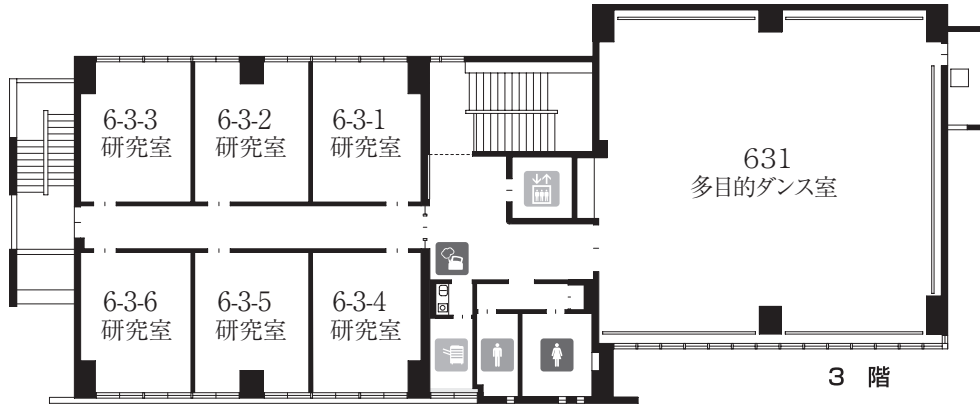


2階

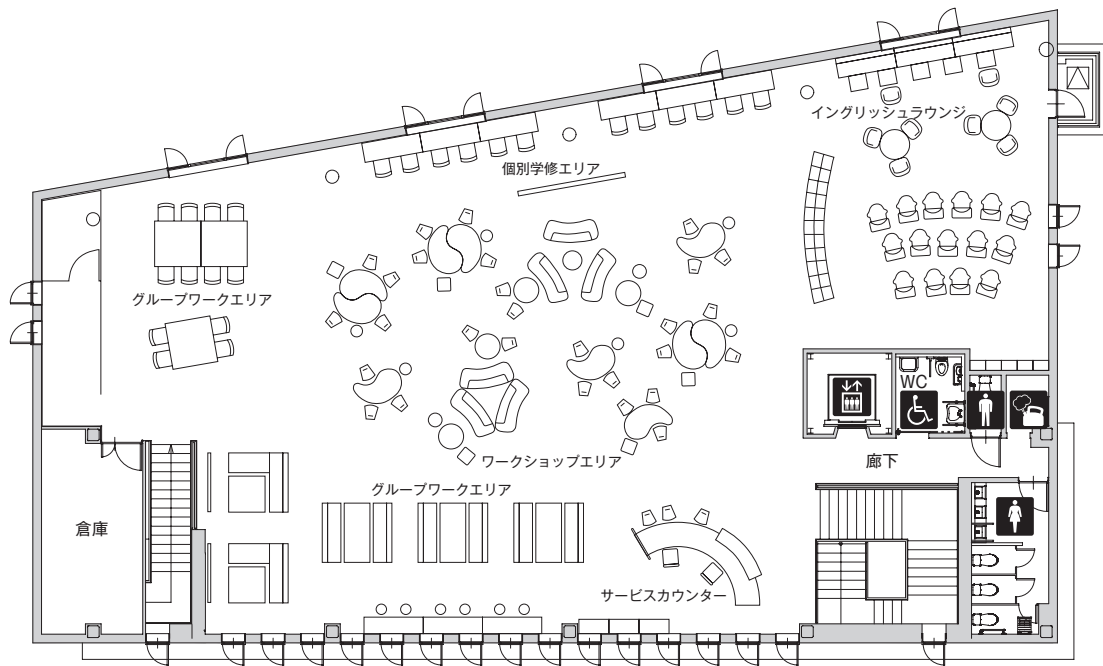


1階

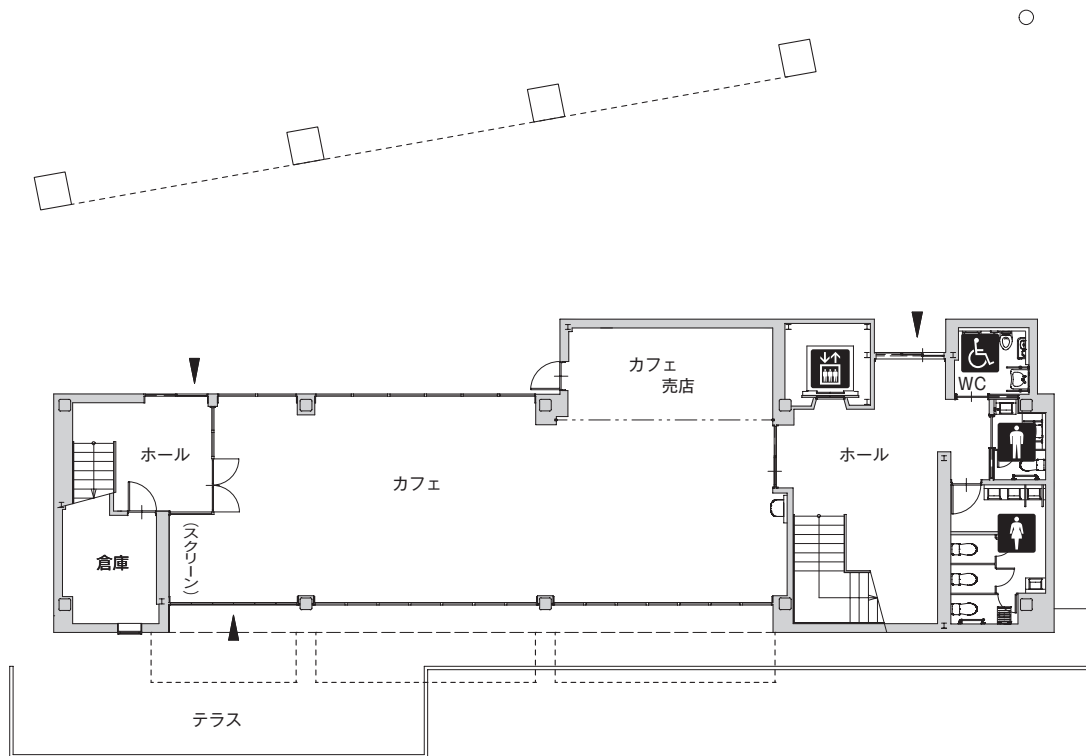
6号館



ラーニングcommons

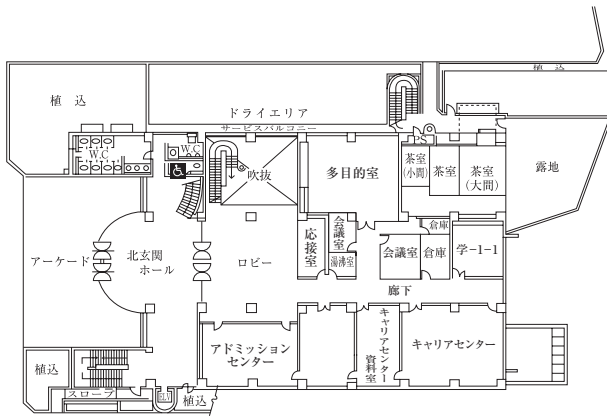


< 2階 >

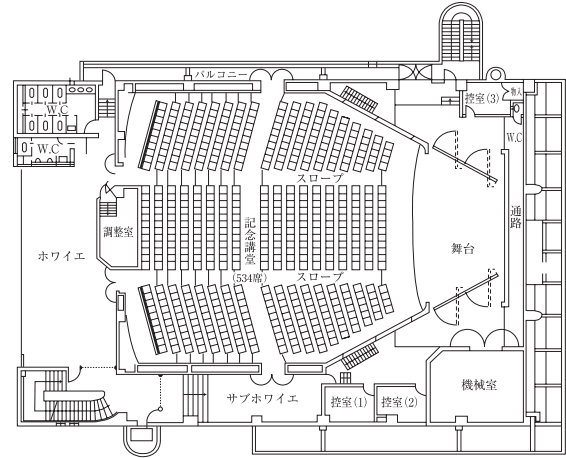


< 1階 >

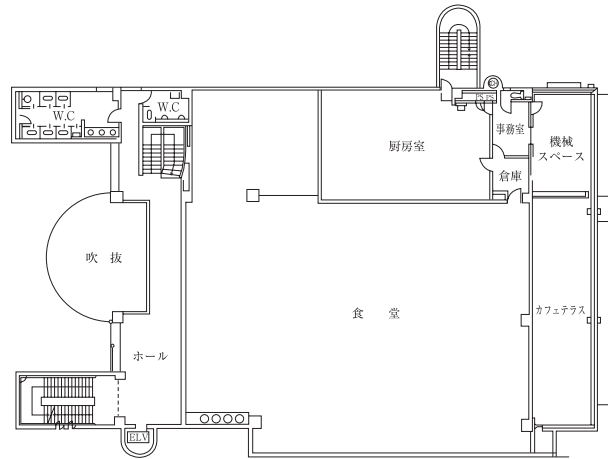
学生会館



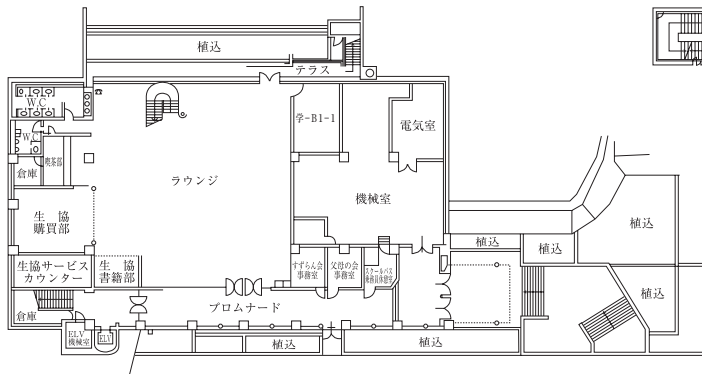
1 階



3 階

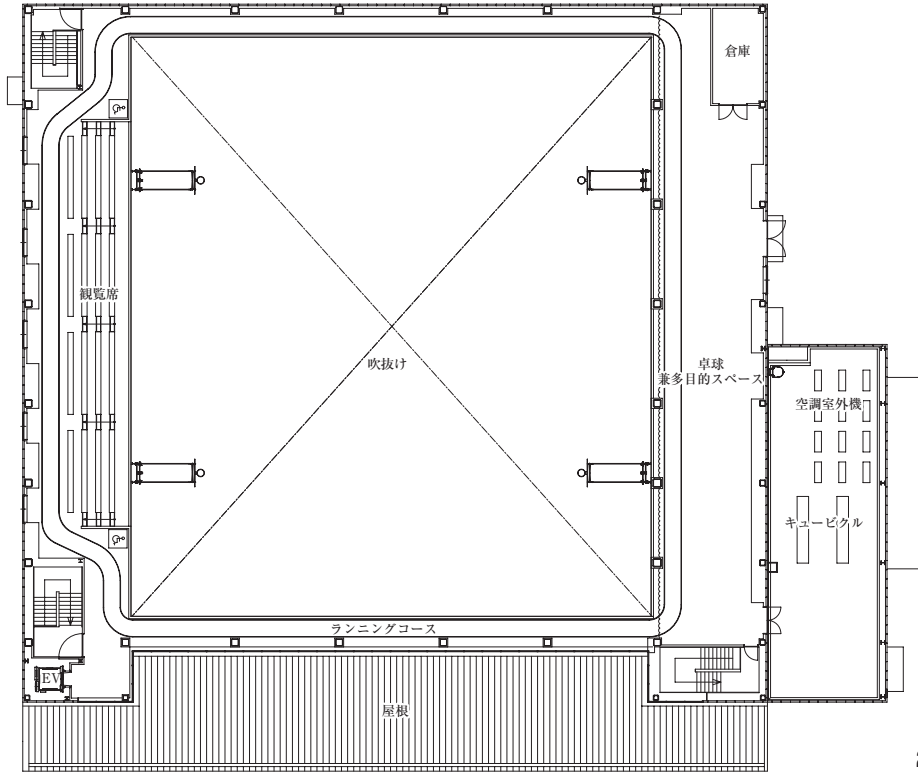


2 階

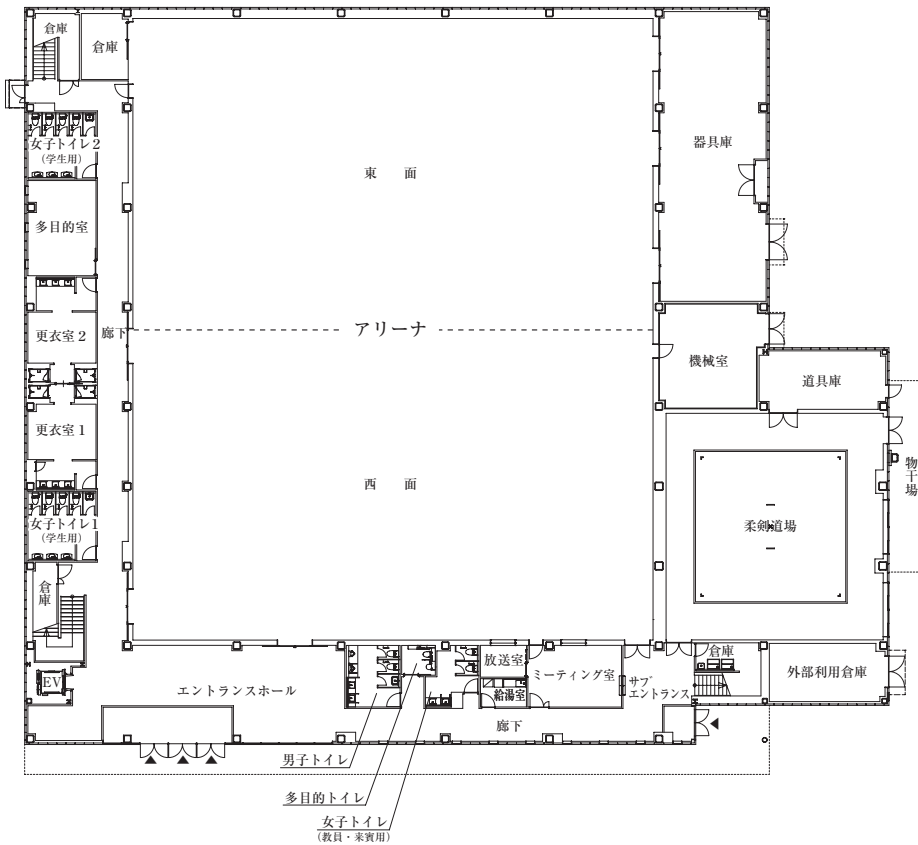


B1 階

親和アリーナ



2階平面図



1階平面図

●研究室一覧

	教員名	研究室	所属	
あ	味岡保雄	1-3-11	国際	
	葦原摩耶子	6-3-3	J S	
	伊東真里	534	心理	
	犬飼朋恵	533	心理	
	猪田裕子	2-2-2	児教	
	植山佐智子	1-4-5	児教	
	白井真	2-1-7	児教	
	宇野光範	1-2-10	児教	
	大島剛	511	心理	
	小川内哲生	1-4-6	児教	
か	梶山卓司	1-3-4	国際	
	金山健一	2-3-1	児教	
	菊池信子	1-4-3	福祉	
	岸上龍平	学-B1-1	国際	
	北野富美子	1-4-1	児教	
	銀屋伸之	1-4-9	児教	
	隈元泰弘	1-2-4	児教	
	高奈奈	2-2-7	児教	
	小坂明	実習相談室	児教	
	小林勇	1-3-1	国際	
	近藤要司	1-3-6	国際	
	権藤真織	2-1-3	児教	
	さ	齋藤隆彦	2-1-4	児教
		酒井純	3-2-1	国際
笹川洋子		1-3-2	国際	
笹倉剛		図-2-1	国際	
佐藤智恵		1-2-2	児教	
杉山真人		6-3-5	J S	
須増啓之		2-2-1	児教	
洲脇一郎		1-4-2	児教	
た		高橋一夫	2-3-2	児教
		高橋昌子	1-3-5	福祉
	高松祥平	6-3-1	J S	
	高見忠之	1-3-7	国際	
	竹内弘明	図-2-2	児教	
	武富博文	1-4-10	児教	
	但尾哲哉	6-3-6	J S	
	田中聡	2-1-5	児教	
	田畑圭介	1-2-3	児教	
	玉地瑞穂	1-2-6	国際	
	辻川典文	535	心理	
	堤康嘉	1-4-11	児教	

	教員名	研究室	所属
た	椿武	6-3-4	J S
	戸江茂博	2-2-4	児教
	戸田典樹	1-3-10	福祉
な	富田哲浩	学-1-1	児教
	中植正剛	3-3-1	児教
	中瀬古哲	6-1-1	J S
	中溝茂雄	1-1-1	児教
	中村捻	1-2-11	J S
は	長谷川重和	2-2-8	児教
	畑野裕子	1-3-3	児教
	馬場裕	1-4-8	児教
	平尾剛	6-3-2	J S
	廣岡義之	532	児教
	福井逸子	1-3-8	児教
	藤田眞弓	1-2-8	国際
	藤原伸夫	2-1-2	福祉
	古川心	512	心理
	古川知子	2-2-5	児教
ま	紅山修	1-2-9	児教
	本間友巳	523	心理
	眞崎克彦	2-2-6	児教
	松本麻友子	536	心理
	松本宗久	1-4-4	児教
	間渕泰尚	1-3-9	児教
	溝口繁美	1-2-1	国際
	三井知代	513	心理
	宮辻和貴	1-2-7	J S
	森成美	2-1-1	児教
や	森眞理	2-2-3	児教
	山口香織	1-2-5	児教
	山田希代子	2-3-3	児教
	山本裕之	2-1-8	児教
	梁貞模	1-4-7	国際
	横田郁子	2-1-6	児教
	吉野俊彦	537	心理

(番号の見方)

左数字→建物番号 (○号館)

中数字→所在階数

右数字→通し番号

神戸親和女子大学直通電話番号（ダイヤルイン）

神戸親和女子大学 代表	078 - 591 - 1651	（庶務担当）
教務担当	078 - 591 - 3606	・ 3607
学生担当	078 - 591 - 3296	・ 3297
国際・留学センター	078 - 591 - 2865	
保健室	078 - 591 - 3790	
国際文化学科合同研究室	078 - 591 - 2891	
心理学科合同研究室	078 - 591 - 1689	
児童教育学科合同研究室	078 - 591 - 3574	
福祉臨床学科合同研究室	078 - 591 - 1694	
ジュニアスポーツ教育学科合同研究室	078 - 591 - 3901	
大学院合同研究室	078 - 591 - 1743	
教職課程・実習支援センター	078 - 591 - 1742	・ 1716
キャリアセンター	078 - 591 - 3744	・ 1834
学習教育総合センター	078 - 591 - 3826	
附属図書館	078 - 591 - 3595	
地域連携センター	078 - 591 - 2934	・ 2935
スポーツセンター	078 - 591 - 1520	
アドミッションセンター	078 - 591 - 5229	
庶務担当	078 - 591 - 1651	（代表）
会計担当	078 - 591 - 2759	
施設担当	078 - 591 - 2350	
学長室	078 - 591 - 2897	
親学会執行委員会	078 - 591 - 3953	
大学祭実行委員会	078 - 591 - 3974	

2021 年度神戸親和女子大学 大学院要覧

発行日：2021 年 4 月 1 日

発 行：神戸親和女子大学
神戸市北区鈴蘭台北町 7-13-1

編 集：神戸親和女子大学
学生サービスセンター事務局教務担当

印 刷：三和印刷株式会社